「ノダ」構文に対応・応対する中国語の表現
―書き言葉の調査を中心に―

「一橋大学審査博士学位論文」

2022 年 9 月 30 日

一橋大学大学院言語社会研究科

博士後期課程

LD162002

王雪竹

目次

第一部

序章 *1*

1. 考察対象と目的 1

2. 考察方法 1

第 1 章　先行研究および本論文の立場 *2*

1. 先行研究 2

1.1 日本語の「のだ」の意味・機能に関する研究 2

1.2 「のだ」と関連する中国語の研究 4

2. 先行研究の問題点と本論文の立場 5

2.1 本論文の考え方と考察対象 5

2.2 応対する形式も考察対象にする理由・意義 7

3. 本論文における「のだ」の各分類に対する認識 7

3.1 本論文における各意味の定義 8

3.2 意味の重なりについて 11

4. 本論文の構成 15

第 2 章　日本語と中国語における「関連付け」の言語形式の使用差比較 *16*

1. 考察理由 16

2. 考察についての説明 17

3. 日本語と中国語における「理由・解釈」の言語形式の比較 19

3.1 日本語と中国語の「理由・解釈」の言語形式の使用条件 19
3.2 日本語と中国語における「理由・解釈」の言語形式の使用差 20

4. 日本語と中国語における「言い換え」の言語形式の比較 26

4.1 日本語と中国語の「言い換え」の言語形式の使用条件 26
4.2 日本語と中国語における「言い換え」の言語形式の使用差 29

5. 日本語と中国語における「発見・再認識」の言語形式の比較 35

5.1 日本語と中国語の「発見・再認識」の言語形式の使用条件 35

5.2 日本語と中国語における「発見・再認識」の言語形式の使用差 36

6. 日本語と中国語における「前置き・先触れ」の言語形式に関して 42

7. 日本語と中国語における「命令・認識強要」の言語形式の比較 43

7.1 日本語と中国語の「命令・認識強要」の言語形式の使用条件 43
7.2 日本語と中国語における「命令・認識強要」の言語形式の使用差 44

8. 本章のまとめ 48

第３章　「理由・解釈」の「のだ」に対応・応対する中国語 50

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況 50

2. 対応形式の詳細と考察 51

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳 51

2.2 原因・理由系 53
2.3「のため」系 58
2.4 順接系 60
2.5 “是”/“是…的”系 61
2.6 推測系 64
2.8 記号系 67
2.9 その他 70

3. 本章のまとめと結論 72

第 4 章　「言い換え」の「のだ」に対応・応対する中国語 74

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況 74

2. 対応形式の詳細 75

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳 75
2.2 言い換え系 76
2.3 記号系 80
2.4 その他 84

3. 本章のまとめ 88

第 5 章　「発見・再認識」の「のだ」に対応・応対する中国語 89

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況 89

2. 対応形式の詳細 90

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳 90
2.2 実例から見えた対応形式についての検討 93

3. 本章のまとめ 103

第 6 章　「前置き・先触れ」の「のだ」に対応する中国語 105

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況 105

2. 対応形式の詳細 106

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳 106
2.2「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」から「前置き・先触れ」の対訳形式を考察する 108
2.3「順接」系と「前置き・先触れ」の対応性の検討 109
2.4 推測系と「前置き・先触れ」の対応性の検討 110

3. 本章のまとめ 112

第 7 章　「命令・認識強要」の「のだ」に対応する中国語 114

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況 114

2. 対応形式の詳細 115

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳 115
2.2 モダリティ助詞・副詞系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討 116
2.3“是/“是…的”系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討 121
2.4“就”系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討 123
2.5 記号系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討 125
2.6 その他と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討 128

3. 本章のまとめ 129

第 8 章　「のだ」と“是…的”の対応性について 131

1. 本章の内容と目的 131

2. 「のだ」表現の成立 131

2.1「のだ」を「の」を中心的に見る 131
2.2「だ」の形成と性質 135

3. “是…的”構文の成立の考察 137

3.1 “是…的”に関する先行研究 138
3.2 “是…的”構文の考察 140
3.3 “是…的”構文の“是” 144

4. まとめ 146

第 9 章　「「スコープの「のだ」」」について 147

1. 「スコープの「のだ」」の独立性 148

2. 「～のではない、～のだ」の対応形式 150

3. 実質的に「のか」の「のだ」の対応形式 155

4. 本章のまとめ 158

第 10 章　本論文のまとめと今後の課題 159

1. 本論文のまとめ 159

1.1 各機能の「のだ」の対応形式ありかの状況 159
1.2 各機能の「のだ」の対応形式一覧 160

2. 今後の課題 163

引用文献 164

例文出典 167

序章

1.考察対象と目的

日本語の中で「のだ」という「不思議」な表現がある。なぜ「不思議」なのかというと、それ自体が表せる意味がとても広くて抽象的であり、「この場合では「のだ」を使うのが普通である」と分かっていても、なぜそうなのか、他の類似する表現とどのように異なるのかの説明がなかなか難しい。例えば「のだ」の意味機能に関しては野田(1997)では「関係づけ」とまとめており、名嶋(2007)でも関連性理論から述べている。なお「のだ」と他の類似項「わけだ」、「からだ」の区別に関しても久野(1973)、松岡(1987)の中で前の文の内容との関係の認定の面から述べている。これらの記述は確かに「のだ」の本質を網羅的に記述しており、母語話者の内省をはっきり反映していると考えられる。しかしこれらの記述は、「のだ」の使い方をそもそも無意識のうちに分かっていなければ理解するのが難しく、外国人学習者のように最初から文法記述に頼りながら日本語を学習するタイプの人にとっては必ずしも有効とは言えない。それがゆえ、外国人日本語学習者にとってこの表現はなかなか習得できなかったり、うまく使えなかったりする。筆者は中国人日本語学習者として、この問題はどのようにすれば良いのかを考えているうちに、日本語母語話者の考え方からではなく、中国語母語話者の考え方から「のだ」をいかに理解すれば良いのかを考えれば、別の記述の切り口が見えてくるのではないかと思った。よって、本論文では「中国語母語話者から見て、理解しやすい「のだ」の記述」を目指して考察を行う。

2.考察方法

上で述べたように、本論文の視点は、「中国人母語話者の考え方から「のだ」の意味機能を考える」ことである。そのため、「のだ」が自然な中国語の中でどのように理解(訳)されているのかをまず分かる必要がある。これを実現するためには、考察可能な形の一つとして、中国語の自然な書き言葉と話し言葉の中の「のだ」の訳し方を調べるのが有効であると考える。「自然な書き言葉と話し言葉」とは、特殊な修辞法や言葉の綴りを使わずに、日常生活になるべく近い書き言葉と話し言葉のことである。書き言葉で言えば小説や白書より、経済や自己啓発と言った一般教養類の商業本、話し言葉で言えば自然会話のことである。

従って、本論文では基本的な考察方法として、書き言葉から着手し、「日本語原作→中国語訳本」、「中国語原作→日本語訳本」の中から、「のだ」が使われているところの中国語訳を考察する。書き言葉で網羅できない、もしくは反映されていない「のだ」に使い方に関しては『日本語話し言葉コーパス』の例文や作例を使って、中国語の訳を考察する形を取る。

第１章　先行研究および本論文の立場

1.先行研究

1.1 日本語の「のだ」の意味・機能に関する研究

「のだ」の意味・機能に関しては研究が多く、観点もさまざまであるが、まとめて見ると大まかに次のような観点がある。

<1>二重判断説

国立国語研究所(1951)では「のだ」が「根拠のある説明、理由の提出、回想、二重判断、強調などの意を表す」と述べている。林(1964)は、「のだ」について、「ノは、いったん判断された内容を、もう一度なんらかの判断材料にするためのはたらき、いわば客体化、概念化のはたらきをする」、「ノ(ダ)は、かくて，二重判断の第二次の判断にあずかる」としている。また「のだ」の機能について、「ノ(ダ)は、説明用、説得用の言葉である。現実描写ではなくて、現場の事実について根拠とか理由とかを述べる。またその場にないことを相手にわからせようとする」と述べている。

<2>説明説

Alfonso(1966)では「のだ」について”the presence of NO DESU adds certain overtones of the statement, for it indicates some EXPLANATION, either of what was said or done, or will be said or done, and as such always suggests some context or situation”と述べている。

久野(1973)は「「ノデス」は、話し手が先に言ったこと、したこと、あるいは、話し手の状態(元気がないとか、外出の支度をしているとか)に対する話し手の説明を与える」と述べ、さらに「ノダ文の後ろに依頼文・命令文が来ると、しばしば、非難の意味合いを含んだ文となる」と述べている。

寺村(1984)は，「のだ」をムードの助動詞と位置づけ，「「のだ」の意味は，かなり一般的な「説明」を表すとしかいいようのないような，範囲の広いもの」と述べている。

奥田(1990)は「のだ」について、何かの説明に関与することを前提として認めた上、「のだ」が使われた文と前の文の関係について「原因、理由、動機、感情の源泉、判断の根拠、具体化・精密化・いいかえ、思考の対象的な内容、意義づけ、原因の結果、発見的な判断、必然の判断、評価的な判断、一般化の判断」を挙げている。

益岡(1991)は「のだ」に関して説明の機能があると述べた上、「説明の類型」に、「説明」を与えられた事態に対する理由や事情を述べる「背景説明」、与えられた文から何が帰結するかを述べる「帰結説明」があるとし、「背景説明」では「それにはどんな事情があったのか」、「帰結説明」では「そのことは何を意味するのか」といった課題が設定され、「のだ」文がその回答を示していると述べている。

〈3〉客体化説

三浦(1975)では「のだ」の「の」について「上の語の対象を実体的にとらえなおした＜名詞＞」であるとし、「の」は「独自の対象を持っていないから、同じ語でもその上の語の対象いかんでその内容はそれこそ千差万別になる。それゆえに上の語と切りはなさずに、上の語とのつながりでその内容を取り上げなければならない」と述べている。

佐治(1991)は、「「のだ」は，それの前にある述語によってあらわされている判断が，その判断の出てくる状況から，そのままで成り立つことの表現であり，前の述語の判断を確かなものとして認定する表現であると言っても良い。もっと簡単に，客観的な真実として述べるものだ，とも言えよう。そこから，解説，説明，説得的，な感じも出てくるのである」と述べている。これを受け，佐治(1997)は「のだ」の「中心的性質」を「前提事態への連関の表現」，「既定事態化の表現」，「品定め的判断の表現」の三点にまとめている。

〈4〉既定命題説

三上(1953)は、「のだ」の「の」は「ガノ可変」の性質を持っていないことを根拠に、「のだ」は「準体助詞＋だ」の組み合わせではないことを指摘している。そしてその中で、三上(1953)は「のだ」を「何々スル，シタ」を単純時にしているのに対し，「何々スル，シタ＋ノデアル，アッタ」を反省時と呼び，ノデアルの機能をテンス扱いにし，その意味あいを「連体部分「何々スル」を既成命題とし，それに話手の主観的責任の準詞部分「ノデアル」を添えて提出する」と述べている。

その後、国広(1992)は三上(1953)の観点を基本的に受け入れた上で、「のだ」について「ある現状を認知するという主体的行為を行ない、それと関連があると“主観的に判定される”既定命題を「のだ」の前に提示する」ことが「のだ」の意義素であると述べている。

〈5〉内実・背後の事情説

田野村(1990)は「のだ」について、「ある事柄αを受けて、αの内実はこういうことだ、αの背後にある事情はこういうことだ、といった気持ちで命題βを提出する」ことが「のだ」の本質であるとしている。「のだ」文の中にある具体的なαを受けているとは考えられない場合があるが、その場合は、「すべての者には必ずしも容易には知り得ないにせよ、すでに定まっていると想定される事情αが話し手の念頭に問題意識としてあり、それがβである(かどうか)ということが問題にされている」と述べている。また、田野村(1990)は「のだ」の特徴として、「承前性」(「のだ」文の発話に際し、何らかの先行発話や状況が存在し、それを受けて「のだ」が使用される場合が多いこと)、「規定性」(提示する命題の真偽が話し手にとって既に定まったものであること)、「披瀝性」(提示する命題内容が聞き手にとって容易に知り得ない内容のものであること)、「特立性」(他の命題から提示する命題を際立たせるものであること)の4つがあると述べている。

<6>関連づけ説

松岡(1987)は，「「のだ」は，ある事柄Ｐとある事柄Ｑとの間に話し手が何らかの関係を認め，そしてそれを話し手の責任において主張する時に用いられる」と述べ，「のだ」が主張するＰとＱとの具体的な関係に関しては，「因果関係」，「対比」，「表裏」の三種が中心的であると述べている。

野田(1997)は，「関係づけ／非関係づけ」，「対事的／対人的」の基準を用い，「のだ」の意味・機能を「関係づけ対事的「のだ」」，「非関係づけ対事的「のだ」」，「関係づけ対人的「のだ」」，「非関係づけ対人的「のだ」」に分類している。

庵他(2001)は，前提が存在するか否かによって，「のだ」を「関連づけ」を表すものと表さないものに分け，「関連づけ」を表すものは「理由，解釈」，「言い換え」，「発見」，「再認識」，「先触れ」，「前置き」があり，「関連づけ」を表さないものは「命令，認識強要」があるとしている。

名嶋(2007)は，関連性理論の視点から，「のだ」が必要な場合を「事態間の関連性の認識における齟齬を回避する」ためであるとし，ある事態に関するスキーマ的知識から外れた周辺的事態が命題内容との関連性が示される時に「のだ」が使われると述べている。

石黒(2008)は文章構造の作りに注目し「のだ」を文末の接続詞として捉え，その機能について「文章の流れにタメをつくる」としている。

1.2 「のだ」と関連する中国語の研究

「のだ」に関連する中国語の研究は，“是…的”構文との対照研究が多く見られる。

“是…的”構文と「のだ」構文の対応についての研究は、杉村(1980、1982)にさかのぼることができる。杉村(1980、1982)は、“是…的”構文の“的”の性質を明らかにすることを主な目的としているものであるが、その中で“是…的”構文と「のだ」構文について、「形式的に意外な程の平行関係を呈した(杉村 1982)」と述べ、両者の相違について取り上げている。そして“是…的”構文の“的”は「離心的な成分」、「のだ」の「の」は「内心的成分」であることを指摘している。また、杉村(1980、1982)の中では、状況解説に用いられる“是…的”と「のだ」が対応すると述べている。

王(1987)では、“是…的”構文と「のだ」構文の対応性を量的に検証し、両者が対応するのは全体の十分の一に過ぎず、対応しない文の中の四分の三は中国語では言語形式として表せない、また、残りの四分の一は“是(だ)”、“了(完了の「た」)”や終助詞として訳せると指摘している。

王(1997)では、「のだ」構文から考察を行い、「のだ」構文の対応として、“是…的”構文だけではなく、“是…”構文も考えに入れるべきであると述べている。

井上(2003)では、“的”と「の」の名詞化の仕組みの異なり、内包成分のテンスの有無、陳述する事態の已然性と未然性の異なり、という点から“的”構文と「のだ」構文を説明している。

劉(2012)では、「のだ」構文と“是…的”構文の前後文脈との関係に着目し、論述文における両者の機能について考察している。その中で、「のだ」構文は、先行文脈との関係において、「対比」と「結論の提示」の機能として働くことが多く、後続文脈との関係において「対比」と「問題設定」の機能があるとしている。一方、“是…的”構文は、先行文脈との関係において、「対比」と「まとめ」の機能があり、後続文脈との関係において「対比」と「主題導入」の機能があると述べている。劉(2012)は、“是…的”構文の分析において従来あまり重要視されてこなかった前後文脈との関係に着目して分析を行なっていることは大きな意味を持つと考えている。しかし劉(2012)の考察は、「のだ」構文と“是…的”構文の本質を「焦点化標識」として考えた上での結論である。多くの先行研究で指摘されているように、“是…的”構文の中で、焦点とされる成分が“的”の後ろに置かれる場合が多く観察される、という事実がある一方、“是…的”構文は果たして「焦点化標識」であるかということについてまず再考察する必要があると考える。

それに対し、王(2017)では“是…的”構文の「焦点化標識」説に異論を呈し、通時的な観点から“是…的”構文と「のだ」構文の成り立ちから考察している。そして「のだ」構文の「の」と“是…的”構文の“的”について、両者はともに名詞化標識であることを述べた上で、“的”と「の」の名詞化の性質の異なりを「形式的な束縛」の有無、“的”と「の」の指示性の有無と論じている。

2. 先行研究の問題点と本論文の立場

2.1 本論文の考え方と考察対象

以上，「のだ」の意味・機能とそれに関連する中国語の研究について概観したが，先行研究から少なくとも次のようなことが分かる。①解釈の異なりはあれ，「のだ」の根本的な機能は既知の情報との関連づけ[1]を示すことであると言える。②「のだ」は中国語としてあまり言語化されない。③「のだ」と“是…的”は実際対応しない場合が多い。④“是…的”や“是”以外の「のだ」の対応形式はまだ明らかにされていない。

②、③、④から分かったことは、「のだ」という言語形式からそれに直接対応する中国語を探すと、対応形態がないことが多いということである。つまり、対照研究を行う立場からいうと、「のだ」を単に単独の言語単位として研究を行う場合、対応形式がない部分はいつになっても研究できないままの状態になり、そこから何かの発展や進捗を得るのが難しい。しかし、「のだ」というのは、それ単独で不変の意味が成すものではなく、文中に置かれて文脈乃至呼応する言葉の意味があって初めて文中における機能が明確になるものである。そのため、「のだ」の対照研究を考える場合、「のだ」に対応する形式だけではなく、広く「ノダ」構文全体がどのような言語表現、論理性で表されているのかを考察する必要もある

[1] 先行研究によって「関係づけ」と「関連づけ」という用語が使われているが，本稿では「既知情報との関わりがあることを示す」という意味で「のだ」の機能を「関連付け」と呼ぶことにする。

と考える。本論文のいう「ノダ」構文とは、「のだ」が現れた言語的環境、意味上の前件と後件があっての「のだ」文の一まとまりのことを指している。

従って、本論文の考え方では次のような内容が考察対象に入る。

〈1〉「ノダ」構文において、その言語形式が直接「のだ」の意味と対応するもの。

〈2〉「ノダ」構文において、その言語形式が直接「のだ」の意味と対応するかどうかは言いきれないが、訳文の中で他の成分が全て一対一で訳されている中、ある成分Aだけが訳文の中の特有のものになっており、しかもそれが意味連結に必要な成分である場合、成分Aは対照言語の中で、「ノダ」構文が表す意味上の論理性を代替的に表していると考えられる。その場合、本論文では成分Aを「ノダ」構文の意味機能を言い換えたものとして、広く「ノダ」構文に応対する形式と呼ぶ。

〈1〉と〈2〉の意味を具体的に例(1)と(2)で示す。

(1)　どんなに数字やデータをもとに緻密ちみつに分析しても、読みが外れるときはあります。それを想定して、読みが外れたときの対策までを読んでおくように心がけたいものです。二重三重の読みが必要なのです。[2]

（『ザ・ラストマン』）

不管对数据进行多么缜密的分析，都有可能做出错误的判断。在这种情况下，应该针对可能出现的失败提前准备相应的措施，也就是说需要两手甚至三手准备。

(2)　イチロー選手が大リーグでも長年結果を出し続けている１つの要因は感情のコントロール技術が卓越しているからなのは言うまでもないでしょう。

絶不調のイチロー選手が優勝を決する決定的な場面に差し掛かったとき、やはり巨大なプレッシャーとネガティブな思考が襲ってきたのです。

（『マイナス思考』）

棒球名宿铃木一朗在大联盟能长年保持优秀战绩的一个主要原因，毋庸置疑是他卓越的情感掌控技术。据说一朗被巨大压力和消极想法击中、完全不在状态时，正是决赛中的决定性时刻。

例(1)では、「どんなに数字やデータをもとに緻密ちみつに分析しても、読みが外れるときはあります。それを想定して、読みが外れたときの対策までを読んでおくように心がけたいものです。二重三重の読みが必要なのです」と訳文の“不管对数据进行多么缜密的分析，都有可能做出错误的判断。在这种情况下，应该针对可能出现的失败提前准备相应的措施，也

[2] 本論文では「ノダ」構文の例文を示す場合、「ノダ」構文の意味範囲を明確に示すために「のだ」の最小限の前件を「_____」、最小限の後件を「～～～～～～」、「のだ」を枠で示す。一方、「ノダ」構文に対応・応対する言語形式に関しても、最小限の前件を「_____」、最小限の後件を「～～～～～～」、対応・応対する言語形式自身を枠で示す。

就是说需要两手甚至三手准备”において、“全ての成分が原文と一対一に訳されていると考える。その中で、言い換えの「のです」の意味を表したのは中国語の中でも言い換えを表す言葉“也就是说”である。故に、これは上述した考察内容<1>に属する。

例(2)では、訳文において、“据说”という成分だけが原文と一対一の関係になっていないが、“据说”はもともと原文の中の「のです」と同じように理由・解釈を表す言葉ではないため、「のだ」の意味と明らかに対応しているかどうかは言いきれない。しかしその言語環境の中で、「ノダ」構文が表した原因釈明の論理性を、中国語の中で「こう言えるのは横から聞いた話なのだ」のように言い換えている。このような場合、“据说”が「ノダ」構文に応対する形式になっていると考えられる。

2.2 応対する形式も考察対象にする理由・意義

今までの「のだ」の対照研究では、大体上記の<1>が考察・研究対象になり、<2>はあまり考えられていない。それは、一対一の意味対応の考察が出発点になるのであれば正しい。しかし本論文ではあえて<2>を考察対象にする。理由は上にも少し触れたが、それに付け加え、例(1)と(2)の前件と後見の範囲の異なりからも分かるように、日本語と中国語では似たような意味を表す言葉であっても、意味範囲や機能面を含めて完全に一致しない場合がある。それは、日本語と中国語の言語使用の論理性、習慣がそもそも異なることがあるからである。そのため、対照研究で「対応」ということについて考える際に、意味・機能の対応だけではなく、A の言語の中では a のような論理性の表し方が自然で、B の言語の中では b のような論理性の表し方が自然であることも視野に入れて、A の言語ではこの場合理由・解釈の形式を使うのが自然なのに対し、B の言語では順接の形式を使うのが自然というような結論が得られたらそれもある意味での貢献とは言えないでしょうか。本論文では<2>を考察対象に入れたのも、「のだ」という日本語の表現を日本語と中国語で考える際に、言語使用の論理性、表現の習慣が異なることが前提になる中で、それぞれの言語の中で自然な表現はなんなのかを考察することである。

とは言え、本論文の考察の中心は、実例から実態を明らかにすることであるため、上述した論理性の異なりの追及まではできない。しかし本論文の内容は、日本語と中国語の「ノダ」構文に対する考え方の論理性の異なりの研究の基になり得るのではないかと考える。

3. 本論文における「のだ」の各分類に対する認識

以上、先行研究と問題点について概観した。では、本論文はどのように「のだ」について考察していうかというと、本論文では文脈及び文と文の関係に着目していくため、関連付けの視点から「のだ」の機能を記述している庵他(2001)の分類の枠組みを援用する。しかし、本論文における各分類の範囲は、必ずしも庵他(2001)の本来の分類意図と一致しない可能性がある。そのため、ここではまず本論文における各分類の定義について明確に記述する。

3.1 本論文における各意味の定義

庵他(2001)における「のだ」の分類は次にようである[3]。

①理由・解釈

②言い換え

③発見

④再認識

⑤先触れ

⑥前置き

⑦命令・認識強要

①「理由・解釈」の「のだ」とは、例(1)、(2)、(3)のようなものである。

(1)昨日は学校を休みました。頭が痛かったんです。

(2)(デパートで泣いている子どもを見て)きっと迷子になったんだ。

(3)A ：これから飲みに行かない？

B：ごめん。明日早いんだ。

庵他(2001)の記述では、(1)は先行する文の理由を述べるもので、(2)は先行する文がないが、「のだ」を含む文は状況に対する話し手の解釈を表す。(1)のような理由を表すものは「からだ」と置き換えられるが、(2)のような解釈を表すものは「からだ」と置き換えられない。なお、「理由・解釈」の「のだ」の「P。Q のだ。」の意味は「P。それはどうしてかと言うと Q。」と表せる。

本論文の考えている「理由・解釈」は、基本的に上の記述に沿ったものである。特に文中の「のだ」の意味を判断しているとき、「P。Q のだ。」の意味が「P。それはどうしてかと言うと Q。」と表せるかどうかを一番大きな基準としている。ただし、(1)のような文において、全ての「のだ」が「からだ」と置き換えられるかどうかについてはそれほど厳密にしない。なぜかというと、実際の長い文章の中で見ると、他のたくさんの要因によって置き換えが自然の場合と不自然の場合があると想定しているからである。

②「言い換え」の「のだ」とは、例(4)、(5)のようなものである。

(4)明日は入社式だ。明日からは社会人なのだ。

(5)彼は 16 歳から 18 歳までカナダにいた。カナダの高校で勉強したのだ。

---

[3] この意味の「のだ」と同じ機能を持つものに「のだろう、のかもしれない、のにちがいない」があるが、本論文でそれらを考察対象にしなかったのは、庵(2021)で述べられたように、それらのものは、「のだ＋だろう」のように、「のだ」と他のモダリティを重ねてできたものであり、意味上「だろう」、「かもしれない」、「にちがいない」本来の意味が二次的に現れているところにある。本論文では「のだ」の本来の意味機能の考察に限定したいため、そのような二次的な意味を考察対象にしない。

庵他(2001)の記述における「言い換え」の「のだ」とは、前の文と「のだ」の文が意味的に等価するものであり、「のだ」の文は前の文の内容を要約する場合が多く、前の部分で分からなかったことが「のだ」の文を見ることで明確になることがあるというものである。

本論文では「言い換え」に関しては2つの形があると理解している。一つは、「のだ」文の内容の意味が前の文の内容と等価するものである。もう一つは、庵他(2001)の述べている「前の部分で分からなかったことが「のだ」の文を見ることで明確になることがあります」というものに関しては、それはつまり言い換えは、前の文の内容と完全に等価するのではなく、前の文の内容についてある程度新しく情報を付け加えているように捉えている。例えば例(5)に関していうと、例え前の文は「彼はカナダにいた」と述べたとしても、その人は高校に通っているという情報は読み取れない。「高校に通っていた」ことは、「のだ」の文があって初めて知らされた情報である。つまり、些細な程度であるとしても、このような「のだ」文は前の文の内容に対して情報を付け加えていると本論文は考える。従って、本論文の考える「言い換え」の「のだ」とは、前の文の内容と完全に等価するものと、前の文の内容を情報補足するものの2つがある。実際の文章の中では、情報を補足するものの方が完全に等価するものより多いのではないかと想定している。

③「発見」の「のだ」とは次のようなものである。

(6)(それまでわからなかった機械の使い方がわかったとき)そうか。このボタンを押せばいいんだ。

(7)(掲示板を見て)明日会議があるんだ。

庵他(2001)の記述における「発見」の「のだ」とは、(6)のようにそれまで関連性が分からなかったものが分かった場合や、(7)のように具体的なものではなく、情報などを発見した場合のものである。本論文の考えは基本的にこの記述と一致する。そして、このような「のだ」は多くの場合、「なるほど」と共起することが多い。これも文を判断するときの基準の一つにしている。

④「再認識」の「のだ」とは次のようなものである。

(8)(会社を出ようとしたら雨だった)今日は夕方雨が降るんだった。

(9)この道はよく渋滞するんだった。

庵他(2001)の記述における「再認識」の「のだ」とは、その情報は発話時に初めて認識したものでなく、以前から知っていたがある時から忘れてしまい、そしてあるきっかけでまた思い出した時の「のだ」のことである。

本論文では「再認識」の「のだ」についてこの定義に従う。そして、本論文の理解としては、「再認識」の「のだ」は「発見」の「のだ」と同じくある事柄、情報に対してそれとの

関連性に気づいた時に使うものである。異なるのは、「発見」は、その事柄、情報は発話時に初めて知ったのに対して、「再認識」は以前から知っていた情報が一度頭から抜け出したというところである。本論文では、「ある事柄、情報に対してその関連性に気づいた時に使うもの」というところに重心を置き、「発見」の「のだ」と「再認識」の「のだ」を同じレベルのものとして認識する。

⑤「先触れ」の「のだ」とは例(10)(11)のようなものである。

(10)先生、お話があるんです。お部屋に伺ってもよろしいでしょうか。

(11)A ：実は田中さんと結婚するんです。

B ：それはおめでとう。

A：それで、先生に仲人をしていただきたいんですが。

庵他(2001)における「先触れ」の「のだ」とは、「のだ」が関連付ける文が「のだ」文の後ろに出てくるものである。「のだ」を含む文が最初に現れると聞き手/読み手はその文が関連付けられる対象を知ろうとし、後続文への関心が高まる効果がある。そして「先触れ」の「のだ」と似た機能を持つものとして、次の「前置き」の「のだ」がある。両者は基本的に同じ機能を果たしているが、異なるのは「先触れ」は文を言い切っているのに対し、「前置き」は「～(のだ)けど」節の形であるというところである。

⑥前置き

(12)駅前で個展を｛？やってますが／○やってるんですが｝、よかったら見にきてください。

本論文における「先触れ」と「前置き」の「のだ」は上の記述に従う。そして、本論文では文の形より、文の意味機能に注目しているため、「先触れ」と「前置き」の「のだ」を同じレベルのものとして認識する。

最後は、⑦「命令・認識強要」の「のだ」とは次のようなものである。

(13)さっさと帰るんだ。

(14)こんなに一生懸命勉強したんだ。試験に落ちるはずがないよ。

(15)君は大学生なんだ。もっと勉強しなさい。

（上記例文全て庵他 2001 から）

庵他(2001)における「命令・認識強要」の「のだ」は、関連付けを表さないものである。用法はまず、(13)のように命令形と同じくらい直接な言い方で目下の相手を命令するものと、そして(14)、(15)のように聞き手が知っていることを改めて認識させ、相手に対する激励や非難を表すものがある。

本論文では「命令・認識強要」の「のだ」について庵他(2001)の記述に同意しながらも、もう一つの使用範囲を加えたい。それは、相手が知らないことであっても、話し手は自分の意見、認識を強く伝えたい、相手に認識してもらいたい場合である。つまり、本論文における認識強要は、相手はその情報につて予め知っていても知らなくても構わない。話し手が自分の意思を強く通したいのであれば「命令・認識強要」の条件を満す。この用法は、書籍の中に出る頻度は低いと想定している。

以上、第１章では、先行研究と本論文の立場、各「のだ」の機能に対する定義について明確に述べた。次章からはこの立場の上で考察を進めていく。

3.2 意味の重なりについて

文論における「のだ」の各定義と判断基準について見てきた後、次に明確にしたいのは各分類における範囲の重なりがあるかどうか、そして本論文ではどのように処理しているかということである。

この問題を検討するに至った理由は、実際の文を判断している時、「両方の意味に取れる」という問題があったからである。具体的には次のような重なりが見られた。

①「スコープの「のだ」」と「理由・解釈」、「言い換え」の意味の重なり

(16)【「スコープ」と「理由・解釈」の重なり】

京セラではコンパはもちろん、すべての催しで全員参加を求めてきた。稲盛氏はこう語る。「(前略)従業員みんなが参加できるような場をつくろうと、コンパをする、運動会をする、社員旅行をする、慰労会をするといったような懇親の場づくりに気を配ってきました。ところがそのような催しをすると、必ずといっていいほど『若い連中と一緒になってドンチャン騒ぎをするのは面白くない』というような人が出てきます。しかし私は『どのような催しであれ、全員参加でなければ意味がない、ただの遊びで集まってくれと言っているのではなく、一緒にそういう雰囲気を味わうことが大事なのだ』と言って、すべての催しは『全員参加』を鉄則としました」

(『稲盛流コンパ』)

(17)【「スコープ」と「言い換え」の重なり】

未来の可能性に目を向けると、それまでは意識の外にあった新しい光景が視野に入ってくる。

過去や現在をそのまま受け入れるのではなく、まず未来に目を向け、新しい可能性を見いだしたら、そこからかえりみて過去や現在を否定し、新しい光景のなかで挑戦を始めてみることです。

セブン銀行を創業するときも、既存のＡＴＭは一台八〇〇万円以上して、その延長線上では確かに経営的に成り立たせるのは困難でした。

しかし、「セブン‐イレブンの店舗にＡＴＭがあれば利便性は飛躍的に高まる」という未来像が明確になったことで、一台八〇〇万円以上かかるコスト構造が徹底して問い直され、まったく別の視点から開発を進めて一台二〇〇万円程度ですむＡＴＭが実現しました。

ここで考えるべきなのは、過去の延長線上で考えるのと「未来を起点にした発想」のどちらが人間にとって本来的な生き方かということです。

過去の延長線上では「これまでこうだったのだから、これからもこうなるだろう」と、どこか冷めた傍観者の生き方になりがちです。

そういう生き方をする人は、未来の可能性を見ようとしないのではありません。視界に過去の経験や既存の常識といった“フィルター”がかかり、見ようとしても見えなくなってしまうのです。

（『我がセブン秘録』）

(16)、(17)では「～のではなく、～のだ」及びそれに相当する形になっているため、基本的に「スコープの「のだ」」に該当する[4]。しかし、意味的に考えると、(16)の「雰囲気を味わうことが大事」は「どのような催しであれ、全員参加でなければ意味がない」の理由を説明しているのも明らかである。同じ理由で、(17)は「視界に過去の経験や既存の常識といった“フィルター”がかかり、見ようとしても見えなくなってしまう」ということは「そういう生き方をする人は、未来の可能性を見ようとしないのではありません。」の内容を別の視点から記述しているものであるため、スコープ以外「言い換え」の機能を備えていると考える。

②「理由・解釈」の「のだ」と「発見」の意味の重なり

(18)　『新刊ニュース』の編集においても、もし、わたしが過去の延長線上で新刊の紹介中心の内容で編集を続けていたら、文豪に誌面に登場願うなど、想像もしなかったでしょう。谷崎潤一郎さんなど、自分の世界の外にいる、はるかに遠い存在でした。

これに対し、「ホッと息抜きができる読み物をそろえた冊子があれば、読書家もお金を出して買いたくなるのではないか」という未来の可能性が見えたとき、それまであまり意識することのなかった著名な作家や文化人の存在が新た

[4] スコープの「のだ」については第８章で単独で取り上げるため、ここでは詳述を省く。

に意味を持つようになり、彼らに登場していただいて魅力ある誌面をつくろうというアイデアが生まれました。

そして、それまで意識の外にいた方々がどんどん視野に入ってきて、候補として浮かんでくるようになりました。

セブン‐イレブンとの出合いもそうです。

最初、アメリカへ海外研修に行った際、カリフォルニアの道路脇に立つセブン‐イレブンに立ち寄ったときは、食品や雑貨が並んだスーパーを小型にしたような店内を見て回りながら、「アメリカにもこんな小さな店があるんだ」といった程度の印象でした。

（『我がセブン秘録』）

この例では、「アメリカにもこんな小さな店があるんだ」という文を単独で見ると、こんな小さな店を発見したことについて話し手が自ら述べることになるため、「発見」の「のだ」である。しかし文脈の中においてみると、「アメリカにもこんな小さな店があるんだ」という言葉を発したのは「食品や雑貨が並んだスーパーを小型にしたような店内を見て」いたから、状況に対する解釈にもなる。

③「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」と「命令・認識強要」の重なり

(19)　ＣＣＣがいま進めているプロジェクトの一つに、「梅田 蔦屋書店」がある。関西の中心点であるＪＲ大阪駅に接する大阪ステーションシティ ノースゲートビルディング西館の、９階ワンフロアを使って展開する、新しい商業施設だ。２０１５年の春、そこには徹底的に〝居心地〟にこだわった空間が生まれる。フロア面積は１２２８坪。極論すれば私はそれをまるごと、〝カフェ〟にしてしまおうと考えている。ショッピングビルの中にあるとはおよそ思えない、公園とカフェが融合した場所。そこに行けば、ゆったりとくつろぐことができ、だから心も体も美しくなり、素敵な人と出会える。カフェには書店が併設され、店内で興味をそそる本を見つけたら、コーヒーを味わいながらそれにじっくりと眼を通すこともできる。つまり梅田で働くビジネスパーソンにとっては知的生産性を上げ、かっこよく仕事ができる、プライベートな書斎にもなり得る空間……。

これが実現すれば、駅ビルの概念が変わる。私はそう確信している。そして駅ビルの概念が変われば、駅そのものの概念もまた変わる。日本全国に駅というものは、ＪＲだけに限定しても、５０００弱あるのだ。その一つひとつが、人々にとって居心地いいカフェや公園に変わるとしたら……。それは静かな、しかし確かな革命だろう。日本人のライフスタイルの革命だ。

（『知的資本論文』）

(20)　これは、おそらく綿森さんがつくった言葉でしょう。綿森さんは小柄な人で、海外に行くと「He is small, but he is a great boss.」などと言われるような方でした。後に日立製作所の副社長も務めています。

　誰かが昇進したときに、「これからは、お前がこの課のラストマンなんだぞ。お前が責任を取る意識を持ってないと、すべてが始まらない。部下に仕事をやってもらうのだとしても、最終責任はお前が取れよ。最終的な意思決定はお前がやるんだぞ」というのが、綿森さん流の激励の仕方でした。

　それ以来ずっと、私はラストマンであろうと努めてきたのです。

（『ザ・ラストマン』）

例(19)では「5000 弱ある」ということは、話し手が聞き手に強く認識してもらいたいことであるため、「認識強要」にあたると考えられる。一方、前の文と合わせて見ると、「日本全国に駅というものは、ＪＲだけに限定しても、５０００弱あるのだ。」という文は「そして駅ビルの概念が変われば、駅そのものの概念もまた変わる。」ということができる理由について答えているようにも捉えられる。つまり、前の文について理由を述べているのである。例(20)も同様で、単独で「最終的な意思決定はお前がやるんだぞ」を見ると、相手に改めて自分の責任について認識される言い方であるため「認識強要」にあたるが、前の文「部下に仕事をやってもらうのだとしても、最終責任はお前が取れよ。」と合わせて見ると、前の文の内容を別の言い方で重複しているため、「言い換え」の「のだ」でもある。

このように、上述した７つの「のだ」の分類は、実際の文で見ると、両方の意味に取れるようなものがある。どれとどれが重なるか、具体的にいうと、①「スコープ」の意味とその他の各種の意味、②「理由・解釈」、「言い換え」と「発見」、「再認識」、「命令・認識強要」が重なりやすいと考える。

なぜこのような重なりが現れるかというと、「スコープ」→「理由・解釈」、「言い換え」→「発見」、「再認識」、「命令・認識強要」の定義は、統語上の定義から基本的な統語機能的な定義、そしてモダリティという順番に、機能が徐々に複雑になっていくようなものである。つまり、もし「理由・解釈」、「言い換え」は文の一次的な意味としたら、「発見」、「再認識」、「命令・認識強要」は一次的な意味を備えた上で二次的な意味を有するものと考えてよい。従って、もしその「のだ」は二次的な意味を持つ場合、一次的な意味と二次的な意味が同一の「のだ」文に現れるのである。

では本論文ではこのような状況をどのように判断するかというと、二次的な意味を最優先に、二次的な意味がない場合には一次的な意味を優先に、それもない場合にはスコープの「のだ」として判断する方法を取る。つまり、本論文では一貫として例(16)の「のだ」は「理

由・解釈」、(17)は「言い換え」、(18)の「のだ」は「発見」、(19)、(20)は「命令・認識強要」として捉える。

4. 本論文の構成

以上、本論文の立場と考察する主な内容について述べたが、本論文の主な着眼点は３節で述べたいわゆる「関連付けの「のだ」」である。「関連付けの「のだ」」は、それ自身は機能が種類豊富であるがゆえに、中国語の対応形式もたくさんのバリエーションがあると想定され、それらのバリエーションの全貌を事実に基づいた考察によって明らかにすることには価値があると考えられる。しかし、全貌を明らかにするという意味で考えると、関連付けの「のだ」が分かったのにスコープの「のだ」の全貌が分からないと、もしくは「のだ」は全ての機能において対応形式がバリエーション豊富なのかということが分からないと、全貌を考察する目的は結局果たされない。このような意味でも、関連付けの「のだ」を考察すると共に、スコープの「のだ」はどうなるかも平行的に記述必要があると考える。そのため、本論文では構成として、主要な考察対象を「関連付けの「のだ」」に置きながら、「スコープの「のだ」」も取り入れ、全体を「ノダ」構文の観点から考察を行う。

章立てとしては、まず第 2 章で「ノダ」構文とは別に、まず「関連付け」という機能について、日本語と中国語で書かれた文章の中で、どの形式がどのくらい使われているかという関連付けの用法についての全貌を明らかにした上で、第３章から第７章で関連付けの「のだ」に絞って、日本語と中国語においてどのくらいの使用実態であるか、対応形式は何なのかについて考察する。その後、第８章と第９章ではそれと対照的に、スコープの「のだ」は何が異なるのか、対応形式はどのようになっているのかについて述べる。第 10 章では全体の内容をまとめ、本論文の結論について整理する。

第 2 章　日本語と中国語における「関連付け」の言語形式の使用差比較

1. 考察理由

前章で述べたように、「のだ」の本質的な意味は「関連付け」と認識してよい。しかし、「関連付け」は非常に広い意味合いであるため、他言語と対照比較するには考察範囲の明白化がまだ不十分である。そのため、本論文では運用の観点から記述行った庵他(2001)の分類を援用し、まずは日本語と中国語における「関連付け」の言語形式の使用差を比較する。

なぜ「関連付け」の言語形式の使用差を比較する必要があるかというと、本論文では次章以降、各意味・機能の「のだ」に対応する中国語を考察するのであるが、その際、必ずその「のだ」は「言語形式として訳されているかどうか」、そして該当作品において、どのくらいの割合で訳されているのかの事実から述べる。その割合は何を意味できるのかをはっきりさせるために、まずその機能は両言語においてそもそも言語形式として書き出す頻度は同じなのかを説明しないといけない。例を挙げると、仮に「理由・解釈」の「のだ」は各作品において言語形式として訳される割合は 1 割しかなかった場合、この事実だけを見ると、「理由・解釈」の「のだ」は中国語における対応形式は少ないという結論になりかねない。しかし、もしそもそも「理由・解釈」という関連付けは日中両言語において、言語形式を用いて表現する頻度が異なるのであれば、1 割の対応度合いは必ずしも低いとは言えなくなる。つまり、前提が分かった上で考察を行うと、結論が変わってくる可能性があるのである。このような考えを用い、本章ではまず各機能の日中の使用頻度を見ることにする。

ここでは再び庵他(2001)における「のだ」の意味分類を挙げる。

①理由・解釈
②言い換え
③発見
④再認識
⑤先触れ
⑥前置き
⑦命令・認識強要

③の「発見」、④の「再認識」は事実に気づくのは初めてかどうかというところが異なるものの、いずれもある事件、事実に気づくことを表すため、本論文では同じ機能としてまとめて考察する。同じ理由で、「先触れ」と「前置き」も、「のだ」の後に「。」来るか別の節が来るかの違いしかないため、本論文では両者をまとめて一緒に考察する。従って、本論文で考察する書類は、「理由・解釈」、「言い換え」、「発見・再認識」、「前置き・先触れ」、「命令・認識強要」の 5 つになる。

次節から考察に入る。

2. 考察についての説明

前にも言及したが、日本語と中国語の「関連付け」を表す言語形式の差を明らかにするためには、自然な日本語と中国語を調査する必要がある。したがって、本論文では原作が日本語、中国語の書籍の中から、原作の中の理由・解釈の言語形式と訳文の中の理由・解釈の言語形式の数を調べ、文あたり[5]の頻用頻度を計算する。計算結果を比べた結果が本稿の結論になる。

調査に使われる書籍は全て 2000 年以降、経営、教育、自己啓発、投資をテーマとした特殊な書き方をしていない一般教養類のものである。以下表 1 から表 4 で調査書籍の概況を説明する。

表 1 調査書籍の概要(日本語原作)

書籍名	文字数	「。」	「！」	「…」	「？」	文の数
「やめる」習慣	69,780	1,603	22	8	91	1,724
アメーバ経営	99,050	1,688	0	1	0	1,689
ザ・ラストマン	109,478	2,238	13	5	26	2,282
マイナス思考からすぐに抜け出す 9 つの習慣	74,453	1,543	46	6	181	1,776
わがセブン秘録	92,839	1,742	0	8	2	1,752
生き方	109,786	2,116	1	14	1	2,132
知的資本論文	59,652	1,380	5	25	61	1,471
稲盛流コンパ	73,976	1,807	84	26	1	1,918
合計	689,014	14,117	171	93	363	14,744

[5] 本論文における「文」とは、「。」、「！」、「…」、「？」を持って終わる一定の長さを有する文字列のことである。

表 2 調査書籍の概要（日本語原作の中国語訳本）

書籍名	文字数	「。」	「！」	「…」	「？」	文の数
「やめる」習慣	70,924	1,842	11	12	102	1,967
アメーバ経営	81,443	1,837	45	3	97	1,082
ザ・ラストマン	80,409	2,051	5	6	40	2,102
マイナス思考からすぐに抜け出す 9 つの習慣	48,911	1,092	18	30	57	1,197
わがセブン秘録	82,518	1,681	6	14	62	1,763
生き方	82,764	2,168	35	24	110	2,337
知的資本論文	59,652	1,380	5	25	61	1,471
稲盛流コンパ	60,779	1,722	49	72	86	1,929
合計	567,400	13,773	174	186	615	13,848

表 3 調査書籍の概要（中国語原作）

書籍名	文字数	「。」	「！」	「…」	「？」	文の数
参与感	134,629	3,146	34	4	40	3,224
新零售	139,899	2,408	14	2	307	2,731
蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起	184,580	3,697	23	31	27	3,778
蚂蚁金服	296,316	5,103	27	11	66	5,207
腾讯传	333,209	6,666	10	1	23	6,700
合計	1,088,633	21,020	108	49	463	21,640

表 4 調査書籍の概要（中国語原作の日本語訳本）

書籍名	文字数	「。」	「！」	「…」	「？」	文の数
参与感	139,520	3,146	34	12	40	3,232
新零售	145,393	2,408	14	6	307	2,735
蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起	187,330	3,674	19	39	26	3,758
蚂蚁金服	302,056	5,103	27	33	66	5,229
腾讯传	340,618	6,666	10	3	23	6,702
合計	1,114,917	20,997	104	93	462	21,656

3. 日本語と中国語における「理由・解釈」の言語形式の比較

3.1 日本語と中国語の「理由・解釈」の言語形式の使用条件

言語形式の使用差を比較する前に、まず前提条件として、そもそも日本語と中国語において、「理由・解釈」を表す時、言語形式の使用条件が対等であるかどうかを検討する必要がある。そうでないと、「使用頻度の差」はどのような意味を持つのか説明しにくくなる。そのため、ここではこの「使用条件の差のありか」を次なる考察の前提条件としたい。

ではまず日本語のほうから述べる。

理由・解釈は通常二通りの順番がある。一つは「理由・解釈→結果」であり、もう一つは「結果→理由・解釈」であるが、日本語において、この二通りの前後文の意味関係を表すための典型的な言語形式の使用は表 3 の通りである。

表 5 日本語における理由・解釈を表す言語形式の検討

因果関係順	文の形式	自然さ	理由・解釈の言語形式の必要性
理由・解釈→結果	A から、B(φ/のだ)。	○	言語形式があるほうは多数であり、理由・解釈の意味がより読み取りやすい。
	A ので、B(φ/のだ)。	○	
	A(の)ため、B(φ/のだ)。	○	
	A。そのため B(φ/のだ)。	○	
	A。だから B(φ/のだ)。	○	
	A。したがって B(φ/のだ)。	○	
	A。それゆえ B(φ/のだ)。	○	
	A φ。φ B。	△	
結果→理由・解釈	B。A のだ。	○	言語形式があるほうは多数であり、理由・解釈の意味がより読み取りやすい。
	B。A わけだ。	○	
	B。A からだ。	○	
	B。A ためだ。	○	
	B。A φ。	△	

表 5 は、日本語において、前後の文の意味関係が理由・解釈になっているとき、その意味関係を「から」のような言語形式で明示する必要があるかどうかを示したものである。結論をいうと、日本語は前後文の意味関係を言語形式で明示するほうが多数であり、かつ理由・解釈の意味がより読み取りやすい。では同じ見方で中国語を見てみよう。

表 6　中国語における理由・解釈を表す言語形式の検討

因果関係順	文の形式	自然さ	理由・解釈の言語形式の必要性
理由・解釈→結果	因为A，所以B。	○	言語形式があるほうとないほうは数的に大差がなく、かつどちらも自然に理由・解釈の意味が読み取れる。
	φA，所以B。	○	
	因为A，φB。	○	
	φA，φB。	○	
	φA。因此B。	○	
	φA。所以B。	○	
結果→理由・解釈	φB。因为A。	○	言語形式があるほうとないほうは数的に大差がなく、かつどちらも自然に理由・解釈の意味が読み取れる。
	所以B。因为A。	○	
	φB。φA。	○	
	所以B。φA。	△	

＊“因为”は日本語の「～が原因で」に、“所以”は「～なので」に、“因此”は「したがって」に相当する。

表 5 と表 6 を比較してみると、理論的に言えば日本語は理由・解釈の意味関係を言語化した形式で明示する必要があり、中国語は日本語に比べて自由であることが言える。言い換えれば、中国語で前後文の理由・解釈関係を表したい場合、接続形式の使用頻度は日本語と同等になるか、日本語より少ないかの二つの可能性がある。しかし実際の言語使用の中で、言葉の配列は文章構造や文の配列の影響を受けているため、自然な日本語と自然な中国語比べる場合、理由・解釈を表す言語形式の使用頻度が一体どうなるのかまだ不明である。したがって、次はこのことについて検討したい。

3.2 日本語と中国語における「理由・解釈」の言語形式の使用差

3.1 節で述べた書籍を使って、中の理由・解釈を表す言語表現の数を調べる。言語表現の具体的な形は、本の中から見つけた理由・解釈を表す接続表現の全てを含む。詳しい形と数は表 7、8(日本語が原作)と表 9、10(中国語が原作)で示す。

表 7 調査書籍の中の「理由・解釈」の言語形式と数(日本語原作)

書籍名	日本語の言語形式						
	のだ系[6]	から系[7]	ので	ため系[8]	わけ系[9]	なぜなら	合計
「やめる」習慣	87	42	50	21	0	7	207
アメーバ経営	89	57	57	113	2	1	361
ザ・ラストマン	284	37	82	13	0	3	432
マイナス思考からすぐに抜け出す 9 つの習慣	168	24	25	6	0	5	229
わがセブン秘録	71	56	18	65	0	2	224
生き方	423	79	15	22	0	12	554
知的資本論文	135	58	5	1	7	5	213
働き方	298	39	17	17	0	9	207
	1,555	392	269	258	9	44	2,427

表 8 調査書籍の中の「理由・解釈」言語の形式と数(日本語原作の中国語訳本)

書籍名	中国語の言語形式						
	因为	所以	由于	因此	原因是	的缘故[10]	合計
「やめる」習慣	114	45	27	31	4	0	221
アメーバ経営	110	101	13	71	1	0	296
ザ・ラストマン	105	147	26	12	0	0	290
マイナス思考からすぐに抜け出す 9 つの習慣	28	7	0	28	1	0	64
わがセブン秘録	91	59	32	111	0	1	294
生き方	125	44	5	46	0	0	220
知的資本論文	66	85	3	5	0	1	160
働き方	24	14	1	4	0	0	43
	663	502	107	308	6	2	1,588

[6] 「のだ系」は、「のだ」、「のです」、「のである」を含む。

[7] 「から系」は、「からである」、「のだから」、「んだから」、「のですから」、「のだから」、「んだから」、「のですから」、「んですから」、「であるから」、「だから」、「ですから」、「から(だ)」、「だから」を含む。

[8] 「ため系」は、「ため」、「ためだ(だった)」、「ためである」、「そのため」を含む。

[9] 「わけ系」は、「わけ(だ)」、「わけである」を含む。

[10] “的缘故”は、“因为…的缘故”、“由于…的缘故”、“…的缘故”三つの使い方があるが、それは逆に“因为…”、“由于…”に吸収され、“…的缘故”の文字が要らなくなる場合がある。考察の結果から見ると、表 9 と表 8 を比べると、表 8 のような日本語から中国語に訳した場合、“…的缘故”が単独に使われることが少なく、“因为…”、“由于…”に吸収された可能性がある。

表 9 調査書籍の中の「理由・解釈」言語の形式と数(中国語原作)

書籍名	中国語の言語形式						
	因为	所以	由于	因此	原因是	的缘故	合計
参与感	75	59	7	0	0	60	141
新零售	131	69	7	2	0	117	209
蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起	165	58	24	0	0	89	247
蚂蚁金服	173	58	58	0	0	112	289
腾讯传	120	60	31	3	0	64	214
合計	664	304	127	5	0	442	1,100

表 10 調査書籍の中の「理由・解釈」言語の形式と数(中国語原作の日本語訳本)

書籍名	日本語の言語形式							
	のだ系	から系	ので	ため系	わけ系	なぜなら	なぜかというと	合計
参与感	141	0	3	0	2	1	0	147
新零售	175	5	5	4	2	0	7	198
蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起	47	6	14	6	4	2	0	79
蚂蚁金服	204	50	51	5	2	1	0	313
腾讯传	42	8	10	2	7	0	0	69
合計	609	69	83	17	17	4	7	806

次はこれらの作品における「理由・解釈」の使用状況の差を見るために、カイ二乗検定を行う。そのための準備としてクロス集計表を作成する必要があるが、本論文では日本語作品における「理由・解釈」を含む文の数と含まない文の数、中国語作品における「理由・解釈」を含む文の数と含まない文の数を比較の標本にし、そこから日本語と中国語における「理由・解釈」の使用に差があるかどうかを見たい。つまり、使う値として、①表 7、8 と表 9、10 の言語形式のそれぞれの合計、表 1、2 と表 3、4 の作品の文の数の合計から①を引いた結果でクロス集計表を作成する。

結果は表 11、12 のようである。

表 11 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用状況クロス集計表(日本語作品)

	「理由・解釈」の言語形式を含む文の数	「理由・解釈」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	2,427↑	12,317	14,744
中国語訳本	1,588↓	12,260	13,848
合計	4,015	24,577	57,184

表 12 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用状況クロス集計表(中国語作品)

	「理由・解釈」の言語形式を含む文の数	「理由・解釈」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	1,100↑	20,540	21,640
日本語訳本	806↓	20,850	21,656
合計	1,906	41,390	86,592

上記のクロス集計表にそれぞれカイ二乗検定を施した[11]結果、表 11 では $p<.001$(Phi=0.072)、表 12 では $p<.001$(Phi=0.033)であり、いずれも有意義な差が出ている。しかし表 11 では日本語の方が使用回数が多いのに対し、表 12 では中国語の方が使用回数が多い。つまり、この比較の結果から言えることは、原作と訳本における「理由・解釈」の使用回数に差があることである。

次はカイ二乗検定を使って下の表 13 の日本語原作と中国語原作、表 14 の日本語原作と中国語原作の日本語訳文、表 15 の中国語原作との日本語原作の中国語訳文における使用差を比較してみる。表 13 の比較は原作(つまりもっとも自然な書き方をしている書き言葉である)を使用しているので、結果は日本語と中国語における「理由・解釈」の用語の使用に差があるかどうかを説明できる。表 14 は日本語と日本語の比較、表 15 は中国語と中国語の比較なので、作品の第一言語と訳文の言語を比較することによって原作と訳文の言葉遣いに差があるかどうかが分かるようになる。

[11] 検定に使用したツール：pyhton3.0、ライブラリー：scipy、関数：stats.chi2_contingency(“クロス集計表”, correction=False)。

Phi 値参照サイト：https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/freq/chisq_ixj.htm

表 13 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用状況クロス集計表(原作同士)

	「理由・解釈」の言語形式を含む文の数	「理由・解釈」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	2,427↑	12,317	14,744
中国語原作	1,100↓	20,540	21,640
合計	3,527	32,857	72,768

表 14 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用状況クロス集計表(日本語：原作と訳文)

	「理由・解釈」の言語形式を含む文の数	「理由・解釈」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	2,427↑	12,317	14,744
中国語原作・日本語訳文	806↓	20,850	21,656
合計	3,233	33,167	72,800

表 15 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用状況クロス集計表(中国語：原作と訳文)

	「理由・解釈」の言語形式を含む文の数	「理由・解釈」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	1,100↓	20,540	21,640
日本語原作・中国語訳文	1,588↑	12,260	13,848
合計	2,688	32,800	70,976

表 13 の結果は $p<.05$(Phi=0.189)であり、表 14 は $p<.01$(Phi=0.220)で、そして表 15 は $p<.01$(Phi=0.118)である。日本語が原作の場合も中国語が原作の場合も、「理由・解釈」の形式は日本語の方に多く現れている。このことからも日本語の方が「理由・解釈」が多く現れると言えるのであり、「理由・解釈」の用語に関しては日中両言語の間に使用差があることが証明されたのである。

ではどちらの方が「理由・解釈」を表す形式をよりよく使うかというと、上記の結果からは判明できないため、「理由・解釈」を表す形式を各作品の文数で割って使用割合を比較すれば良い。結果は次のようである。

表 16 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用頻度の日中の比較(日本語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語	中国語
「やめる」習慣	12.01%	11.28%
アメーバ経営	21.37%	14.95%
ザ・ラストマン	18.93%	14.06%
マイナス思考からすぐに抜け出す 9 つの習慣	12.89%	5.44%
わがセブン秘録	12.79%	16.78%
生き方	14.48%	10.62%
知的資本論文	12.01%	11.28%
働き方	15.11%	10.58%

表 17 調査書籍の中の「理由・解釈」の使用頻度の日中の比較(中国語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語	中国語
参与感	9.68%	6.53%
新零售	11.46%	8.04%
蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起	7.68%	7.06%
蚂蚁金服	9.74%	7.61%
腾讯传	4.63%	4.97%

表 16 と 17 を見るとどちらも日本語の方が使用割合が高い。従って、表 11〜17 の結果をまとめると、「理由・解釈」の用語の使用回数と文中の割合については、日本語と中国語の使用状況に差があり、かつ日本語の方が高いということである。

以下、日本語の文に説明・解釈の言語形式が使用されており、中国語の文にない例として(1)、(2)の文をあげる。下線部は意味が対応している文であり、囲い込み線の中は説明・解釈を表す言語形式である。

(1)【日本語原文】:

結局、わたしは販促も担当することになりました。

聞けば、販促担当は二、三年で七人くらい辞めていました。仕入れの商品部と販売の店舗の間に挟まれ、何かあると双方から責められ、文句をいわれやすい。<u>元上司はとっとと見切りをつけてしまった</u>のです。

(『我がセブン秘録』)

【中国語訳文】:

询问后我才知道，促销负责人员在两三年时间内有 7 人辞职，由于被夹在负责采购

的商品部和负责销售的店铺之间，经常因为某些原因被两方人员责难。就这样，老领导迅速地打消了从事这份工作的念头。

(2)【中国語原文】:

用户数量增速放缓，电商数量却在迅猛增长。卖家比买家增长快，直接导致一个结果：互联网电商获得一个潜在客户的成本，即所谓的“流量成本”越来越高，在网上做生意越来越难，互联网的流量红利迅速消失。

（《新零售》）

【日本語訳文】:

コンテンツコマースでは、微信公衆号(ウィチャットのパブリックアカウント)、ＩＰ(知的財産)のプロダクトプレイスメント、ライブコマースなどが挙げられる。

ユーザー数の増加スピードが降下しているにもかかわらず、ｅコマース数は急速に増加している。売り手の数が買い手の数より遥かに速く増加しているのだ。これにより、ｅコマースが潜在的な顧客を獲得するコスト、いわゆる「トラフィック獲得コスト」(集客コスト)はますます高くなり、インターネットビジネスは難局を迎えた。

4. 日本語と中国語における「言い換え」の言語形式の比較

4.1 日本語と中国語の「言い換え」の言語形式の使用条件

本節では3節と同じ手法で日本語と中国語における「言い換え」の言語形式の使用差を見てみる。

言い換えに関しては、日本語においても中国語においても、接続形式と位置は理由・解釈ほど複雑ではなく、「のだ」以外、基本的に言い換えられる文の前に来ている。本論文では石黒(2008)を参照し、日本語における言い換えの用語を次のように規定する。それによると、言い換えの接続詞は、「短く端的な言い換えを予告する」の「つまり」系と「否定的に受け継ぐ予告」の「むしろ」系がある。

表 18　日本語における言い換えの用語の種類

用語の大分類	小分類	文中の位置
「つまり」系	つまり	つまり(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	すなわち	すなわち(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	要するに	要するに(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	言い換えると	言い換えると(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	言すると	換言すると(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	いわば	いわば(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	言ってみれば	言ってみれば(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
「むしろ」系	むしろ	むしろ(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	かえって	かえって(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	そうでなく	そうでなく(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	というより	というより(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	というか	というか(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	代わりに	代わりに(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	その代わり	その代わり(、)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	のだ	＿＿＿＿＿＿＿＿のだ。

次は中国語の言い換えの用語についてまとめる。まとめにあたり、廖(1986)と楊(2011)を参照している。

表 19　中国語における言い換えの用語の種類

用語の大分類	小分類	文中の位置
～说 （～にいうと）	具体说 （具体的にいうと）	具体说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	具体而言 （具体的にいうと）	具体而言，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	具体地说 （具体的にいうと）	具体地说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	或者说 （もしくは）	或者说（，）＿＿＿＿＿＿＿＿。
	详细地说 （詳しくいうと）	详细地说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	概括地说 （大まかにいうと）	概括地说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	用现在的话来说 （今の言葉でいうと）	用现在的话来说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	这就是说 （これはつまり）	这就是说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	那就是说 （それはつまり）	那就是说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	也就是说 （つまり）	也就是说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	简单地说 （簡単にいうと）	简单地说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	换句话说 （言い換えると）	换句话说，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	应该说 （～というべき）	应该说（，）＿＿＿＿＿＿＿＿。
	更应该说 （～もっというべき）	更应该说（，）＿＿＿＿＿＿＿＿。
说～ （～にいうと）	说得通俗一点 （俗にいうと）	说得通俗一点，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	说得形象一点 （具体的にいうと）	说得形象一点，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	说得直白一点 （はっきりいうと）	说得直白一点，＿＿＿＿＿＿＿＿。

～之 （～にいうと）	简言之 （簡単にいうと）	简言之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	简而言之 （簡単にいうと）	简而言之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	总之 （つまり）	总之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	总而言之 （つまり）	总而言之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	换言之 （言い換えると）	换言之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
	换而言之 （言い換えると）	换而言之，＿＿＿＿＿＿＿＿。
即 （すなわち）	即 （すなわち）	即（，）＿＿＿＿＿＿＿＿。
その他	换种说法 （言い方を変えると）	换种说法，＿＿＿＿＿＿＿＿。

表 19 から分かるように、中国語の言い換えの用語は全て言い換えられる内容の前に来ている。そして、用語と内容の間に基本的に「,」でポーズを取っており、少数の用語は「,」がなくても自然である。

4.2 日本語と中国語における「言い換え」の言語形式の使用差

次は各作品における言い換えの用語の使用差について見てみる。

今回は言い換えの用語の全体の使用状況を見るのが主目的であるため、各作品における大分類の数で計算する。結果は前節のように原作が日本語と中国語の場合に分けて集計した。結果は表 18～表 21 のようである。

表 20　各作品における日本語の言い換えの用語の数(日本語が原作)

書籍名	日本語の言い換えの用語の種類			
	つまり系	むしろ系	のだ	合計
アメーバ経営	39	12	37	88
マイナス思考	24	12	43	79
稲盛流コンパ	4	10	21	35
我がセブン秘録	27	22	21	70
「やめる」習慣	12	11	12	35
知的資本論文	58	8	33	99
ザ・ラストマン	21	16	56	93
生き方	128	25	338	491
合計	313	116	223	990

表 21　各作品における中国語の言い換えの用語の数(日本語が原作)

書籍名	中国語の言い換えの用語の種類					
	～说	说～	～之	即	その他	合計
アメーバ経営	14	0	5	60	0	79
マイナス思考	4	0	1	29	0	34
稲盛流コンパ	2	0	0	3	0	5
我がセブン秘録	23	0	0	16	0	39
「やめる」習慣	10	0	5	14	0	29
知的資本論文	35	1	4	17	0	57
ザ・ラストマン	15	0	1	17	0	33
生き方	21	0	5	26	3	55
合計	124	1	21	182	3	331

表 22　各作品における日本語の言い換えの用語の数(中国語が原作)

書籍名	日本語の言い換えの用語の種類			
	つまり系	むしろ系	のだ	合計
参与感	36	16	54	106
新零售	24	18	80	122
腾讯传	57	19	22	98
蚂蚁金服-独角兽	14	14	45	73
蚂蚁金服	75	18	75	168
合計	206	85	276	567

表 23　各作品における中国語の言い換えの用語の数(中国語が原作)

書籍名	中国語の言い換えの用語の種類					
	～说	说～	～之	即	その他	合計
参与感	2	0	2	17	0	21
新零售	9	0	3	47	0	59
腾讯传	29	0	1	202	0	232
蚂蚁金服-独角兽	14	0	7	50	0	71
蚂蚁金服	20	0	4	80	0	104
合計	74	0	17	396	0	487

表 20～表 23 の言い換えの用語を、3 節と同じようなやり方でクロス集計表を作成すると次のようになる。

表 24 調査書籍の中の「言い換え」の使用状況クロス集計表(日本語作品)

	「言い換え」の言語形式を含む文の数	「言い換え」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	990↑	13,754	14,744
中国語訳本	331↓	13,517	13,848
合計	1,321	27,271	57,184

表 25 調査書籍の中の「言い換え」の使用状況クロス集計表(中国語作品)

	「言い換え」の言語形式を含む文の数	「言い換え」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	567↑	21,073	21,640
日本語訳本	487↓	21,169	21,656
合計	1,054	42,242	86,592

表 24 と 25 表における日本語と中国語の「言い換え」の使用回数をカイ二乗検定でかけると、結果は、表 24 は $p<.001$(Phi=0.103)、表 25 は $p<.05$(Phi=0.012)であり、いずれも有意差が出ている[12]。この結果も原作における「言い換え」の使用回数と訳本における「言い換え」の使用回数に差があることを説明している。

次は下の表を用いて原作同士、そして同一言語の原作と訳本の比較をしてみる。

[12] 表 18 を見ると、『生き方』における「のだ」の数が他の作品より遥かに多いことが分かる。このことを考慮すると表 24 と表 25 の検定結果はその作品による影響の可能性がある。それを防ぐために、表 24、25 の検定をした後に、表 24 から『生き方』の数を除いてもう一度検定をかけた。結果は $p<.01$(Phi=0.046)であり、『生き方』による影響の可能性が排除されている。

表 26 調査書籍の中の「言い換え」の使用状況クロス集計表(原作同士)

	「言い換え」の言語形式を含む文の数	「言い換え」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	990↑	13,754	14,744
中国語原作	587↓	21,073	21,660
合計	1,577	34,827	72,808

表 27 調査書籍の中の「言い換え」の使用状況クロス集計表(日本語：原作と訳文)

	「言い換え」の言語形式を含む文の数	「言い換え」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	990↑	13,754	14,744
中国語原作・日本語訳文	487↓	21,169	21,656
合計	1,477	34,923	72,800

表 28 調査書籍の中の「言い換え」の使用状況クロス集計表(中国語：原作と訳文)

	「言い換え」の言語形式を含む文の数	「言い換え」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	331	13,517	13,848
日本語原作・中国語訳文	567	21,073	21,640
合計	898	34,590	70,976

表 28 は有意差出なかったが、一方、表 26 の結果は $p<.05$(Phi=0.111)であり、表 27 は $p<.01$(Phi=0.189)であるため、「言い換え」の用語の使用回数に関しては日中両言語の間に差があることが証明された。そして日本語が原作の場合は日本語の方が「言い換え」の形式が多く現れるので、この点からも日本語の方が「言い換え」の形式の使用頻度が高いと言えるのである。

次は「言い換え」の用語が作品の文数における割合を比較して日中どちらの方が割合が高いことを見てみよう。結果は次のようである。

表 29 調査書籍における言い換えの用語の使用頻度の日中の比較(日本語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語	中国語
アメーバ経営	5.21%	4.68%
マイナス思考	4.45%	1.91%
稲盛流コンパ	1.82%	0.26%
我がセブン秘録	4.00%	2.23%
「やめる」習慣	2.03%	1.68%
知的資本論文	6.73%	3.87%
ザ・ラストマン	4.08%	1.45%
生き方	23.03%	2.58%

表 30 調査書籍における言い換えの用語の使用頻度の日中の比較(中国語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語	中国語
参与感	3.29%	0.65%
新零售	4.47%	2.16%
腾讯传	1.46%	3.46%
蚂蚁金服-独角兽	1.93%	1.88%
蚂蚁金服	3.23%	2.00%

表 29、30 の結果を見ると、日本語の方が使用割合が高い[13]。つまり、表 24～30 の結果をまとめると、「言い換え」の用語の使用回数と文中の割合については、日本語と中国語の使用状況に差があり、かつ日本語の方が高いということである。

以下、日本語に言い換えの用語が使われているのに中国語の訳に用語がない例を示す。

(3)【日本語原文】:

トーハン時代の後半、わたしは弘報課で『新刊ニュース』という隔週刊の広報誌の編集を任されていました。

それまでは新刊目録が中心だった内容を、わたしの発案で新刊紹介のほか、軽い読み物をそろえて、読書家にホッと一息ついてもらうような冊子へと全面的に誌面を刷新したところ、無料配布を有料に変えたにもかかわらず、発行部数を五〇〇〇部から一三万部へと二六倍に伸ばすことができました。

出版取次の強みで、版元を通せば、どんな大物作家や有名文化人にも誌面に登場願えました。

[13] 表 25 から『生き方』を抜いたとしても、他の作品では日本語の方が使用割合が高いことが言える。

そのころはほとんどメディアに出ていなかった文豪の谷崎潤一郎さんからも快諾をいただき、対談相手として、有馬稲子、岡田茉莉子、淡路恵子の三大女優の名をあげられたので、日程の合った淡路恵子さんにご自宅までお願いに伺い、対談を実現したりもしました。

ところが、誌面を刷新してからしばらくして、自分の生き方に対して悶々とした思いがわき上がってきました。

広報誌の仕事でどんな大作家にも著名人にも会えるのは、トーハンの看板があったからで、自分の実力でも何でもありません。

マラソンにたとえれば、みんなは一生懸命走っているのに、自分だけ自転車に乗っているようなものではないか。各界で活躍される方々にお会いすればするほど、逆に自分の小ささを感じるようになったのです。

（『我がセブン秘録』）

【中国語訳文】:

在东贩工作的后期，我属于宣传部门，被要求负责编辑隔周发行的介绍新出版书籍的杂志《新刊新闻》。

在此之前，该杂志主要介绍新出版书籍的主要内容，在我的提议下，杂志除了介绍新出版书籍的主要内容外，还加入了轻读物内容；为满足读者放松心情的需求，杂志重新设计了版面，而且经营模式由之前的免费提供变为有偿购买。通过改革，杂志的发行量由之前的 5 000 册增长了 25 倍，扩大到 13 万册。

利用杂志经销商的优势，通过杂志出版方，无论什么样的大作家或者文化名人，我都可以请他们为杂志撰写文章。

当时几乎不在媒体露面的大文豪谷崎润一郎就爽快地答应了我们的请求。另外，我还找到了有马稻子、冈田茉莉子、淡路惠子三位著名的女演员，并登门拜访了淡路惠子，与她进行了对话。

但是，改革杂志版面之后，我对于自己的人生开始产生了苦闷之情。

因为在杂志社工作的原因，无论是见什么样的大作家或者名人，我都是借用东贩的名头，而不是依靠我自己的实力。

如果将人生看作是一场马拉松的话，那么当其他人都在奋力奔跑的时候，唯独我在马拉松的跑道上骑着自行车。随着结识活跃在各领域人物数量的增加，我越来越感到自己的渺小。

(4)【中国語原文】:

这是一个很有趣的悖论：很多传统零售企业觉得“末日降临”时，整个中国的消费品零售总额不但没有减少，反而在增加。为什么？

（《新零售》）

【日本語訳文】:

これは非常に興味深いパラドックスだ。多くの小売企業が「世界の終わりが来た」と感じているにもかかわらず、中国全体の消費財小売総額は減少どころか、逆に増加しているのだ。それはなぜだろうか？

5. 日本語と中国語における「発見・再認識」の言語形式の比較

5.1 日本語と中国語の「発見・再認識」の言語形式の使用条件

次は「発見・再認識」について見てみる。

「発見・再認識」を表す言葉に関しては、日本語においても中国語においてもそれを集中的に論じる研究は「のだ」以外、管見の限り見当たらなかった。そのため、「発見・再認識」を表す用語は各文法書と個別の用語を論じた研究から取得している。具体的な形式は次のようである。

表 31　日本語における「発見・認識」の用語の種類

用語の大分類	小分類	文中の位置
なるほど	なるほど[14]	なるほど、＿＿＿＿＿＿＿＿。
「のだ」系	だったの(ん)だ	＿＿＿＿＿＿＿＿だったの(ん)だ。
まさか	まさか	まさか＿＿＿＿＿＿＿＿。
「「と」＋発見・再認識の言葉」系	と思わなかった/と思いませんでした	＿＿＿＿＿＿＿＿と思わなかった/と思いませんでした。
	と認識した/と認識しました	＿＿＿＿＿＿＿＿と認識した/と認識しました。
	と再認識した/と再認識しました	＿＿＿＿＿＿＿＿と再認識した/と再認識しました。
	と気づいた	＿＿＿＿＿＿＿＿と気づいた。
	と初めて気付いた	＿＿＿＿＿＿＿＿と初めて気付いた。

[14] 平仮名、漢字表記を含める。

表 32　中国語における「発見・認識」の用語の種類

用語の大分類	小分類	文中の位置
“原来”系 (「なるほど、～」系)	原来 (なるほど、～)	原来(,)＿＿＿＿＿＿＿＿。
	竟然 (まさか～)	竟然＿＿＿＿＿＿＿＿。
	竟 (まさか～)	竟＿＿＿＿＿＿＿＿。
	居然 (まさか～)	居然＿＿＿＿＿＿＿＿。
「発見・再認識の言葉 ＋“到”」系	原来如此 (なるほど、～)	原来如此,＿＿＿＿＿＿＿＿。
	意识到 (～と意識した)	意识到＿＿＿＿＿＿＿＿。
	注意到 (～と気づいた)	注意到＿＿＿＿＿＿＿＿。
	认识到 (～と認識した)	认识到＿＿＿＿＿＿＿＿。
	认知到 (～と認識した)	认知到＿＿＿＿＿＿＿＿。
	没想到 (まさか～だと思わなかった)	没想到＿＿＿＿＿＿＿＿。
その他	(我)发现 ((私は)～と発見した)	(我)发现＿＿＿＿＿＿＿＿。

「発見・再認識」に関する用語は、日本語も中国語も「発見・再認識」した内容を文中に埋め込む形式になることが多い。異なるのは、日本語は引用した内容が「発見・再認識」の用語より前置される構造が多いのに対し、中国語は逆の構造になることが多い。

5.2 日本語と中国語における「発見・再認識」の言語形式の使用差

次は各作品における「発見・再認識」の用語の数について見てみよう。

4 節と同様に、大分類の数だけを表示する。

表 33　各作品における日本語の発見・再認識の用語の数(日本語が原作)

書籍名	日本語の発見・再認識の用語の種類				
	なるほど	「のだ」系	まさか	と～	合計
アメーバ経営	0	0	0	3	3
マイナス思考	1	2	0	0	3
稲盛流コンパ	2	0	1	0	3
我がセブン秘録	1	1	0	0	2
「やめる」習慣	1	0	1	1	2
知的資本論文	0	7	0	0	7
ザ・ラストマン	3	2	0	3	8
生き方	6	0	0	0	6
合計	14	12	2	7	34

表 34　各作品における中国語の発見・再認識の用語の数(日本語が原作)

書籍名	中国語の発見・再認識の用語の種類			
	“原来”系	～到	その他	合計
アメーバ経営	20	19	2	41
マイナス思考	9	9	1	19
稲盛流コンパ	25	10	3	38
我がセブン秘録	17	13	7	37
「やめる」習慣	8	21	3	32
知的資本論文	7	11	7	25
ザ・ラストマン	27	24	2	53
生き方	42	8	2	52
合計	155	115	27	297

表 35　各作品における中国語の発見・再認識の用語の数(中国語が原作)

書籍名	中国語の発見・再認識の用語の種類			
	“原来”系	～到	その他	合計
参与感	10	4	6	20
新零售	18	7	1	26
腾讯传	36	25	7	68
蚂蚁金服-独角兽	29	35	13	77
蚂蚁金服	24	20	6	50
合計	117	91	33	241

表 36　各作品における日本語の発見・再認識の用語の数(中国語が原作)

書籍名	日本語の発見・再認識の用語の種類				
	なるほど	「のだ」系	まさか	と～	合計
参与感	0	5	0	0	5
新零售	1	2	0	0	3
腾讯传	0	2	3	5	10
蚂蚁金服-独角兽	2	1	1	2	6
蚂蚁金服	3	3	0	3	9
合計	6	13	4	10	33

上記の結果でクロス表を作ると次のようになります。

表 37 調査書籍の中の「発見・再認識」の使用状況クロス集計表(日本語作品)

	「発見・再認識」の言語形式を含む文の数	「発見・再認識」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	34↓	14,710	14,744
中国語訳本	297↑	13,551	13,848
合計	331	28,261	57,184

表 38 調査書籍の中の「発見・再認識」の使用状況クロス集計表(中国語作品)

	「発見・再認識」の言語形式を含む文の数	「発見・再認識」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	241↑	21,399	21,640
日本語訳本	33↓	21,623	21,656
合計	274	43,022	86,592

表 37 と 38 の結果でカイ二乗検定をすると、表 37 では $p<.001$(Phi=0.089)、表 38 では $p<.001$(Phi=0.060)、いずれも有意差ができている。つまり、原作と訳本の間に使用回数の差があることが分かった。次は原作同士を比較してみる。

表 39 調査書籍の中の「発見・再認識」の使用状況クロス集計表(原作同士の比較)

	「発見・再認識」の言語形式を含む文の数	「発見・再認識」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	34↓	14,710	14,744
中国語原作	241↑	21,399	21,640
合計	275	36,109	72,768

表 40 調査書籍の中の「発見・再認識」の使用状況クロス集計表(日本語：原作と訳文)

	「発見・再認識」の言語形式を含む文の数	「発見・再認識」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	34	14,710	14,744
中国語原作・日本語訳文	33	21,623	21,656
合計	67	36,333	72,800

表 41 調査書籍の中の「発見・再認識」の使用状況クロス集計表(中国語：原作と訳文)

	「発見・再認識」の言語形式を含む文の数	「発見・再認識」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	241	21,399	21,640
日本語原作・中国語訳文	297	13,551	13,848
合計	538	34,950	70,976

表 40 と 41 の同一言語間の比較については有意差がなかった。つまり訳文が原作と同程度くらいの自然さであることを示している。一方、表 39 の結果は、$p<.01$(Phi=0.060)であるため、「発見・再認識」の用語に関しては日中両言語の間に使用回数の差があることが証明された。

では下の表で「発見・再認識」の用語が文数における割合を比較して日中どちらの方が高いことを見てみよう。

表 42 調査書籍における発見・再認識の用語の使用頻度の日中の比較(日本語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語の用語	中国語の用語
アメーバ経営	0.18%	2.43%
マイナス思考	0.17%	1.07%
稲盛流コンパ	0.16%	1.98%
我がセブン秘録	0.11%	2.11%
「やめる」習慣	0.12%	1.86%
知的資本論文	0.48%	1.70%
ザ・ラストマン	0.35%	2.32%
生き方	0.28%	2.44%

表 43 調査書籍における発見・再認識の用語の使用頻度の日中の比較(中国語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語の用語	中国語の用語
参与感	0.16%	0.62%
新零售	0.11%	0.95%
腾讯传	0.15%	1.01%
蚂蚁金服-独角兽	0.16%	2.04%
蚂蚁金服	0.17%	0.96%

表 42 と表 43 の結果からも確認できるように、中国語の方が使用割合が高い。

従って、表 37～表 43 の結果をまとめると、「発見・再認識」の用語の使用回数と文中の割合については日中両言語では差があり、かつ中国語の方が高いということになる。

上の日中に関する「発見・再認識」の用語の比率を見るとこのような疑問が起きるのではないかと考えられるが、それは何かというと、他の分類に関しては日本語の方が使用割合が高いか、日中の間あまり変わらないかという結果になっているのに対し、なぜ「発見・再認識」だけが中国語の方が高いのかということである。理由は、今回の調査する本は内容が自伝式のもの、もしくは回顧録のような述べ方をしているものが多いため、中国語の方では「～と発見した」、「～と気づいた」のような客観描写の用語が増えたからだと考える。つまり、少々調査書籍の性質に偏る部分があったのである。

以下、中国語の方が「発見・再認識」の用語が明示的に出されている例を示す。

(5)【日本語原文】:

帰国後、ふと気になり、調べて驚きました。運営するサウスランド社は全米で四〇〇〇店ものチェーンを持つ超優良企業でした。

（『我がセブン秘録』）

【中国語訳文】:

回国后，我突然对小商店产生了兴趣，调查后我感觉非常吃惊。经营 7-Eleven 便利店的南方公司竟然在美国拥有 4000 家类似的店铺，是一家经营良好的企业。

(6) 【中国語原文】:

传统上设计一个在线活动，都会强调活动要尽量简单，让用户能够轻松参与。如果是这种答题类的活动，一般正确答案都是显而易见，让用户能够轻松答对。这确实没错。但是，我们能不能反其道而行之呢？

在“智勇大冲关”活动中，我们的问题设定得不是那么显而易见了，如果用户对于小米手机 3 不是很了解的话，其实是很难通过猜来得到正确答案的。结果，活动一经推出，很多米粉做了好几遍题目，发现居然只能得 60 分、50 分，甚至 40 分。对于我们的资深社区用户来说，这种挫败感反而进一步激发了他们继续再做一遍的动力。就好像玩一个游戏一样，如果失败了，用户总要再尝试一次。我们准备了数百道题目的题库，结果用户每次进入答题环节，他们面对的问题都不一样。总是答不对，他就要去认真地看我们的新手入门栏目。

（《参与感》）

【日本語訳文】:

通常、ネット上での活動は、ユーザーが気軽に参加できるよう、極力単純なものにするのが鉄則だ。こういったクイズの場合、普通は目につく所に答えを書き、誰でも簡単に正解できるようにする。もちろん、それも悪くはない。しかし、私たちは考えた。まったく逆のやり方をしてはどうだろう。

「智恵と勇気で難関突破」のクイズには、誰にでも答えがわかるような問題は出題しなかった。Ｍｉ３のスペックに詳しくなければ、全問正解するのはかなり難しかった。その結果、多くのユーザーが何度も繰り返しクイズに挑戦してくれたが、点数はせいぜい 60 点か 50 点、あるいは 40 点といったところだった。あるベテランユーザーは、正解できないのが悔しくて、つい何度も挑戦してしまったという。ゲームと同じように、失敗すればするほど、もう一度チャレンジしたくなるものなのだ。私たちは数百問もの問題を用意していたため、ユーザーには毎回異なる問題が出題される。彼らは不正解のたびにサイトを訪れ、新製品のスペックをすみずみまで確認した。

(7) 【中国語原文】:

当李达康提出那个尴尬问题的时候，刘胜义已经在考虑答案。“我意识到，腾讯也许需要一套新的广告投放标准，也就是说，我们要重新定义互联网广告。”他日后对我说。

（《腾讯传》）

【日本語訳文】:

李達康にこのやっかいな質問をされた頃、劉勝義自身もすでに答えを考えている最中だった。「テンセントも一連の新たな広告出稿基準が必要かもしれない、という意識はあった。つまり、我々はインターネット広告を再定義する必要があるということだ」。劉は後日、筆者にそう語った。

(8) 【中国語原文】:

1999 年 4 月，马化腾和陈一丹到北京出差，当他们白天跑了六七家寻呼台推介网络寻呼方案，筋疲力尽地回到一家小招待所，打开电脑时，突然发现，OICQ 的在线用户居然已经超过了 500 人。这让他们几乎同时跳了起来，两人手忙脚乱地翻出两只杯子，买了一瓶啤酒，在小房间里碰杯庆祝。

（《腾讯传》）

【日本語訳文】:

１９９９年４月、馬化騰と陳一丹は北京に出張し、日中に呼び出しセンター業者６～７社を回ってネットワーク呼び出しプランの売り込みをした。ヘトヘトになって簡素な宿に戻り、パソコンを開いたときのことだ。なんとＯＩＣＱの接続ユーザー数が５００人を超えていた。二人は同時に跳び上がり、慌てふためきながらカップを二つ取り出した。瓶ビール１本を買ってきて、その狭い部屋で祝杯を挙げた。

例(5)は日本語原文に「発見・再認識」の用語が明示的に出ていないのに中国語訳文では出ている例である。(6)は中国語の原文に「発見・再認識」用語が明示的に出ているのに日本語の訳文にはないレである。(7)は中国語原文では、“我意识到(～と気づいた)”という気づきを表す用語が使われているのに対し、日本語訳文の方では「という意識があった」という、気づきのニュアンスをなくした表現で表されている例である。(8)は中国語原文では“突然发现(～と急に気づいた)”と明示的に「発見・再認識」の用語があるのに対し、日本語のようではない例である。このように、今回の調査結果として、「発見・再認識」の用語に関しては中国語の方が使用回数が高いことになっているのである。

6. 日本語と中国語における「前置き・先触れ」の言語形式に関して

本章の考察の順番で行くと、本節は日中における「前置き・先触れ」の用語について考察すべきであるが、「前置き・先触れ」の状況は他の分類とは少々異なる。これは何かというと、前述した諸用法は、いずれも何かしらの機能語があり、その機能語が現れたら文がそのような意味になることが分かるようになるものである。例えば「～から」、「～ので」が現れたら「理由・解釈」、「つまり」が現れたら「言い換え」であるが、「前置き・先触れ」はそ

うではなく、通常後に来るべき内容が先に現れたから「前置き・先触れ」になったのである。つまり、「前置き・先触れ」に関してはそれを代表する機能語がなく、文の順番が通常と逆になっているかどうかを見ないと分からないようなものになるのである。実際、日中の前置き表現に関する研究である大塚(1999)、王(2010)、孫・方(2011)、柳田(2014)、牛(2016)等を見ても、前置き、先触れの定義は基本的に文/句の内容からされている。そのため、「前置き・先触れ」の形式の考察は、前の節のように特定の機能語から検索するのは困難である。中国語も同様であり、「前置き・先触れ」を表す特定の用語がないため、日中の比較は難しい。従って、「前置き・先触れ」に関しては使用頻度の比較は行わない。対応形式の考察は、個別の例から見られた形式をまとめる形で行う。

7. 日本語と中国語における「命令・認識強要」の言語形式の比較

7.1 日本語と中国語の「命令・認識強要」の言語形式の使用条件

最後は「命令・認識強要」について見てみる。日本語の「命令・認識強要」の形式は、横田(2007)、小野(2010)、森川(2013)の中の表現を参照し、以下のように分類している。

表 44　各作品における日本語の命令・認識強要の用語の数(日本語が原作)

用語の大分類	小分類	文中の位置
形式名詞系	もの(だ)	＿＿＿＿＿＿もの(だ)。
	こと(だ)	＿＿＿＿＿＿こと(だ)。
活用系	動詞活用-e	＿＿＿＿＿＿動詞活用-e。
	しろ	＿＿＿＿＿＿ないで。
	せよ	＿＿＿＿＿＿動詞＋な。
補助動詞系	ないで	＿＿＿＿＿＿しろ。
	動詞＋な	＿＿＿＿＿＿せよ。
	なさい	＿＿＿＿＿＿なさい。
	べき	＿＿＿＿＿＿べき。
	てください	て＿＿＿＿＿＿ください。
	しなければならない/しなければなりません	＿＿＿＿＿＿しなければならない/しなければなりません。
	しなければいけない/しなければいけません	＿＿＿＿＿＿しなければいけない/しなければいけません。

本論文では、中国語の「命令・認識強要」の表現は劉月華・他(2001)の《现代汉语实用语法》、吕(1999)の《现代汉语八百词》を参照して次のようにまとめた。

表 45　各作品における日本語の命令・認識強要の用語の数(中国語が原作)

用語の大分類	小分類	文中の位置
肯定的副詞系	必须 (～とすべき)	必须＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	应该 (～とすべき)	应该
	应当 (～とすべき)	应当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	请 (～てください)	请＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
語気助詞系	吧 (～てください)	＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿吧。
記号系	!	＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿!
否定的副詞系	不要 (～しないでください)	不要＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	不用 (～しなくてもいい)	不用＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	不许 (～しないでください)	不许＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	不必 (～しなくてもいい)	不必＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
	用不着 (～しなくてもいい)	用不着＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

中国語では言葉のほかに、記号で特定のモダリティを表すことがよく見られる。「命令・認識強要」といった強いモダリティの場合、「！」がよく使われる。

7.2 日本語と中国語における「命令・認識強要」の言語形式の使用差

「命令・認識強要」の使用差は次のようになる。

表 46　各作品における日本語の命令・認識強要の用語の数(日本語が原作)

書籍名	日本語の命令・認識強要の用語の種類			
	形式名詞系	活用系	補助動詞系	合計
アメーバ経営	9	24	28	61
マイナス思考	4	16	85	105
稲盛流コンパ	16	10	35	61
我がセブン秘録	0	26	12	38
「やめる」習慣	2	11	93	106
知的資本論文	32	14	10	56
ザ・ラストマン	9	25	33	67
生き方	45	66	10	121
合計	117	192	306	615

表 47　各作品における中国語の命令・認識強要の用語の数(日本語が原作)

書籍名	中国語の命令・認識強要の用語の種類				
	肯定的副詞系	語気助詞系	記号系	否定的副詞系	合計
アメーバ経営	214	12	45	13	284
マイナス思考	50	75	18	3	146
稲盛流コンパ	141	29	50	24	244
我がセブン秘録	122	0	6	11	139
「やめる」習慣	99	31	11	45	186
知的資本論文	58	16	11	6	91
ザ・ラストマン	314	55	6	27	402
生き方	133	15	35	35	218
合計	1131	233	182	164	1710

表 48　各作品における中国語の命令・認識強要の用語の数(中国語が原作)

書籍名	中国語の命令・認識強要の用語の種類				
	肯定的副詞系	語気助詞系	記号系	否定的副詞系	合計
参与感	68	9	58	41	176
新零售	55	22	13	39	129
腾讯传	132	69	29	19	249
蚂蚁金服-独角兽	88	6	0	36	130
蚂蚁金服	88	3	29	32	152
合計	431	109	129	167	836

表 49　各作品における日本語の命令・認識強要の用語の数(中国語が原作)

書籍名	日本語の命令・認識強要の用語の種類			
	形式名詞系	活用系	補助動詞系	合計
参与感	146	21	10	177
新零售	77	10	23	110
腾讯传	109	50	19	178
蚂蚁金服-独角兽	80	30	36	146
蚂蚁金服	127	63	33	223
合計	539	174	121	834

上記の結果でクロス集計表を作ると次のようになります。

表 50 調査書籍の中の「命令・認識強要」の使用状況クロス集計表(日本語作品)

	「命令・認識強要」の言語形式を含む文の数	「命令・認識強要」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	615↓	14,129	14,744
中国語訳本	1710↑	12,138	13,848
合計	2,325	26,267	57,184

表 51 調査書籍の中の「命令・認識強要」の使用状況クロス集計表(中国語作品)

	「命令・認識強要」の言語形式を含む文の数	「命令・認識強要」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	836	20,804	21,640
日本語訳本	834	20,822	21,656
合計	1,670	41,626	86,592

表 50、51 の結果をカイ二乗検定にかけると、表 50 では $p<.05$(Phi=0.149)、表 51 では $p>.01$ であり、つまり日本語が原作の方では原作と訳本における「命令・認識強要」の用語に有意な差が出たが、中国語が原作の方では有意な差がなかった。次は原作同士、同一言語同士の比較をしてみる。

表 52 調査書籍の中の「命令・認識強要」の使用状況クロス集計表(原作同士)

	「命令・認識強要」の言語形式を含む文の数	「命令・認識強要」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	615	14, 129	14, 744
中国語原作	836	20, 804	21, 640
合計	1, 451	34, 933	72, 768

表 53 調査書籍の中の「命令・認識強要」の使用状況クロス集計表(日本語：原作と訳文)

	「命令・認識強要」の言語形式を含む文の数	「命令・認識強要」の言語形式を含まない文の数	合計
日本語原作	615	14, 129	14, 744
中国語原作・日本語訳文	834	20, 822	21, 656
合計	1, 449	34, 951	72, 800

表 54 調査書籍の中の「命令・認識強要」の使用状況クロス集計表(中国語：原作と訳文)

	「命令・認識強要」の言語形式を含む文の数	「命令・認識強要」の言語形式を含まない文の数	合計
中国語原作	836↓	20, 804	21, 640
日本語原作・中国語訳文	1710↑	12, 138	13, 848
合計	2, 546	32, 942	70, 976

表 52 と表 53 のカイ二乗検定の結果は有意な差が認められなかったが、表 54 の中国語同士の比較では有意差が出た。中国語原作のものと日本語が原作の中国語訳と比較すると、中国語原作における「命令・認識強要」の「のだ」の使用数が少ない。これは、中国語の訳文は日本語原作の影響を受けて表現を原作に寄せているから考えられる。このことを裏から考えると、表 50 の結果と同じ性質であることが分かるが、この結果が説明できるのは、日本語原作において典型的な「命令・認識強要」になっていない表現が中国語に訳される時、中国語の典型的な「命令・認識強要」の表現になってしまうケースが差異が分かるほど存在することである。一方、日本語と中国語どちらが「命令・認識強要」の表現を多めに使う傾向があるのかは分からない。

表 50～54 の結果をまとめると、要するに「命令・認識強要」の用語の使用回数については日本語と中国語において使用差が見られなかった。その証左として、文数における使用割合も次に出しておく。結果を直観的に見ると、原作同士の間に確かにそれほど大きな差が見られないのである。

表 55 調査書籍における命令・認識強要の用語の使用頻度の日中の比較(日本語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語の用語	中国語の用語
アメーバ経営	3.61%	16.81%
マイナス思考	5.91%	8.22%
稲盛流コンパ	3.18%	12.72%
我がセブン秘録	2.17%	7.93%
「やめる」習慣	6.15%	10.79%
知的資本論文	3.81%	6.19%
ザ・ラストマン	2.94%	17.62%
生き方	5.68%	10.23%

表 56 調査書籍における命令・認識強要の用語の使用頻度の日中の比較(中国語が原作)

書籍名	使用頻度	
	日本語の用語	中国語の用語
参与感	5.49%	5.46%
新零售	4.03%	4.72%
腾讯传	2.66%	3.72%
蚂蚁金服-独角兽	3.86%	3.44%
蚂蚁金服	4.28%	2.92%

8. 本章のまとめ

本章ではビジネス新書を調査対象に、日本語の原作とそれらの中国語の訳本、中国語の原作とそれらの日本語の訳本を使い、日本語と中国語の文章における「理由・解釈」、「言い換え」、「発見・再認識」、「前置き・先触れ」、「命令・認識強要」の用語の使用頻度の差を考察した。考察結果は以下のようである。

表 57　日本語と中国語の文章における各機能用語の使用頻度の差

	日本語原作と中国語訳本の比較	中国語原作と日本語訳本の比較	日本語原作と中国語原作の比較	結論
理由・解釈	○	○	○	使用頻度に差がある（日本語の方が高い）
言い換え	○	○	○	使用頻度に差がある（日本語の方が高い）
発見・再認識	○	○	○	使用頻度に差がある（中国語の方が高い）
前置き・先触れ	-	-	-	-
命令・認識強要	○	×	×	使用頻度に差がない

○：使用頻度に差があり　×：使用頻度に差がない －：結果なし

日本語の原作と中国語の訳本、中国語の原作と日本語の訳本、2 組の書籍で調査した目的は、両言語がもっとも自然に使われている文章構造（すなわち原作）の中で使用頻度の差を全面的に比較するためであった。これにより、「訳本の書き方は多少原作に影響されるから調査結果は真実を反映していない」ことが防げたと考える。

本章で使用頻度を考察する目的は、次章以降の各機能の「のだ」の対応形式を考察するにあたり、「のだ」は対応形式ありかなしか、どのくらいの割合で対応形式ありなのか、その割合は何を説明できるのか、に答えられるための前提を調べているのである。そのため、次章からは、本章の調査結果と合わせ、「のだ」の具体的な対応状況を見ていく。

第 3 章　「理由・解釈」の「のだ」に対応・応対する中国語

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況

本章からは各意味分類の「のだ」に対応する中国語を逐一考察していくが、まずは今回の考察で最も数が多かった「理由・解釈」の「のだ」から見てみよう。各作品おける「のだ」の対訳状況の概要は表 1 と 2 のようである。

表 1　「理由・解釈」の「のだ」の中国語の対訳の概要(日本語が原作)

作品名	のだ(理由・解釈)の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
アメーバ経営	53	1	1.9%	52	98.1%
マイナス思考	49	6	12.2%	43	87.8%
稲盛流コンパ	82	2	2.4%	80	97.6%
我がセブン秘録	44	3	6.8%	41	93.2%
「やめる」習慣	40	2	5.0%	38	95.0%
知的資本論文	95	3	3.2%	92	96.8%
ザ・ラストマン	167	14	8.4%	153	91.6%
生き方	26	3	11.5%	23	88.5%
総計	556	34	6.1%	522	93.9%

*割合は総数における割合である。

表 2　「理由・解釈」の「のだ」の中国語の対訳の概要(中国語が原作)

作品名	のだ(理由・解釈)の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
参与感	78	6	7.7%	72	92.3%
新零售	93	7	7.5%	86	92.5%
腾讯传	23	1	4.3%	22	95.7%
蚂蚁金服-独角兽	45	1	2.2%	44	97.8%
蚂蚁金服	77	2	2.6%	75	97.4%
総計	316	17	5.4%	299	94.6%

*割合は総数における割合である。

表から分かったことは、原作が日本語であっても中国語であっても、「理由・解釈」の「のだ」が中国語で言語化される(文章の配列の改造を除く)割合は1割未満である。それほど高い割合ではない。これはどのように説明できるかというと、「理由・解釈」の「のだ」が中国語に訳される時、中国語の言語習慣に従っているため、理由・解釈の論理関係をそれほど言語で表す必要がないと考える。ただし典型的な“因为(のため)”、“所以(だから)”のような理由・解釈の論理関係を表す言葉以外に、非典型的な、もしくは潜在的な、理由・解釈の論理関係を表す表現で表されている可能性があるということも示唆している。

このことを明らかにするために、次節からは「理由・解釈」の「のだ」に対応する中国語の形式を考察していく。

2.対応形式の詳細と考察

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳

今回の調査結果として、「理由・解釈」の「のだ」に対応する中国語の形式は数多く存在するが、それらの形式はカテゴリー別に分類することができる。

表 3「理由・解釈」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況(日本語が原作)

作品名	原因・理由系	「のため」系	順接系	是/是…的系	推測系	記号系	その他	総計
アメーバ経営	1	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
マイナス思考	2	0	0	1	3	0	0	6
	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
稲盛流コンパ	1	0	0	0	0	0	1	2
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
我がセブン秘録	2	1	0	0	0	0	0	3
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
「やめる」習慣	2	0	0	0	0	0	0	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
知的資本論文	2	0	0	1	0	0	0	3
	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ザ・ラストマン	11	0	1	0	2	0	0	14
	78.6%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
生き方	2	0	0	0	1	0	0	3
	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	23	1	1	2	6	0	1	34
	67.6%	2.9%	2.9%	5.9%	17.6%	0.0%	2.9%	100.0%

表 4 「理由・解釈」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況(中国語が原作)

作品名	原因・理由系	「のため」系	順接系	是/是…的系	推測系	記号系	その他	総計
参与感	3	0	0	1	1	1	0	6
	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
新零售	5	0	0	0	0	2	0	7
	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	100.0%
腾讯传	0	0	0	0	0	1	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0	1	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
蚂蚁金服	0	0	0	0	0	2	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
総計[15]	8	0	0	1	1	7	0	17
	47.1%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	41.2%	0.0%	100.0%

調査結果を見ると、原作の言語によらず、「理由・解釈」の「のだ」に対応する中国語のカテゴリーは数からいうと、最も多いのは「原因・理由系」、次は「推測系」であることが分かる。日本語原作と中国語原作において数の差が大きいのは「記号系」であるが、これは日本語と中国語の記号の使用習慣から来た差であり、日本語の正書法として文章の中で句読点以外の記号はあまり使われないのに対し、中国語の記号の使い方は豊富だからであると考える。

「原因・理由系」、「推測系」、「記号系」のほかに、「のだ」との対応としてよく取り上げられる「“是/是…的”系」が少ない数で見られた。つまり、実際に調査してみると、“是/是…的”は「のだ」の対応形式としてそれほど典型的ではないことが分かる。

では次からはそれぞれのカテゴリーの意味と内訳を見る。

2.2 原因・理由系

「原因・理由系」とは、「理由・解釈」の「のだ」に対応する中国語の形式は、中国語の中で一般的に「原因・理由」を表す形式であると思われているものである。今回の調査で見られた「原因・理由系」の形式は表 5 のようである。

[15] 中国語が原作に場合は「中国語で「原因・理由系」の意味を表すもののうち、日本語に訳されたときに訳語が「のだ」になっているもの」という基準で統計している。中国語で「原因・理由系」であるものの合計はいくつで、そのうち、「のだ」に訳されているものがどのぐらいの割合かについては第二章の表 9 と表 10 を参照いただきたい。

表 5　原因・理由系の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	原因・理由系の内訳								
	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	計
ア	1	0	0	0	0	0	0	0	1
マ	1	0	0	0	1	0	0	0	2
稲	0	0	0	0	0	0	0	0	1
我	0	1	0	1	0	0	0	0	2
止	1	0	0	0	0	0	1	0	2
知	1	0	0	0	0	0	1	0	2
ザ	2	1	0	0	0	1	7	0	11
生	1	0	1	0	0	0	0	0	2
総計	7	2	1	1	1	1	9	0	23

表 6　原因・理由系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	原因・理由系の内訳								
	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	計
参	0	0	0	0	0	0	3	1	3
新	1	0	0	0	0	0	4	0	5
腾	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蚂-独	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蚂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	1	0	0	0	0	0	7	1	8

A1 から A16 はそれぞれ次のような形式である。

A1:因为(～なので、～だから)

A2:因此(これによって、そのために、それゆえ、そこで、従って)

A3:原因在于(原因は～にある)

A4:正因为(だからこそ)

A5:这缘于(これは～のせいだ)

A6:由于(これは～だから)

A7:所以(だから、ゆえに、従って)

A8:所以说(だから、ゆえに、従って)

表を見ると、A1(“因为”)とA7(“所以”)が最も数が多いが、両者は中国語の中で原因・理由を表すもっと典型的な形式である。これはつまり、「理由・解釈」を意味する「のだ」は、中国語の典型的な原因、理由、解釈を表す形式に訳されることが多いことを示している。もとからいうとこれは最も論理的な結果なのであるが、今回の調査結果はこのことの裏付けになったと言える。

ここで例をいくつか示す。

(1) 自分が思っている自分と、まわりが見ている自分はまるで違います。デジタルカメラやスマートフォンで五メートル離れたところから自分を撮影してもらえば一目瞭然りようぜんです。カメラは自分のありのままの姿を写し出してくれるのです。

(『ザ・ラストマン』)

自己以为的自己，和周围人看到的自己完全不同。如果你用一个数码摄像机或者智能手机放在五米之外对自己进行摄影，就能够一目了然，因为摄像机拍下的都是自己最真实的样子。

(2) 一九六八年に京セラは米国西海岸に駐在員事務所を設け、翌年には現地法人、京セラインターナショナル（KII）を設立し、シリコンバレーを中心にファインセラミック部品の販売を開始した。だが、クレームや納期問題が起こると、ＫＩＩの現地営業と京セラの製造部門のあいだでたちまち問題が発生した。米国の営業は、自分の実績があがらないのは、日本の製造に問題があると怒り出した。当時はテレックスで連絡をしていたが、抗議のテレックスが日本に次々と舞い込んできた。

本来ならば、客先からのクレーム問題などが起きたときこそ、製造と営業が一致協力してお客様の信頼を取り戻すよう努力しなければいけないのだが、実際は危機に際して内輪もめが起こり、そのことがめぐりめぐってお客様の耳に入る。現地の営業のなかには、納期問題などでお客様に何度も怒られると、「これは京セラの製造が悪いんです。私は何度も日本へテレックスを打ちましたが、製造が約束を守りません」というようなことを平気で言う者もいた。自分の顔を立てるために、営業がお客様に向かって自社の製造部門を非難するのである。そうすれば、京セラグループ全体が信用を失い、二度と注文をもらえなくなるのに、そんなことまで言い出す始末である。

(『アメーバ経営』)

1968年，京瓷在美国西海岸设立了派驻事务所，第二年又成立了当地法人“京瓷国际”（KII），以硅谷为中心开展了精密陶瓷零部件的销售活动。但是，一旦出现客户投诉和交货日期问题，KII 的当地销售负责人与京瓷制造部门之间马上

就出现纠纷。在美国的销售部门认为，自己的业绩无法提升，责任全在日本的制造部门，因而非常气愤。当时还是用电传联系的时代，抗议的电传接二连三地发到日本。

按理讲，客户提出投诉，制造部门和销售部门更应该互相配合、互相协助，为恢复客户的信任而共同努力。但在实际上，当面对危机时却发生了内斗。而且这种内部纷争还会辗转传到客户的耳朵里。当交货日期推迟、屡次受到客户指责时，当地有的销售人员就会毫无顾忌地说："这是因为京瓷的生产部门不负责任。我已经多次发出电传催促，是他们不守信用。"为了维护自己的面子，销售员在客人面前贬低自己公司的生产部门。这么荒唐的态度就让整个京瓷集团丧失了信用，再也不能从这个客户那里拿到订单了。

(3) 部署全体の会議はさすがに一五分では終えられませんが、日常の部下とのミーティングなどは一五分もあれば充分です。技術職のときも製品の図面を広げて、「この設計でうまくいくのかどうか」と延々と悩んでいる時間がもったいないので、「まずは試作品をつくってみよう」と行動に移していました。走りながら考える性分なのです。

（『ザ・ラストマン』）

如果是公司全员参加的大会当然不可能在十五分钟之内结束，但日常与部下之间的会议只要十五分钟就足够了。我担任技术职务的时候曾经有过拿着产品设计图反复讨论"这个设计能不能行呢"的经历，但实际上这完全是在浪费时间，所以不如"首先做个样品看看"，直接采取行动，因为我是个喜欢在奔跑中思考的人。

(4) 最悪の事態を想定するメリットは、まさに長谷部選手のように何が起きるか分からない予測不能な状況、また重要な仕事に対する心の備えとして非常に効果的な習慣です。

最悪を想定しておけば何が起きても想定内で冷静に対処できるのです。つまり、腹をくくるということです。

（『マイナス思考』）

设想最糟糕的状况是非常行之有效的思维习惯，其好处在于，面对无法预测的状况和重要工作时，可以提前做好心理上的准备。因为设想了最糟糕的状态，于是事实上无论发生什么，都在预料之内，就能做到冷静对待了。即提前做好心理准备，关键时刻无所畏惧。

(5) 京セラが手がけるセラミックスはファインセラミックスと呼ばれ、コンピュータや携帯電話などさまざまなハイテク商品に汎用される高度な素材です。こ

のファインセラミックスに関する技術は京セラが世界にさきがけて開発を進め、次々に新しい地平を開いてきたと自負していますが、もともと私はセラミックスの門外漢でした。学生時代は石油化学などの有機化学を専攻していたのですが、就職が思うようにいかず、不本意ながら、京都にあった無機化学の碍子製造会社に入ったのです。

（『生き方』）

京瓷最初开发的陶瓷叫做“精密陶瓷”，广泛应用于电脑、手机等高科技产品。在“精密陶瓷”的技术开发上，京瓷在世界上处于领先地位并不断有新的突破。然而，在陶瓷方面我原来完全是外行，大学的专业是石油化学、有机化学。因为就职无门，才不得不进了京都一家制造属于无机化学的绝缘瓷瓶的企业。

(6) そんな場所で、ＣＣＣは家電のイノベーションを始める。

従来の家電量販店は、モノによってゾーン分けがなされていた。テレビのエリア、冷蔵庫のエリア、エアコンのエリア、洗濯機のエリア……。さまざまなメーカーのさまざまな機種を集めて、顧客にそこから選んでもらうには、この方式が効率がよかったのだろう。ただし、そこには〝提案〟はない。あるのは、せいぜいが〝説明〟だ。〝機種の間の相違は説明しますから、あとはあなたが選んでください〟という姿勢。しかし、これではネット上の店舗に打ち勝つ見込みは、まずあるまい。品揃えの面ではネットに優位性があることは、すでに見てきた通りだ。実際、アマゾンは全体として、中野区の面積とほぼ同じほどの倉庫スペースを確保している。品揃え競争をしても、勝てるはずがないのだ。

（『知的資本論』）

就是在这里，CCC 将要开始家电的创新。

传统的家电大卖场是按照商品来划分区域的。电视区、冰箱区、空调区、洗衣机区……如果把各个厂家的机型集中起来，让顾客从中选择，这种方式的效率想必很高。但是，这里没有“提案”，最多只是“说明”。就是“我为您讲解机型之间的区别，然后请您自己选择”这样的态度。但这样是不可能胜过网店的。前面已经讨论过，在商品阵容方面，网店占据着绝对的优势。亚马逊的全部仓库面积加起来几乎有中野区[5]那么大。所以如果要比谁的商品齐全，传统的家电卖场必败无疑。

(7) 我们在设计网站投放的广告，在审核设计稿时，会要求设计师把广告模拟到不同网站的截图上，以判断效果是否最好。我们投放在楼宇框架的广告，每一个设计方案都会打印出等大尺寸，在投放前一周就贴在办公室和办公楼的电梯间来测试，看看阅读的感受是不是最佳，然后反过来改设计、图形创意甚至文字大小和位置，保证效果达到最好。

所以说，现场是检验设计好坏的唯一标准。

（《参与感》）

インターネット上に掲載する広告のデザインを決める際には、デザイナーに、各ウェブサイトに掲載した場合のシミュレーションをするよう求めている。ビルなどに掲示するパネル広告の場合、掲示の１週間前からオフィスや会社のエレベーターに貼り出す。広告を見た印象を確認し、さらにデザインやレイアウト、文字の大きさや位置を調整して、最も効果的なデザインに仕上げていく。

デザインの善し悪しを判断する唯一の基準は、現場での検証なのだ。

(8)　过了一段时间，这些朋友又来了，他们问：你上次注册的时候，用的手机号和名字是什么？我说：这重要吗？他们说：重要，因为那家培训机构表示，如果有推荐人，他们会给推荐人再送 10 节课。

（《新零售》）

数日後、また友人たちからダイレクトメッセージが届き、私の登録した登録名と携帯番号を教えて欲しいと言われた。「それは重要なことなのか？」と私が訊ねると、彼らは「重要だよ、あの英語教室は誰かからの紹介の場合、その紹介者へレッスン 10 回分がプレゼントされるんだ」と言う。

2.3「のため」系

「「のため」系」とは、中国語の対応形式は「～のため」を表す表現のことである。考察結果の内訳は次のようになっている。

表 7　「のため」系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	「のため」系の内訳	
	B1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	0	0
我がセブン秘録	1	1
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	1	1

表 8　「のため」系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	「のため」系の内訳	
	B1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

B1：为此(このために)

今回の考察結果から、理由・解釈の「のだ」が「のため系」に対応するケースはわずかしかないことが分かった。

B1 の“为此”は、《现在汉语八百词》の中で「原因、目的を表す(表示原因，目的)」と記述されている。つまり、「原因・理由」系と同様な働きを持つことが分かる。従って、「理由・解釈」の「のだ」の対応形式にされるのは妥当であると考える。

下に対応例を示す。

(9)　オムニチャネルは、ネットとリアルを融合するからこそ開発可能な商品を次々生み出し、流通の新しい業態をつくり出す。これをわたしは「流通のあり方の最終形」と呼びました。

このオムニチャネルの例が示すように、新しいものをつくり出すには、世の中にすでにあるものを単に結びつけるだけではなく、新しい価値を生み出せるかどうかが問われます。

ここで、いまはない状態から、新しいものを生み出し、不便や不満を便利や満足へと変えていく発想力が必要になってくるのです。

(『我がセブン秘録』)

全渠道业务因为实现了线上和线下渠道的融合，所以能够不断研发出新的产品，并创造出零售领域新的商业形态。对此，我将其称为“流通方式历史的终结”。

正如全渠道业务案例所示，创造新的事物，不仅需要将社会上现有的事物进行简单的组合，而且需要看其是否能够创造新的价值。

为此，需要一种想象力，这种想象力能够从非现实的状态中创造出新的事物，将顾客的不便与不满转变为便利和满意。

2.4 順接系

「順接系」とは、中国語の対応・応対形式は中国語の中で順接を表す形式の総称である。今回の考察で現れたのは “于是” である。

表 9　順接系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	順接系の内訳	
	C1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	0	0
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	1	1
生き方	0	0
総計	1	1

表 10　順接系の中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	順接系の内訳	
	C1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

C1：于是(そこで、それで)

(10)　そういう事業は遠ざける対象になりました。総合電機メーカーの看板を下ろし、社会イノベーション企業として再スタートを切ることになったのです。

（『ザ・ラストマン』）

所以这种事业就是应该撤出的事业。于是，日立摘掉综合电器生产商的招牌，以社会革新企业的形象开始重生。

今回の調査結果では、順接系の対応形式は、日中原作を合わせて総計1個しかなかった。通常偶然とも考えられるのであるが、本論文ではあえてそうではなく、「「理由・解釈の「のだ」」が順接を表す中国語にも対応する可能性がある」という事実が「のだ」の対照研究の立場から言えば重要であると考えている。ここでは順接系の対応形式の妥当性(合理性)について見てみる。

「順接」という言葉は、『日本国語大辞典　第二版』の解釈によると、「二個の文または文節の接続の仕方の一つ。前項が後項の順当な理由、原因、きっかけ、成立条件などになっているもの。ふつうは接続詞、接続助詞によって表示される」という。つまり、前件が原因・理由、後件が結果の順番であるとき、もしくはそうであるべきとき、順接の表す表現が使かわれ、そしてしるしのように二つの文の意味を自然に繋いでいくのである。逆にいうと、このようなしるしがあると、たとえ前件と後件に原因・理由を表す表現が明示的に出ていなくても、「原因・理由→結果」の順序になっていることが自動的に示される。要するに、順接系の表現は理由・解釈の役割を直接的に担っていなくても、よそから理由・解釈の意味を助成していると言えるのである。

このようなことを考えると、理由・解釈の「のだ」に対応・応対する形式の中で順接の表現が含まれるのは理論上妥当なことである。

2.5 “是”/“是…的”系

「“是”/“是…的”系」とは、「のだ」の対応する中国語が“是～”、“是…的”になるものである。

“是～”、“是…的”と「のだ」の対応性は杉村(1980)をはじめ、多くの研究で論じられており、その中、杉村(1999)は中国語の“是…的”について“信息焦点指向型(情報焦点指向型)”と“事件原因解说型(出来事原因解説型)”が存在すると述べている。一方、「のだ」についての研究も、その多くは「のだ」に焦点フォーカスの機能と原因説明・解釈の機能があると論じている。両者は似通った構造と機能を持つものとして、比較対照研究の対象によくされてきた。その他、王(1997)は“是…的”だけでなく、“是～”と「のだ」も機能的な類似性を持っていることを論じ、両者の対応性を記述してきた。従って、ここでは“是”、“是…的”と「のだ」の対応の合理性についてさらに論じることをしないが、対応状況と実例だけを示す。ただし、一つだけ言うならば、“是”、“是…的”と「のだ」の対応性はよく論じられるものの、今回の、比較的全面的な調査においては、両者の対応割合はそれほど高くないことが分かった。このことは、王(1987)が学術系書き言葉の対訳調査の結果からすでに明らかにされているが、今回の一般教養類の書き言葉においても同様な結果の傾向が出たのである。

表 13　“是”/“是…的”系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	“是”/“是…的”系の内訳		
	D1	D2	計
アメーバ経営	0	0	0
マイナス思考	1	0	1
稲盛流コンパ	0	0	0
我がセブン秘録	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0
知的資本論文	0	1	1
ザ・ラストマン	0	0	0
生き方	0	0	0
総計	1	1	2

表 14　“是”/“是…的”系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	“是”/“是…的”系の内訳		
	D1	D2	計
参与感	1	0	1
新零售	0	0	0
腾讯传	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0
蚂蚁金服	0	0	0
総計	1	0	1

D1: 是…的(～だ、～のだ)
D2: 总是…的(いつも～だ、いつも～のだ)

(11)　羽生善治さんは著書『勝負哲学』の中で次のように語っています。

「スランプのときなどは、何でもいい、小さなことでいいから、何かを変えてみるといいと思います。早起きをするとか、服装を変えるとか、新しい趣味を始めるとか。生活の中に、そんな小さな変化やメリハリをつけることで心の停滞が防げるところがあります」

ずっと止まっているから心配が膨らむのです。不安に心が蝕まれるのです。

どんな些細なことでも解決に向けた行動を続けることで、希望を持ち続けることができ、ストレス緩和に役立ちます。

（『マイナス思考』）

羽生善治在其著作《胜负哲学》中这样写道：

“消沉的时候，可以尝试改变些什么。什么都可以，从小事开始就好。比如早起，比如改变着装，开始新的兴趣爱好，等等。生活中这样有张有弛的小变化，会防止心灵锈蚀、停滞。”

一直停滞下去，忧虑就会膨胀。焦虑的感觉是会侵蚀人的心灵的。

无论多么些微的小事，以解决问题为目标。持续行动下去，就能一直抱有希望，缓解自身的压力。

(12) 流れに慣れ、そこで効率的に仕事をこなすことを覚えていくほど、そうした姿勢を持つことが難しくなってしまう傾向が強い。だからＣＣＣでは一つの企画を具体化する作業に向かうとき、あえてその分野のアウトサイダーを担当者に任ずることが多い。

イノベーションはいつでも、アウトサイダーが起こすものなのだ。だから言い換えれば、いい意味でアウトサイダーの意識を持つことが、ビジネスの世界に身を置く人間には絶対に必要だ。流れの外にいる一般の顧客の立場に立って、自分たちの仕事を見直す視点を持ち続けることが。

（『知的資本論文』）

越是习惯了水流，并在其中学会了如何高效地完成工作，就越难持有这样的态度。所以，CCC 在让一项策划落地时，常常会特别指定该领域的局外人来负责。

创新总是由局外人发起的。所以换句话说，拥有褒义上的局外人的意识，对置身商界的人来说是绝对需要的。我们需要始终站在河流之外的普通顾客的立场上，不断审视自己的工作。

(13) 有人觉得小米的用户很“疯狂”，其实大家不知道我们团队和用户的关系，用户的参与度是远超大家想象的。直到今天，我们都会很克制，尽量不去打广告。我们想的是如何延续我们在一开始建立起的模式：怎样让用户发自内心喜欢我们的产品，怎样能把产品的体验，把产品的美誉度做到用户的心里去。

（《参与感》）

シャオミには熱狂的なファンが多いと言われている。しかし世間の人々は、私たちとユーザーの本当の関係を知らない。シャオミとユーザーの関係は、みんなが想像しているよりずっと深いのだ。これまで、シャオミは極力、広告を

出すのを控えてきた。創業当時のスタイルをいかに維持するか。どうすれば、ユーザーに製品を心から好きになってもらえるか。製品を使った喜びや感動を、ユーザーの心にとどめてもらうためには何が必要か。私たちは常にそんなことを考えている。

2.6 推測系

推測系とは、「のだ」の対応・応対する表現が中国語では判断、推理・推測の根拠を表す表現のことである。対応の詳細は以下のようである。

表 15　推測系の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	推測系の内訳					
	E1	E2	E3	E4	E5	総計
アメーバ経営	0	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	2	1	0	0	3
稲盛流コンパ	0	0	0	0	0	0
我がセブン秘録	0	0	0	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	0	0	0	0
ザ・ラストマン	1	0	0	1	0	2
生き方	0	0	0	1	0	1
総計	1	2	1	2	0	6

表 16　推測系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	推測系の内訳					
	E1	E2	E3	E4	E5	総計
参与感	0	0	0	0	1	1
新零售	0	0	0	0	0	0
腾讯传	0	0	0	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0	0
蚂蚁金服	0	0	0	0	0	0
総計	0	0	0	0	1	1

E1：我认为(～だと思う)

E2: 据说(～だと言われている)
E3: 他说(彼は～と言っている)
E4: 由此可见(このことから分かるように)
E5: 这背后代表(このことの背後は～である、これは～を意味している)

推測系にはE1のような思考内容を明示する表現、E2、E3のような判断根拠の出所を表す表現、E4のような何かを根拠としてある判断を下した結果を表す表現、E5のような出来事の結果内容を表す表現がある。これらの表現は、「から」、「ので」のような接続詞ではないものの、「根拠の出所」、「事柄の推論の結果を示す」接続表現として理由・解釈の機能を果たしている。例えば、“我认为(～だと思う)”の根拠の出所は「私の判断」、“据说(～だと言われている)” の根拠の出所は「世間/巷で流れている噂」、“他说(彼は～と言っている)” の根拠の出所は「彼の判断」)であり、そして一方、“由此可见(このことから分かるように)”、は事態Pから推論した結果Qの内容をこれから示す表現である。つまり、理由・解釈の「のだ」と機能的には重なっているため、対応・応対形式のバリエーションとしては妥当であると考える。

(14) このときは「なんで金額をその場で言わなかったんだ」と、かなりキツク叱ったことを覚えています。大事な瞬間に行動しないのは、責任を取る覚悟がないからでしょう。現場に出向いているときは、その人が会社の代表であり、ラストマンであるべきだと私は考えていますから、本来なら自分の判断で答えを出さなければならないのです。だから、「お前はすごく大事な瞬間を逃したんだぞ」と理解してもらうためにも、きちんと叱らなければなりません。

(『ザ・ラストマン』)

我记得当时非常严厉地责备了这个部下，“为什么你没有当时出价”。在关键时刻不敢采取行动，说明没有承担责任的觉悟。我认为当前往现场时，你就是公司的代表，就是最后一人，必须通过自己的判断来找出答案。所以，为了让部下清楚地认识到“自己在非常关键的时候选择了逃避”，我必须非常严厉地责备他。

(15) イチロー選手が大リーグでも長年結果を出し続けている１つの要因は感情のコントロール技術が卓越しているからなのは言うまでもないでしょう。

絶不調のイチロー選手が優勝を決する決定的な場面に差し掛かったとき、やはり巨大なプレッシャーとネガティブな思考が襲ってきたのです。

(『マイナス思考』)

从客观的视角眺望自己，是超一流人物共同使用的思维技巧。棒球名宿铃木一朗在大联盟能长年保持优秀战绩的一个主要原因，毋庸置疑是他卓越的情感掌

控技术。据说一朗被巨大压力和消极想法击中、完全不在状态时，正是决赛中的决定性时刻。

(16) パナソニックの中村邦夫氏は、「幸之助神話を壊した男」としてよく紹介されます。松下電器産業をパナソニックに社名変更し、松下電工を完全子会社化、世襲制度を廃止し、大胆なリストラに着手するなど、松下幸之助氏とは一線を画す経営改革をして見事業績をＶ字回復させました。

しかし、マスコミでは旧来の松下精神を踏襲していないように報道されていますが、中村氏は松下イズムを踏襲して経営改革をしてきたのです。

（『マイナス思考』）

例如，松下电器社长中村邦夫先生通过经营改革，使得企业业绩触底反弹，因而闻名于世。他说自己是在松下主义的导引下进行了经营改革。

(17) 先述のイチロー選手が客観的に今の自分を外から見ていたのに対して、羽生さんは俯瞰して長い時間軸の中で今をとらえているのが特徴です。

時間を俯瞰することでも冷静さ、客観性を保つことができます。

羽生さんは、勝つこともあれば負けることもある、落ち着くところに落ち着くという言葉を使って、長い将棋人生という観点から１つの負けを見ているのです。

（『マイナス思考』）

俯瞰时间的长轴也会让我们保持自身的冷静和客观。

与棒球名宿铃木一朗先生客观地从外部审视自己的做法有所不同，将棋棋士羽生善治则通过俯瞰时间的长轴来把握现在。

据说羽生棋士认为，棋士生涯既有胜利也有失利，需要在该沉淀的时刻沉淀下来，从漫长的将棋人生视角去看待某一次个别的失利。

(18) 取引先の人たちも、昔ほど飲み会に来なくなっているのが最近の傾向です。飲み会に誘うと、「今日の飲み会に行くと、どういう情報を教えてもらえるんですか？」と聞かれることもあるようです。「いや、今日は特別な情報はなくて、ただの親睦会です」と伝えると、「じゃあ僕は遠慮します」と言われたりする。飲み会の考え方が変わってきているのです。

（『ザ・ラストマン』）

最近，客户也不像以前那样愿意参加酒会了。每当发出邀请的时候，客户会问“在这次酒会上会透露什么特别的情报吗”。当得知“今天的酒会只是联络感情，没有什么特别的情报”时，对方往往会拒绝参加。由此可见，大家对酒会的认识已经开始发生改变。

(19)　これらはささやかな例ですが、何事も「言うは易く行うは難かたし」で、実行していくのは容易なことではありません。それだけに原理原則は、それを強い意志で貫かなくては意味がないのです。

（『生き方』）

这些说起来都是微不足道的小事，但凡事“知易行难”，坚持实行下去不容易。由此可见，原理原则必须以坚强的意志贯彻落实才有意义。

(20)　微博和传统媒体相比，“关注”是它最重要的创新，这背后代表用户关注操作的对象由内容变成了人。（“关注”这个动作是国外 Twitter 首先推出的，这个应该是互联网最了不起的发明之一。）

（《参与感》）

ウェイボーと旧メディアを比べて画期的なのは、「フォロー」というシステムがあることだ。ユーザーにとっては、内容よりもまず「誰が発信しているか」が重要なのだ（「フォロー」はツイッターが最初に始めたシステムだ。インターネットの世界で最もすばらしい発明のひとつと言えるだろう）。

2.7 記号系

記号系とは、対応・応対する中国語の形式は文章記号になっていることを指す。今回の調査結果は下記のようである。

表 17　記号系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	記号系の内訳		
	F1	F2	総計
アメーバ経営	0	0	0
マイナス思考	0	0	0
稲盛流コンパ	0	0	0
我がセブン秘録	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0
知的資本論文	0	0	0
ザ・ラストマン	0	0	0
生き方	0	0	0
総計	0	0	0

表 18　記号系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	記号系の内訳		
	F1	F2	総計
参与感	1	0	1
新零售	2	0	2
腾讯传	1	0	1
蚂蚁金服-独角兽	0	1	1
蚂蚁金服	0	2	2
総計	4	3	7

F1:「：」
F2:「—」

F1 と F2 の記号は、中国語の中で説明・解釈の機能を果たすものである。

《现代汉语标点符号数字用法规范手册》の中で「：」と「—」についての記述は次のようである。

“：”：
表示提示性，总说性话语之后的停顿或总说性话语之前的停顿，用来提起下文或总结上文。
(提示の意を示す語句や、内容をまとめる語句の前もしくは後ろに使われ、間を取り、次に来る内容を導入したり、前の文の内容をまとめたりする。)

“—”：
① 表示破折号后面是解释说明的部分。
(「—」の後ろは説明・解釈の内容を表すことを示す。)
② 表示意思递进。
(意味の累加を示す。)
③ 表示意思转换，意思跳跃或者意思转折。
(意味の転換、飛躍を示す。)
④ 表示语音延长。
(音の延長を示す。)
⑤ 表示话语中断。
(言葉の中断を示す。)

記述から分かるように、記号“：”は前件で言及された内容の詳細を導入する機能と、前件の内容をまとめる機能の二つがある。つまり「総まとめ」から「詳細」、及び「詳細」から「総まとめ」の内容的な転換を示しており、そして“—”も“：”と似たような機能がある。両者の機能に関しては、袁(2003)は“分号、破折号除了语法功能外还兼具逻辑功能(「:」と「—」は文法的な機能以外論理的な機能も持っている)。”と述べている。「論理的な機能」は、つまり記号でつながった全後の内容に、意味上原因と結果、もしくは因果関係で推測可能は論理性を存在することを指しているのであろう。要するに、中国語の「：」と「——」は、他の言語形式と同様に、理由・解釈の論理関係を表すことができるため、「理由・解釈」の「のだ」の対応形式としては妥当だと考えるのである。

(21)　2013 年 6 月 6 日上午，农业发展银行在银行间市场发行的短期国债出现流标，成为当年首只流标的利率债。午后，黑天鹅再次袭来——中国两家倚重同业资金的中型银行(兴业银行和光大银行)爆出千亿交割违约的传闻。这导致上海银行间同业拆放利率(Shibor)在当日全面大幅攀升，隔夜拆放利率大涨 135.9 个基点，至 5.98% 。

(《蚂蚁金服》)

2013 年 6 月 6 日午前、中国農業発展銀行が銀行間取引市場で発行する短期国債に買い手がつかず入札中止となり、この年の最初の売買不成立の利付債となった。同日午後、ふたたびブラックスワンが現れた。銀行間取引市場への依存度が高い中国の中型銀行 2 行(興業銀行、中国光大銀行)に 1000 億元規模の債務不履行があるという噂が立ったのだ。これが引き金となってこの日の上海銀行間取引金利(SHIBOR)は大暴騰し、翌日物金利は 135.9bp 上昇し５・９8%となった。

(22)　下午三点，新系统发布。五分钟后，系统准时收回。正当所有人觉得可以高枕无忧时，核算公式检验的结果让所有人都傻眼了——数据依然不对。

(《蚂蚁金服-独角兽》)

午後３時、新システムを公開した。５分後システムは時間通りに停止された。すべての人が枕を高くして眠れると思ったとき、計算公式の検証の結果にすべての人がうろたえた。データが依然として誤っていたのだ。

(23)　参与感在我的理解中至关重要，它意味着消费需求发生了一次关键的跃迁，消费需求第一次超出了产品本身，不再囿于产品的物化属性，更多延伸向了社会属性：今天买东西不再简单的是能干什么，而是我用它能做什么，能让我参与到什么样新的体验进程中去。

(《参与感》)

ユーザーの参加意識は非常に重要なものだ、と私は考えている。消費者需要の意義は時代と共に大きな変遷を遂げ、商品そのもの以上に価値を持つようになった。消費者需要は今や、商品だけでなく、生活全体に影響する。いまや私たちが商品を選ぶ基準は「どんな機能があるか」ではなく、「この商品を使ってどんなことができるか」「これを使うことでどんな新鮮な体験ができるか」なのだ。

(24) 但是要说马云率先提出“新零售”概念，小米科技董事长雷军是有一点儿不服的：其他四个新（新制造、新金融、新技术、新能源）我不和你抢，但是“新零售”这个概念是我先提出来的。

（《新零售》）

ジャック・マーが先駆けて提唱した「ニューリテール」の概念だが、シャオミ（小米科技）の会長・雷レイ軍ジュンは少々納得いかない様子だった。ほかの４つの「新（ニュー）」（新製造、新金融、新テクノロジー、新エネルギー）は彼のオリジナルだが、「ニューリテール」の概念は自分が先に提唱したと言うのだ。

(25) 于是，担保交易的虚拟账户建设被提上日程———如果每个用户拥有一个虚拟账户，就可以让买家把钱存放在里面，卖家完成一笔交易收到一笔钱，就自动划入虚拟账户，等到想用的时候一并划到银行。这样可以大大提高结算效率，同时降低转账成本。这一方案在事后被证明是有效的——如今，支付宝每天有上亿笔交易，真正需要提到卡里的，也就几十万笔。

（《蚂蚁金服》）

そこで考案されたのが、「保証取引」用のバーチャル口座だ。ユーザーが自分のバーチャル口座を持てば、買い手はそこに代金を振り込むことができる。売り手は取引が成立するごとにその代金を受け取ることができ、自動的にバーチャル口座に入金される。また、そのお金は使いたいときにまとめて銀行口座に振り替えることができる。こうすれば、決済効率は格段によくなり、振替コストも下げられる。この方法はのちに有効であることが証明される。アリペイの１日当たりの取引件数はいまや数億規模に上るが、実際にバーチャル口座から銀行口座にお金を振り替える必要があるのは、数十万件に過ぎないのだ。

2.9 その他

その他の形式は、2.1～2.8 のカテゴリーに属さないもののことである。今回の調査ではモダリティを表す形式“啊”が１件見つけた。

表 19　その他の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	その他の内訳	
	G1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	1	1
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	1	1

表 20　その他の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	その他の内訳	
	G1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

G1：啊(文末に用いて感嘆を表す)

(26)　岸本社長のテーブルには、工事部の細川学課長と 20 代の若手従業員３人が着いた。

「後輩が入ってきたらどう育てればいいのか、悩んでいるんです」と入社１年目の小島氏が口にする。すると岸本社長はこうアドバイスした。

(『稲盛流コンパ』)

与岸本社长同桌的是工程部的细川学课长和三名 20 岁出头的年轻员工。

刚进公司 1 年的小岛说："应该如何教新进公司的后辈，很伤脑筋啊！"于是岸本社长给出建议。

3. 本章のまとめと結論

1 と 2 節の調査結果を再まとめして表 21 にした。調査結果と表 21 から、「理由・解釈」の「のだ」の中国語対応形式に以下のような特徴があると結論づけられる。

表 21　「理由・解釈」の「のだ」の対応形式のまとめ

	ルート 1				ルート 2			**総計**
	原因・理由系	「のため」系	是/是…的系	記号系	順接系	推測系	その他	
日本語原作	23	1	2	0	1	6	1	34
中国語原作	8	0	1	7	0	1	0	17
総計	31 (60.8%)	1 (2.0%)	3 (5.9%)	7 (13.7%)	1 (2.0%)	7 (13.7%)	1 (2.0%)	51 (100%)
	42(82.4%)				9(17.6%)			

*()の中は総計における割合を示している。

〈1〉1 節の調査結果から、「理由・解釈」の「のだ」は中国語において言語形式として訳されるのは約 1 割しかないことが分かった。

〈2〉訳されない理由については、第 2 章の考察と合わせて考えると、「理由・解釈」の論理関係は中国語においてもともと言語形式を用いないで表現することが多いからと考えられる。

〈3〉訳される 1 割の中で、対訳の種類が最も多いのが原因・理由を表す“因为”、“所以”のような「原因・理由」系の表現である。つまり、「のだ」が「理由・解釈」として働く時、中国語に訳されても同じく、典型的な「理由・解釈」の表現になる。

〈4〉対応・応対表現の種類として、“因为”、“所以”といった原因・理由系の表現の他に、目的を解説する「のため」系、原因・状況を解説する“是/是…的”系、解説機能のある記号系がある。その他に、理由・解釈の機能が核心でないものの、事態の時間的・空間的な継起を示すことによって推論の証拠を提示し、事柄が生じた理由・結果を示す順接系、推測系の表現も対応・応対形式として使われている。

〈5〉あらゆる対応・応対表現を類別的に見ると、「理由・解釈」といったプロトタイプの意味から、異なるルートを経て大まか二種類の周辺的な対訳に発散していることが分かる。ルート 1 は、「理由・解釈」の事柄に対する解説性をスキーマに発散していくルートで、ルート 2 は「理由・解釈」の前件から後件への推論関係、論理関係をスキーマに発散していくルートである。そして数から見ると、約 7 割と 3 割の比率である。

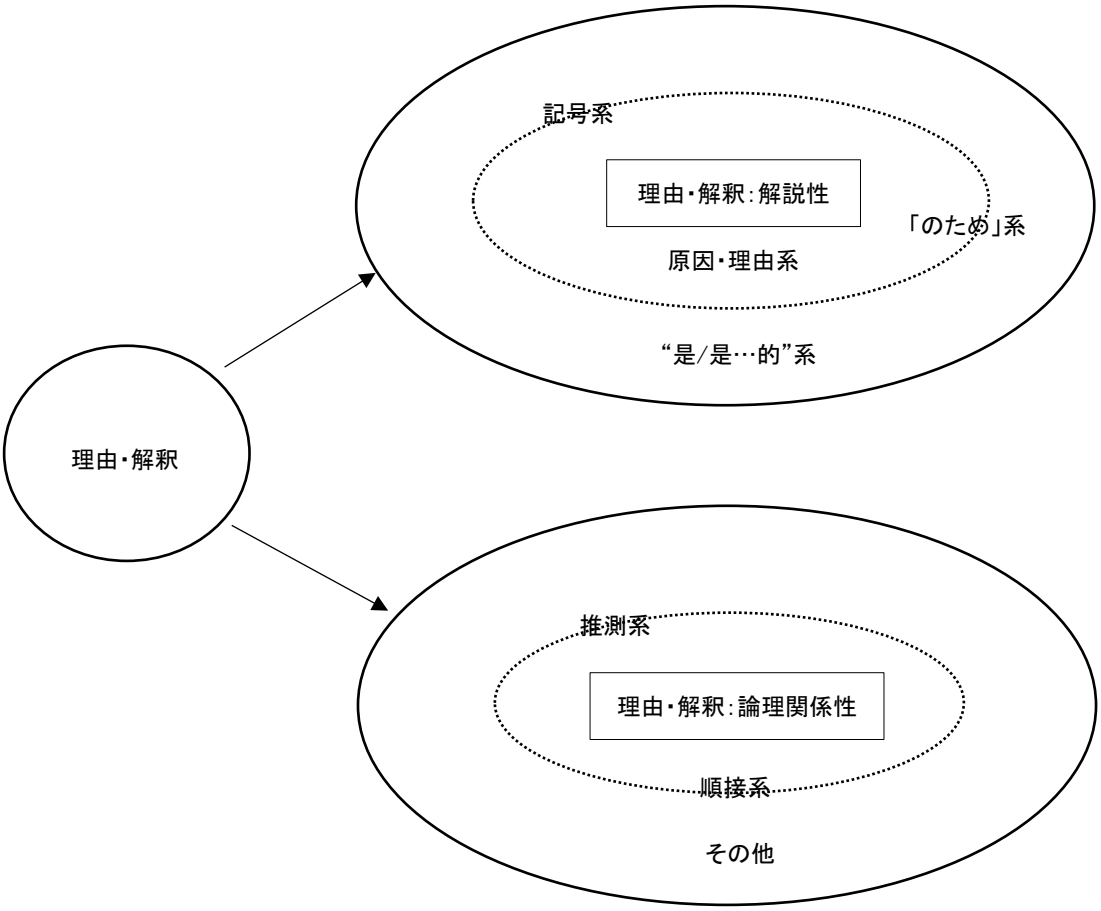

図１　ルート２のプロトタイプと周辺事例

〈6〉上述したことから、「理由・解釈」の「のだ」の対訳は、先行研究で述べられた“是/是…的”だけではなく、〈5〉で述べた二つのルートによって派生した様々な表現も視野に入れる必要がある。

〈7〉「理由・解釈」の「のだ」がこのような数多くの形式に対応する理由の一つとしては、日本語において「理由・解釈」の機能を果たす様々な形式の中で、「から」、「ので」、「ため」などに比べると、「のだ」はそもそも典型的な形式ではなく、いわば周辺的な形式であるから、同じ「理由・解釈」の意味であっても「から」、「ので」、「ため」よりそこまで意味が明白でない場合に使われたとき、対訳も「理由・解釈」の意味を示せる周辺的な形式で表現されることになったのではないかと考えられる。つまり、「のだ」は「理由・解釈」の意味においてそもそも周辺的であるから、対訳も同じような原理で分析する必要があるということである。

第 4 章　「言い換え」の「のだ」に対応・応対する中国語

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況

本章では第 3 章と同様な調査手法で「言い換え」の「のだ」文の対応状況を調査する。調査の概況は表 1 と 2 のようになる。

表 1　「言い換え」の「のだ」の中国語の対訳の概要(日本語が原作)

作品名	のだ(言い換え)の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
アメーバ経営	40	0	0.0%	40	100.0%
マイナス思考	46	0	0.0%	46	100.0%
稲盛流コンパ	21	1	4.8%	20	95.2%
我がセブン秘録	23	2	8.7%	21	91.3%
「やめる」習慣	12	0	0.0%	12	100.0%
知的資本論文	37	0	0.0%	37	100.0%
ザ・ラストマン	56	2	3.6%	54	96.4%
生き方	337	0	0.0%	337	100.0%
総計 [16]	572	5	0.9%	567	99.1%

*割合は総数における割合である。

表 2　「言い換え」の「のだ」の中国語の対訳の概要(中国語が原作)

作品名	のだ(言い換え)の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
参与感	58	4	6.9%	54	93.1%
新零售	88	4	4.5%	84	95.5%
腾讯传	25	7	28.0%	18	72.0%
蚂蚁金服-独角兽	47	1	2.1%	46	97.9%
蚂蚁金服	80	6	7.5%	74	92.5%
総計	298	22	7.4%	276	92.6%

*割合は総数における割合である。

[16] 『生き方』における「のだ」の数が他の作品より遥かに多いため、総計の数と割合を『生き方』を除いて再計算すると、総数 235 個、対訳あり 5 個(2.1%)、対訳なし 210 個(97.9%)になる。

3.1の結果と比較すると、「理由・解釈」の「のだ」文より、「言い換え」の「のだ」文の「対訳あり」の方がもっと少ないことが分かる。この結果は、2.3節と2.4節の結論を比較すると分かるが、中国語における言い換えの使用割合はもともと理由・解釈より低いため、3.1の結果もこのことの裏付けになったのである。

2.対応形式の詳細

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳

「言い換え」の「のだ」文の対応・応対形式は、種類から見ると、中国語の中で言い換えを表す形式、記号系の形式、そしてその他の形式がある。

対応形式の数からいうと、日本語が原作の方は言い換え系とその他が多く、記号系がなかったのに対し、中国語が原作の場合は言い換え系、記号系どれも多く使われている。日本語が原作の方では、日本語の正書法の制限で、文章の中で記号があまり使われないこともあると考えるため、記号系が少なかったのである。

表3　「言い換え」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況(日本語が原作)

作品名	言い換え系	記号系	その他	総計
アメーバ経営	0	0	0	0
	−	−	−	−
マイナス思考	0	0	0	0
	−	−	−	−
稲盛流コンパ	1	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
我がセブン秘録	0	0	2	2
	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
「やめる」習慣	0	0	0	0
	−	−	−	−
知的資本論文	0	0	0	0
	−	−	−	−
ザ・ラストマン	2	0	0	2
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
生き方	0	0	0	0
	−	−	−	−
総計	2	0	3	5
	40.0%	0.0%	60.0%	100.0%

表 4　「言い換え」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（中国語が原作）

作品名	言い換え系	記号系	その他	総計
参与感	1	2	1	4
	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%
新零售	0	4	0	4
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
腾讯传	0	7	0	7
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
蚂蚁金服-独角兽	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
蚂蚁金服	1	5	0	6
	16.6%	83.3%	0.0%	100.0%
総計	2	18	2	22
	9.1%	81.9%	9.1%	100.0%

2.2 言い換え系

「言い換え系」とは、対応形式が中国語の中で言い換えを表す形式のことである。今回の調査で見つかった言い換え系は以下のようである。

表 5　言い換え系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	言い換え系の内訳				
	H1	H2	H3	H4	**総計**
アメーバ経営	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	0	0	0	0
稲盛流コンパ	1	0	0	0	1
我がセブン秘録	0	0	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	0	0	0
ザ・ラストマン	0	1	0	1	2
生き方	0	0	0	0	0
総計	1	1	0	1	3

表 6　言い換え系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	言い換え系の内訳				
	H1	H2	H3	H4	総計
参与感	0	0	1	0	1
新零售	0	0	0	0	0
腾讯传	0	0	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0
蚂蚁金服	0	1	0	0	1
総計	0	1	1	0	2

H1:就是(つまり)
H2:也就是说(つまり)
H3:意思是(これは～を意味する)
H4:总之(とにかく、要するに)

中国語の言い換えを表す表現に関しては、廖(1986)は“换言之”、“换句话说”、“即”、“即是说”、“或者说”、“具体地说”、“具体而言”、“(这，那，也)就是说”を挙げている。その他に、楊(2011)は中国語の言い換えの表現を次の４種類にまとめている。

①“A+说”或“说+A”类。这一类词语主要有“具体地说”、“详细地说”、“概括地说”、“用现在的话来说”；“说得通俗一点”、“说得形象一点”、“说得直白一点”等。这类词语有一个共同的特点就是“A”自身的语义就明确指示了它所连接的前后项的语义关系。也就是说“A”的语义就是前项与后项的关系。

(“A+说”または“说+A”類。この類は、“具体地说(詳しくいうと)”、“详细地说(詳細的にいうと)”、“概括地说(概況的にいうと)”、“用现在的话来说(いまの言葉でいうと)”；“说得通俗一点(分かりやすくいうと)”、“说得形象一点(具体的にいえば)”、“说得直白一点(明白にいうと)”などがある。これらの言葉は、「“A”自身の意味そのものが前件と後件の関連性を示している」という共通点がある。つまり、“A”の意味合いは前件と関係の関係なのである。)

②“B+说”类。这一类词语主要有“换句话说”、“(这，那，也)就是说”等、它们所连接的前后项的关系比较复杂，不能简单地由“B”的语义看出来，要视情况而定。

(“B+说”類。この類は、“换句话说(言葉を言い換えれば)”、“(这，那，也)就是说(これ・それはつまり)”などがある。これらの言葉で繋がれた前件と後件の意味関係は複雑であり、“B”の意味だけでは判断できなく、具体的な状況を見て判断する必要がある。)

③“……之”类。有“总之”、“总而言之”、“换言之 ”、“简言之”、“简而言之”等。

(“……之”類。この類は“总之(一言でいうと)”、“总而言之(一言でいうと)”、“换言之(言い換えると)”、“简言之(簡単にいうと)”、“简而言之(簡単にいうと)”などがある。)

④“即”。这是唯一一个由词充当的换言类话语标记，相对简单一些。

(“即”。これは唯一の単語レベルだけで言い換えの意味が成り立つ言語標識であり、相対的に意味が単一である。)

今回の調査結果はすべて①～④類の中に属する形式である。H2 は②類の“(这，那，也)就是说”の形式と意味に一致するものであるが、それと意味的に同等の H1 も②類に属すると考える。H3 は②類の“换句话说”と同等の意味を持っており、従って同様に②類である。H4 は③類である。つまり、H1～H4 は一般的に認められる中国語の言い換えの表現であるため、「言い換え」の「のだ」の対訳としては当然妥当である。対応例は以下のようである。

(1) ――引っ張り上げる、とは具体的にどんなイメージですか。

小山:人間的に成長させるのです。稲盛さんはコンパの席で「京セラフィロソフィ」を何度も何度も私たちに語りかけました。人間として何が正しいのか、稲盛さんの考えをまとめたものが、京セラフィロソフィです。誰にも負けない努力をしなければならないとか、正しい判断をしなければならないとか、耳にタコができるくらいに私たちは聞かされました。

(『稲盛流コンパ』)

――您所说的“引领”具体指的是什么？

小山：就是使人的人格成长。稻盛先生在空巴席间，一而再再而三地向我们讲述“京瓷哲学”。诸如“作为人，何谓正确”的京瓷哲学是稻盛先生思想的集大成。“付出不亚于任何人的努力”“必须做出正确的判断”，这些话我们听得耳朵都起茧子了。

(2) どんなに数字やデータをもとに緻密ちみつに分析しても、読みが外れるときはあります。それを想定して、読みが外れたときの対策までを読んでおくように心がけたいものです。二重三重の読みが必要なのです。

(『ザ・ラストマン』)

不管对数据进行多么缜密的分析，都有可能做出错误的判断。在这种情况下，应该针对可能出现的失败提前准备相应的措施，也就是说需要两手甚至三手准备。

(3)　たとえば、五〇歳くらいで海外の大きなプロジェクトを指揮したいと思うのなら、三五歳くらいまでには英語をマスターしないといけません。そのためにTOEIC で八〇〇点取ろう、海外勤務を希望して経験を積もう、あるいはビジネススクールに通って勉強しようという具合に、目標に近づくために今何をすべきかを逆算して考えるのです。

（『ザ・ラストマン』）

比如，你希望自己在五十岁的时候有机会到海外去负责一个大型项目，那么你在三十五岁之前就必须熟练地掌握英语。为了实现这一目标，你可以参加 TOEIC 考试取得八百分以上的成绩，还可以申请前往海外工作积累经验，或者通过商业学校来学习英语。总之，通过逆向思维，找出为了实现目标现在应该做些什么。

(4)　国画里讲究“守黑留白”。设计要留白，设计语言别太满，意思是指要留有想象空间，要有期待感。“参与感三三法则”提到的设计参与互动的方式，留有期待感就是为了让用户更方便参与进来点评。

（《参与感》）

中国画の世界には、「余白を大事にする」という伝統がある。デザインでも余白は重要で、言葉を詰め込みすぎてはいけない。見た人に想像する余地を与え、期待感を持たせることが必要なのだ。「３と３の法則」で提案した「インタラクティブな企画」でも、ユーザーが参加してあれこれ評価し合う余地を残すことが重要だった。

(5)　分布式数据库由于成本低、性价比高，被视为解决“双 11”支付峰值这一世界级难题的钥匙。但问题在于，分布式数据库所需的普通 PC 机从单个个体来考量，都达不到金融级别的稳定性，如果其中一台机器“罢工”，其他机器补位备份数据不及时，容易产生坍塌效应。更大的难点是要让每台机器的工作量始终保持均衡，否则工作量过大的机器容易崩溃，同样会引发一场链式坍塌。也就是说，解决世界级难题的办法是另外一个世界级难题。

（《蚂蚁金服》）

分散型データベースはコストパフォーマンスがよいため、「双 11」の決済ピーク値という難題を解決する鍵だと考えられていた。しかし、分散型データベースを構成する一般的なＰＣの安定性が金融で必要とされる水準に到達していないという問題があった。もしその中の１台でも正しく作動せず、代わりにバックアップを行う他の機器が一定の時間内に処理できなければブレイクダウンしてしまう。しかも、すべての機器の作業量が終始均衡を保った状態でなければ、作業量の負荷が大きすぎるＰＣがクラッシュし、他のＰＣも連鎖的にクラ

ッシュする。世界レベルの難題を解決する方法もまた、世界レベルの難題であったのだ。

2.3 記号系

言い換えの「のだ」に対応する中国語形式は、理由・解釈の「のだ」と同様に記号系があり、具体的には次の 2 種類がある。

表 7　記号系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	記号系の内訳		
	I1	I2	総計
アメーバ経営	0	0	0
マイナス思考	0	0	0
稲盛流コンパ	0	0	0
我がセブン秘録	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0
知的資本論文	0	0	0
ザ・ラストマン	0	0	0
生き方	0	0	0
総計	0	0	0

表 8　記号系の中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	記号系の内訳		
	I1	I2	総計
参与感	2	0	2
新零售	4	0	4
腾讯传	7	0	7
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0
蚂蚁金服	1	4	5
総計	14	4	18

I1:「：」

I2:「—」

「：」と「—」は、理由・解釈の「のだ」との対応・応対形式にもなっているが、これをどのように理解すれば良いのかについて見てみよう。

まずは第 3 章で挙げた「：」、「—」の説明を再掲する。

> “：”：
> 表示提示性，总说性话语之后的停顿或总说性话语之前的停顿，用来提起下文或总结上文。
> (提示の意を示す語句や、内容をまとめる語句の前もしくは後ろに使われ、間を取り、次に来る内容を導入したり、前の文の内容をまとめたりする。)
>
> “—”：
> ① 表示破折号后面是解释说明的部分。
> (「—」の後ろは説明・解釈の内容を表すことを示す。)
> ② 表示意思递进。
> (意味の累加を示す。)
> ③ 表示意思转换，意思跳跃或者意思转折。
> (意味の転換、飛躍を示す。)
> ④ 表示语音延长。
> (音の延長を示す。)
> ⑤ 表示话语中断。
> (言葉の中断を示す。)
>
> (再掲)

第 1 章で述べたように、本論文のいう「言い換え」は、下記の 6 つの場合を指しているが、「：」の説明の“总结上文(前の文の内容をまとめる)”は、⑥の記述と重なるため、両者は同じ機能を持っていると考える。楊(2011)の言い換えに対する定義を記述を再掲する。

> ①’相容关系(包容関係)：
> 相容关系指的是前后两个概念的外延有重合，即他们指称的对象有一部分是重合的。
> (包容関係は、前件と後件の内容の外延が重なっている場合を指す。つまり指示対象は部分的に重なっているのである。)
>
> ②’不相容关系(非包容関係)：
> 不相容关系是说如果两个词项的外延完全不重合，即两个词项指称的是两个完全不同的对象，那么两个词项之间具有不相容关系。

（非包容関係は、前件と後件の外延は完全に重なっていなことを指す。つまり指示する対象は完全に異なる場合、両者は非包容関係にあるのである。）

③’推论关系（推論関係）：

推论是用指语言形式表达出来的推理。因为推理是逻辑学还是那个的概念，所以我们可以用逻辑学来分析换言类话语标记所表示的深层语义关系。推理在逻辑学中是指有一个或几个已知的的判断（前提），推导出一个未知的结论的思维过程。

（推論は言語形式で表された推理である。論理学の概念であるため、論理学の概念で言い換えの深層関係を分析すると、1 つもしくは複数の既知の判断（前提）で 1 つ未知の結論を導き出す過程を指しているのである。）

④’解证关系（解説・証明関係）：

解证关系指的是换言类话语标记所连接的后项对前项的内容进行解释分析，或者举例说明，目的就是使听话人能更加准确地理解说话人的意图，从而加深体会。

（解説・証明関係は、言い換えの標識でつながった後件は、前件の内容に対して解説分析、もしくは例をあげ、説明を行うことを指す。目的は、聞き手に話しての意図をよりよく理解してもらうことである。）

⑤’定义关系（定義的関係）：

定义是揭示概念内涵的逻辑方法，是用简单的语句揭示所反映的对象的特有属性或本质属性，由被定义项，定义项和定义关联项三部分组成。其中定义关联项是联结被定义项和定义项的概念，表现在具体的语言中，可以把换言标记作为联结二者的定义关联项。

（定義は、概念の内包を示す論理手段であり、簡単な言葉で指示対象特有の属性や本質的な属性を掲示するものである。定義は、被定義項、定義項と定義関連項で構成される。その中、定義関連項は被定義項と定義項をつなげるものであり、言語形式の中で現れる。そして言い換えの標識は定義関係項としてみなすことができる。）

⑥’概括关系（総括関係）：

概括关系与两层含义：一是前项是总体的叙述，后项是从不同方面不同角度进行的介绍，即总分关系，前项对后项的概括；一是前项是分述，后项是概括总结，即分总关系，后项对前项的概括。

（総括は 2 つの用法がある。1 つは、前件が全体的な説明であり、後件が異なる角度からそれを説明紹介するものである。つまり、前件と後件は「総括―詳細」の関係である。もう 1 つは、前件が詳細的な説明で、後件が総括という「詳細―総括」の関係である。）

（再掲）

一方、「—」に関しては、上記の用法記述① “表示破折号后面是解释说明的部分(説明・解釈の内容を表すことを示す)” と②“表示意思递进(意味の累加を示す)”の用法があるが、①’～⑥’の記載した「言い換え」の用法の論理からいうと、①は③’、②は④’にあたる。つまり、「—」の使い方も「言い換え」の論理と重なる部分があるため、「言い換え」に対応する中国語形式として使われているのである。

以下で例文を示す。

(6) 在启动小米之家这件事情上，我们又做了不少“反传统”的选择。一般对于一个新企业来讲，在业务刚刚起步的阶段，建立面向全国的售后服务网点是一件非常困难且投入巨大的事情。传统的做法是先快速选择建立授权加盟的第三方服务网点。然而，我们选择了一个最笨的方案：在启动第三方服务网点的同时，还同步开始建设官方售后服务门店“小米之家”的工作。小米之家没有选择开在闹市临街的地方，都选址在写字楼里，但要求附近交通方便，比如步行至城铁 10 分钟。虽然是服务门店，但内部装修设计标准要向最好的销售门店看齐。

（《参与感》）

「シャオミの家」を始める過程で、私たちはいくつもの「常識はずれな選択」をした。一般に、創業したばかりの企業にとって、全国的にサービスセンターをつくるのは簡単ではないし、巨額の費用もかかる。伝統的な手法は、提携先を見つけてライセンス契約し、サービス拠点とすることだ。しかし、私たちは最も愚かに見える選択をした。提携先を探すかたわら、直営のサービスセンター「シャオミの家」を開く準備を始めたのだ。店舗には大通りに面した建物ではなく、ビルの１室を選んだ。ただし、地下鉄の駅まで徒歩 10 分以内など、交通の便の良さだけは重視した。また、サービスセンターとはいえ、販売店と同じように内装には手を抜かないことも重要だった。

(7) 我很推崇这一品牌，无印良品一直给我很多启发：美好的设计传递的情绪能够如此慰藉人心。

（《参与感》

私はこのブランドを心から尊敬している。無印良品は私に多くの気づきを与えてくれた。美しいデザインを通じて伝わる思いが、いかに人の心を癒すかを教えてくれたのだ。

(8) 但是，到 2015 年左右，高歌猛进的互联网电商渐渐遇到一个严重的问题：电商用户的增速开始放缓。

（《参与感》）

しかし2015年になると、勢いよく発展してきたｅコマースも次第に深刻な問題を抱え始めた。ｅコマースのユーザー数の増加スピードが落ち始めたのだ。

(9)　从上市的2004年起，腾讯按时对外发布财务季报、半年报以及年报，当我将这些文件一一细读完毕之后，终于得出了一个不无沮丧的结论：你永远无法从财务报表上读懂一家互联网公司。

（《腾讯传》）

テンセントは上場した２００４年以降、スケジュールどおりに四半期、半期、年次の財務諸表を公表してきた。それらをじっくり読み込んでいったところ、いささか悲しい結論が出た。財務諸表からは永遠に、この会社がインターネット企業だとは読み取れないのだ。

2.4 その他

最後はその他の対訳形式について見ていよう。内訳は表9と10のようである。

表9　その他の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	その他の内訳				
	J1	J2	J3	J4	総計
アメーバ経営	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	0	0	0	0
稲盛流コンパ	0	0	0	0	0
我がセブン秘録	1	1	0	0	2
「やめる」習慣	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	0	0	0
ザ・ラストマン	0	0	0	0	0
生き方	0	0	0	0	0
総計	1	1	0	0	2

表 10　その他の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	その他の内訳				
	J1	J2	J3	J4	総計
参与感	0	0	1	0	1
新零售	0	0	0	0	0
腾讯传	0	0	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	1	1
蚂蚁金服	0	0	0	0	0
総計	0	0	1	1	2

J1:可以看出(このことから分かるように)
J2:因此(そのため)
J3:所以(そのため、だから)
J4:最后的结果是(最後の結果は)

その他に含まれる形式は、複合形式が大多数であり、意味も多義的であるため、「言い換え系」や「記号系」のようにはっきりカテゴリー化することができないが、現れた文脈状況に合わせて検討すれば、これらの形式は意味がまったくバラバラであるわけでもなく、何種類かに分かれており、そしてそれらの種類は 4.1.4 で再掲した「言い換え」という意味機能の種類に対応していることが分かる。簡単に再掲すると、この 6 つの種類である。

①’相容关系(包容関係)
②’不相容关系(非包容関係)
③’推论关系(推論関係)
④’解证关系(解説・証明関係)
⑤’定义关系(定義的関係)
⑥ ’概括关系(総括関係)

J1～J4 を種類ごとに分けると、まず第一類は、J1“可以看出(このことから分かるように)”、因果関係を表す J2 の“因此(そのため)”と J3 の“所以(そのため、だから)”である。これらは、前件の事柄に基づいて結果を推論する過程を表す形式である。「言い換え」の③’「推论关系(推論関係)」を表す形式とも言える。

第二類は J4“最后的结果是(最後の結果は)”である。これは、結果内容を表す形式であり、前件の内容をまとめ効果がある。つまり「言い換え」の⑥’概括关系(総括関係)にあたる。

例文は以下のようである。

(10) わたしは現役時代、入社式で新入社員たちに向かって、「お客様としてお店を利用していたときの心理や感覚を大切にしてください」といい続けました。入社するまではみんな、セブン‐イレブンやヨーカ堂に対して、「こんな商品がなかった」「サービスが悪かった」といった批判精神を持って買いものをしています。それは何よりもお客様としての心理を持っているからです。

ところが、いざ自分が入社してしまうと、「お客様の要求を満たすのは難しい」などといい始める。買い手から売り手に回ると、売り手の都合、売り手の論理に染まってしまう。

これは新入社員に限りません。誰もが一歩仕事から離れると、買い手の心理を持つのに、また仕事に戻り、売り手に回ると途端に変わる。無意識のうちに、立場を使い分けてしまうのです。

（『我がセブン秘録』）

在退休之前，我曾不断在新员工入职仪式上对新进员工强调："请你们时刻谨记自己作为顾客在商店购物时的心理和感觉。"入职之前，大家在购物的时候，对于 7-Eleven 和伊藤洋华堂怀有一种"这个商品没有""服务不好"等批判精神，而这正体现出其作为顾客的一种心理状态。但是，一旦进入公司成为公司员工后，这些人就开始抱怨"太难满足顾客的需求了"。当自己的身份从买方转变为卖方后，就会站在卖方的立场，按照卖方的逻辑思考问题。

这种情况不仅出现在公司新员工身上。无论是谁，一旦离开工作岗位，就会切换为买方的心理状态，但是当回到工作岗位后，其心理又会转变为卖方心理。可以看出，每个人都会无意识地根据情况的不同，采取不同的立场。

(11) ところが、売り手から見ると、大きなパック詰めは「お買い得」を意味したため、店頭に並べ続けました。その結果、売り上げはどんどん落ちていきました。買い手から見ると、「必要以上に買わされる押しつけ」となったからです。

逆に「量り売り」は売り手から見ると、「手間がかかる」になりますが、買い手にとっては、「うれしい買い方」になります。売り手が分母か、買い手が分母かで正反対の意味になるのです。

（『我がセブン秘録』）

从卖方的角度来看，大包装是一种"优惠"措施，因此即便时代变迁，依然采用这种销售模式，导致销售额不断下滑。从买方的角度来看，这是一种"超出需求之外强加的买卖"。

如果是按量销售的话，从卖方的角度来说，这种销售模式耗时耗力，但是对于买方来说，却成为一种受欢迎的销售方式。因此，根据分母是卖方还是买方，同样的事情却表现出完全不同的价值。

(12) 用户的参与热情最珍贵，应该给他们提供足够便利的工具。所以，我们选择了做出一个产品，即“我是手机控”的页面生成工具，用户只需要在其中的机型列表进行选择，即可自动生成一张图片和微博文案，用户再点一下按钮就把他使用手机的历史，分享到微博上去了。

（《参与感》）

多くのユーザーに参加してもらうため、便利なツールを提供することにした。「私はケータイ依存症」のページ生成ツールをつくったのだ。機種一覧の中から自分が持っていた機種を選ぶだけで、１枚の投稿用画像にまとめてくれる。ユーザーはボタンをタップするだけ。これで自分の「ケータイ史」をウェイボーにアップすることができるのだ。

(13) 当时，用户在淘宝上购物结算用到支付宝时，会遇到一个银行渠道的选项，支付宝所有的支付工具都叠加在此，这个区域也是支付宝最核心的区域。按理说，用户在选择银行之后，输入密码再点击确认就可以完成支付，但这些支付工具没有被很好地集成。支付步骤不同，银行渠道稳定性不同，对用户的要求也不同。收银台本来是要化繁为简，但是由于在集合不同银行的支付产品时，不可避免地夹杂着各种各样的因素：业务的要求、金融渠道运营的诉求、合规的要求、技术的要求，以及客户自身锁定性的要求。当这些都罗列在一起之后，谁都讲不清楚“收银台”到底是怎么一回事，最后的结果是几十个收银台的开发体验全部不一样，导致用户到处“乱跑”。

（《蚂蚁金服-独角兽》）

当時、ユーザーがタオバオで買い物をして清算する際、アリペイの画面に銀行を通して支払う選択肢が現れた。そこには、アリペイの決済ツールが一つひとつ付け加えられていた。ユーザーは銀行を選んだあと、パスワードを入力し、確認ボタンをクリックすれば決済が完了するようになっているのだが、決済手段の選択肢には統一性がなく、決済のプロセスも銀行のシステムの安定性もユーザーがしなければならないことも異なっていた。決済をする部分は、本来簡単にできなければならないはずだが、さまざまな銀行の支払いサービスが一緒になっているため、それぞれの銀行業務に関するコマンド、技術的な条件、および顧客自身の紐づけに関するコマンドなど、さまざまな要素がそこに差し込まれる。これらが皆一緒に羅列されると、「収銀台」が一体何なのかわからな

くなってしまう。数十ある決済窓口の開発の過程・思想がすべて異なるのでユーザーは混乱してしまうのである。

3. 本章のまとめ

1 節と 2 節の考察のまとめるとこのような結論が得られる。「言い換え」という用法はもともと多義的であるため、その機能を果たす「のだ」に対応する中国語も様々なバリエーションを呈している。しかし、これらのバリエーションは乱雑で無関係なものではなく、「言い換え」という言語が本来持っている種類とそれらの定義に従っており、そして収まっているのである。今回の考察の結果として、「言い換え」の「のだ」の対応形式として、「言い換え」の６種類の中の３種類、“推论关系(推論関係)”、“解证关系(解説・証明関係)”、“定义关系(定義的関係)” に属する形式が観察された。対応関係を図にすると次のようになる。

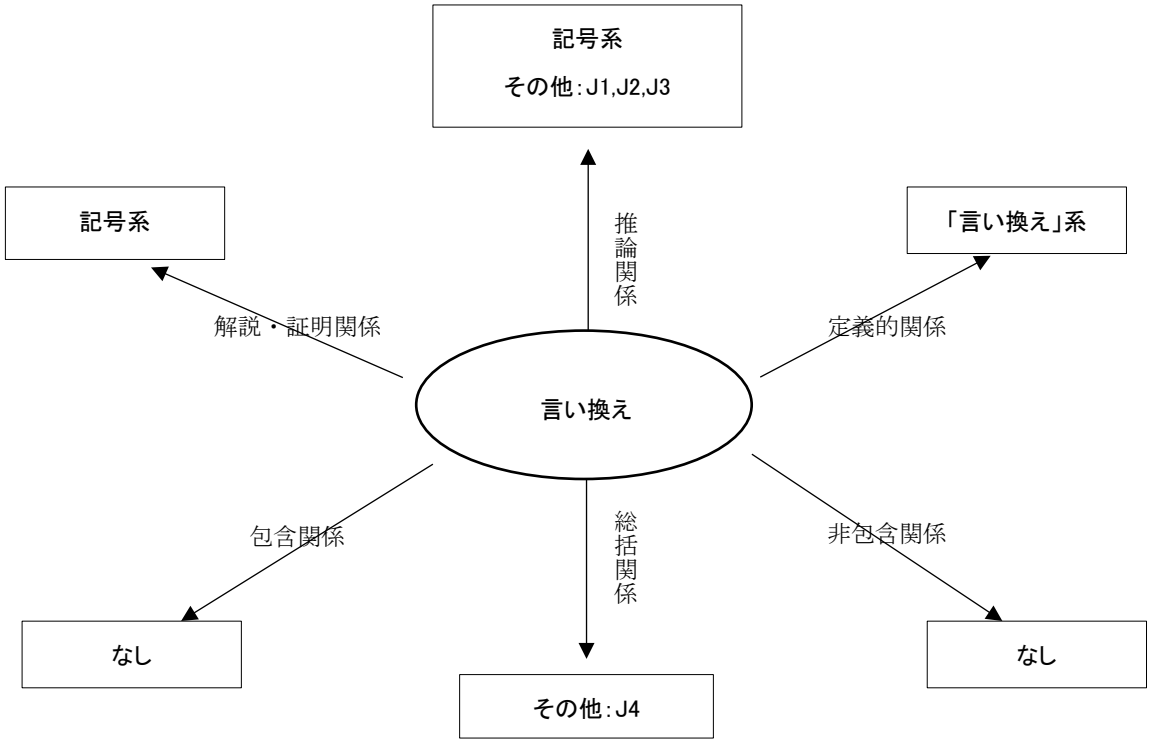

図１　「言い換え」の「のだ」に対応する形式

第 5 章　「発見・再認識」の「のだ」に対応・応対する中国語

前章までは「理由・解釈」と「言い換え」という数量的に最も多い用法を見てきたが、本章以降は少数派の用法の対応状況を見てみる。使用例が少ないため、対応・応対形式は「理由・解釈」と「言い換え」ほど豊富ではないが、調査結果の事実を中心に論じていきたい。

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況

まず、全体的な対応状況は表 1、2 のようである。

表 1　「発見・再認識」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（日本語が原作）

作品名	のだ（想起・発見）の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
アメーバ経営	0	0	－	0	－
マイナス思考	6	0	0.0%	6	100.0%
稲盛流コンパ	8	3	37.5%	5	62.5%
我がセブン秘録	2	2	100.0%	0	0.0%
「やめる」習慣	0	0	－	0	－
知的資本論文	1	0	0.0%	1	100.0%
ザ・ラストマン	3	1	33.3%	2	66.7%
生き方	0	0	－	0	－
総計	20	6	30.0%	14	70.0%

*割合は総数における割合である。

表 2　「発見・再認識」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（中国語が原作）

作品名	のだ（発見）の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
参与感	0	0	－	0	－
新零售	1	0	0.0%	1	100.0%
腾讯传	0	0	－	0	－
蚂蚁金服-独角兽	0	0	－	0	－
蚂蚁金服	0	0	－	0	－
総計	1	0	0.0%	1	100.0%

*割合は総数における割合である。

「発見・再認識」の「のだ」は、第1章でも言及したように、話者の内省に起こり、自分の脳内で疑問と結論が完成する、いわゆる自分に対する回答に用いられることが多いため、今回の考察書籍対象のジャンルではあまり出現しなかった。全体的に見ると、日本語が原作の方は20例、中国語が原作の方は1例しかない。この数少ない実例で「発見・再認識」の「のだ」の対応形式を考察するのは網羅性を欠けるため、「発見・再認識」の「のだ」に関しては本章では実例を検討した後、作例も用い、実際と理論の両方から中国語の対応形式を考察する。

実例が少ないというものの、表1の結果を見ると、対訳ありのは平均4割ほどある。2.5節の結論では、「発見・再認識」の用語に関しては中国語の方がよく使うという結果が出ているが、「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」に比べて対訳ありの割合が高いことは、中国語の方が「発見・再認識」の用語をよく使うから高くなっているという、2章とここでの考察結果の一致性が現れていると考えられる。

2.対応形式の詳細

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳

実例から観察できた対応のある形式は以下の4つ、“原来…啊(～だったのか)”、“是…的(～のだ)”、“竟然(まさか～だったのか)”、“看来(～から見ると～だったのだ)”のみである。そして、数が若干多いのはM3の“竟然(まさか～だったのか)”である。

表3　中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	対訳の内訳				
	K1	K2	K3	K4	総計
アメーバ経営	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	0	0	0	0
稲盛流コンパ	1	1	1	0	3
我がセブン秘録	0	0	2	0	2
「やめる」習慣	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	0	0	0
ザ・ラストマン	0	0	0	1	1
生き方	0	0	0	0	0
総計	1	1	3	1	6

表 4　中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	対訳の内訳				
	K1	K2	K3	K4	総計
参与感	0	0	0	0	0
新零售	0	0	0	0	0
腾讯传	0	0	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0
蚂蚁金服	0	0	0	0	0
総計	0	0	0	0	0

K1: 原来…啊(～だったのか)
K2: 原来(～だったのか)
K3: 竟然(まさか～だったのか)
K4: 看来(～から見ると～だったのだ)

(1)　ある夏の土曜、仕事を終えた稲盛は従業員十数人を誘い、タクシーと車に分乗して滋賀県の琵琶湖に遊びに行った。すると、道中でたまたま暴走族とかち合い、車を運転していた従業員が、「おれの車にぶつけようとしたやろ」と因縁をつけられた。

暴走族が従業員を袋だたきにしようとした、まさにその瞬間、稲盛は近くにあったビール瓶をつかむと、暴走族の前に立ちはだかって、こう叫んだ。

「かかってくるなら、来い！」

稲盛の迫力にひるんだ暴走族は、その場を立ち去ったという。阪は述懐する。

「講話の中で、ほんの１分ほどのシーンでしたが、脳天をかち割られたような衝撃が走りました。経営者は命を懸けて、従業員を守らなくてはいけないのです。」

稲盛が言う愛情とは、端的にいえば従業員を家族同然に思うことだ。

(『稲盛流コンパ』)

在一个夏季的周六，一天的工作结束后，稻盛邀请了十几个员工搭乘出租车或驾驶车辆，分头前往滋贺县琵琶湖游玩。在路上，偶然与暴走族产生了摩擦，原因是一个驾车的员工说了一句“你们差一点儿撞到我的车了”。

暴走族正要围殴这个员工，就在这一刹那，稻盛一把抓起身边的一个啤酒瓶，挡在暴走族的面前，叫喊道：“有胆子就放马过来！”暴走族摄于稻盛的气势，灰溜溜地离开了。阪先生感慨：“在演讲中，这一段故事不过只有１分钟，但却使我大为震撼，醍醐灌顶。原来，经营者必须拼上性命保护员工啊。”

(2)　いつの間にか１００人が１００人、声を上げて泣いていた。中には涙を我慢しようとして手に力が入りすぎ、持っていたグラスを割る従業員までいた。全員の心が完全に一つになっていた。内川はこう述懐する。

「私１人が頑張っているだけだったら、従業員は泣かなかったはずです。そが、火が付いたようにみんな泣きだした。それも１人や２人ではなく、１００人が一斉にですよ。『組織ってこんなに強くなれるんだ』って初めて実感しました」

（『稲盛流コンパ』）

不知何时，在场的上百人放声大哭起来。其中甚至有些员工为了强忍泪水，用力过猛捏碎了手中的玻璃杯。全体员工的心完全连在一起，内川感叹："如果只有我一个人单打独斗，员工们没有理由哭泣。可是，就像火苗越烧越猛一样，所有人都哭出声来。不是一两个人，而是 100 个人一起哭起来。我第一次感到，'组织'的力量竟然可以如此强大。"

(3)　そして、それまで意識の外にいた方々がどんどん視野に入ってきて、候補として浮かんでくるようになりました。

セブン‐イレブンとの出合いもそうです。

最初、アメリカへ海外研修に行った際、カリフォルニアの道路脇に立つセブン‐イレブンに立ち寄ったときは、食品や雑貨が並んだスーパーを小型にしたような店内を見て回りながら、「アメリカにもこんな小さな店があるんだ」といった程度の印象でした。

（『我がセブン秘録』）

由此，原本那些处于我意识之外的人物逐渐进入我的视野，作为候补资源浮现出来。

类似的还有与 7-Eleven 的相遇。

最初的时候，我去美国进修，偶然的机会光顾了加利福尼亚路边的 7-Eleven，进去逛了一下摆满食品和各种杂货的小型超市，当时在我头脑中留下了"美国竟然有这种小店铺"的印象。

(4)　これは直接的な褒め言葉ではないかもしれませんが、その話を聞いて、「一応、信頼してもらっているんだな」と安心しました。

叱ることに比べると、褒めるほうがずっと難しいものです。

（『ザ・ラストマン』）

虽然这可能算不上是直接的褒奖，但在听到这句话之后，我还是感到十分安心："看来大家对我还是很信赖的。"

「発見・再認識」の「のだ」に関しては、幸松(2012, 2016)は「話し手が発話時に発話現場において知覚した事態であり、いわゆる眼前事態である」と述べており、その他の「のだ」と区別している。つまり、「発見・再認識」の「のだ」は、話しかける相手が自分であろうと、他人であろうと、発話時直前に意識した事態を内容として述べることになる。日本語は「発見・再認識」の「のだ」が言語形式として現れている以上、「眼前事態」という性質が文の内容から容易に読み取れる。一方、「想起」の「のだ」に関しても同じ原理であるが、異なるのは「想起」した内容はその場で初めて知ったものではなく、前以って知っていたが、一度頭から忘れてしまって、何かしらの刺激により再認識したことを表している。つまり「発見・再認識」であっても「想起」であってもその場で気付いたという「気づき性」を持っているのである。それでは次は中国語の対応形式としてもこのような「気づき性」の意味合いが言語形式の意味に含まれているかを検討する。

2.2 実例から見えた対応形式についての検討

今回の調査から見られ対応形式は 5.1.1 節で述べたように次の 2 つである。

K1: 原来…啊(～だったのか)

K2: 原来(～だったのか)

K1 は、気づきを表す言葉“原来”と感嘆を表すモダリティ助詞“啊”からなる複合形式であり、意味の中心は“原来”の部分にあると思われる。“原来”に関して、《现代汉语八百词》と《现代汉语虚词词典》ではこのような記述がある。

> 发现从前不知道的情况，含有恍然醒悟的意思。可用在主语前或后。
> (以前知らなかった状況が分かるようになったことを表す。認識が曖昧・不正確であったことの真相に突然気がつく意味がある。主語の前もしくは後ろに使われる。)
> 我说是谁，～是你
> (誰かと思ったらあなたなんだ。)
> ～他们并没有走，我还以为他们走了
> (彼らはまだいるんだ。もう行ってしまったと思った。)
> 怎么这么安静，～没人
> (なんでこんなに静かだと思ったら、誰もいなかったんだ。)
>
> 《现代汉语八百词》

> 表示现在了解的情况，隐含“以前并不知道如此”。
> (今知っている情報を表し、以前それについて知らなかったことを暗示する。)
>
> 《现代汉语虚词词典》

上の記述から分かるように、“原来”の使用場面は事態を知覚した瞬間に発する言葉であり、「発見・再認識」の「のだ」と重なっている。そして“啊”は驚嘆の文に用いられると、前の内容に対する驚きを表すことのなり、つまり、“原来…啊(～だったのか)”の全体的な意味は、事態を初めて知覚してからの驚きや感嘆を表すものである。「発見・再認識」の「のだ」に対応しているのである。

K3: 竟然(まさか～だったのか)

“竟然”については《现代汉语八百词》では次のように記述されている。

同“竟”；
“竟”：
表示出乎意料；居然。
(“竟”と同義。
意外であることを表す。まさか～)

また、謝(2009)では“竟然”の意味が生じる背景について次のように述べている。

A.如果甲现象或情况出现或发生了。
B.按常情或预料，甲现象或情况出现或发生会引起乙现象或情况的出现或发生。
C.甲现象或情况没有出现，倒出现了与甲现象相反的现象或情况。
D.由于产生了与甲相反的现象或情况，所以意料中的乙现象或情况没有发生，倒出现了与乙相反的情况。
E.对整个出乎意料的事件进行评价，或者事件引起的效应。
(A.甲という現象もしくは状況が起きたと仮定する。
B.通常の推測もしくは予想で考える場合、甲の現象もしくは状況の出現は、乙という現象もしくは状況の出現を引き起こる。
C.甲の現象もしくは状況は出現しなかった。反対に、甲と反対の現象もしくは状況が出現した。
D. 甲と反対する現象もしくは状況が出現したゆえに、乙の現象もしくは状況は出現せず、代わりに乙と反対の現象が出現した。
E.“竟然”はこの一連の意外な出来事について述べるとき、もしくは出来事が引き起こした効果について述べるときに使われる。)

謝(2009)の記述からすると、“竟然”は意外性を伴うことが背景になっている。意外性は、文章の中での現れ方としては、直前の文の内容と反する内容が続いて出てくる時である。一般的な記述文の場合、記述内容は線状のように時間の流れに沿って進んでいくのが通常で

あるため、直前の文の内容も通常、直前の時間帯・時間点に発生したことを表している。言い換えると、“竟然”は直前に起きたことと状況的に反することに知覚したことを表すものであると言えるのである。

K4: 看来(～から見ると～だったのだ)

“看来”については、《现代汉语八百词》では次のように記述されている。

> 看来
> 插入语。依据客观情况估计。
> (挿入語。客観的な状況に従って推測することを表す。)

“看来”は、話者の推測を表す表現であるが、王(2009a)ではこの推測の語用論的な意味について次のように説明している。

> “看来”的明示使得字面信息显化，成为听读者进行推理的一个重要依据。加上“看来”后，就缩小了语境关联的范围，减少了听读者解读话语时所付出的努力，说写者的表达意图也变得明确化……
> (“看来”の文中での明示は、聴読者の文脈間の意味判断の重要な手掛かりの一つになる。“看来”が文中に付けられていると、文脈間の関連性の範囲が絞られており、聴読者の意味理解に使う労力が軽減されるとともに、話者の意思もより明白に伝達される……)

この記述からいうと、“看来”はすなわち推測の関連付けを表す標識であり、それが文中に明示的に現れていることで文と文の内容上の関係がより明白になることになる。王(2009a)では“看来”の関連付け機能についてさらに“因果型推论衔接「因果型推論の関連付け」”、“总结型推论衔接「総括型推論の関連付け」”と“同形衔接「同形配列」”の種類があると述べている。“同形衔接「同形配列」”とは、次の例(5)のように、“看来”は複数現れることができることを指している。

(5)　看来对于宇宙、时空、无极、太极这样一些问题，他根本不去想；看来他头脑里也没有本体论和认识或知识论方面的问题。
これらから推測すると、彼は宇宙、時空、無極、太極のような問題についてまったく考えていない；彼の頭の中には本体論もしくは認識、知識論についての関心もないのだ。

王(2009a)では「同形配列」を「因果型推論の関連付け」、「総括型推論の関連付け」と同レベルに位置付けており、“看来”の文章構造上の機能の一つにしているが、文の内容間の論理を表す面からすると、「同形配列」は「因果型推論の関連付け」と「総括型推論の関連付け」に属する単なる文配列上の形式的なものであると考えられる。「同形配列」を考えないことにすると、“看来”は「のだ」と同じように、本論文の「理由・解釈」(「因果型推論の関連付け」相当)の機能と、「言い換え」(「総括型推論の関連付け」)の機能があることが浮上してくる。このような意味でいうと、“看来”は「のだ」の対応・応対形式になっていること自体は妥当であるのである。問題は、「発見・再認識」という意味合いでいうと、「その場で知覚した／再認識した」といった気づき性が必要になってくるが、これが検討されていないと“看来”と「発見・再認識」の「のだ」の対応妥当性が見えてこない。

従って、ここからは“看来”の「気づき性」ありかの問題について検討する。

“看来”の「気づき性」ありかに関しては、現段階の研究では管見の限り見当たらない。多くの研究は、“看来”の推論性について記述しているが、その推論はその場で得た結論に限るかどうかの記述はない。それを検証するために、ここではいくつかの言葉を挿入して意味上の矛盾があるかどうかを見る。

挿入する言葉は次のようである。

①我们早就(知道/认识到/想到)

(私たちはとっくに(分かっている／認識している／予想している))

②我们一直都知道

(私たちはずっと(知っている／認識している／予想している))

③我早就(知道/认识到/想到)

(私はとっくに(知っている／認識している／予想している))

④我一直都知道

(私たちはずっと(知っている／認識している／予想している))

①と②は、自分と第三者を含む、ある事柄について前からずっと分かっていることを示す表現。「私たち」があることによって、第三者の認識が自分の認識と同じ状況にあることが示され、自分の認識の客観性が保証される。一方、③と④は自分一人の内心世界の描写で、場合によって「事実が本当にそうかどうかは分からないけど自分はそう思っている」ことになる。“看来”は自分の推測を表す表現ではあるものの、聴読者との共鳴を喚起したい場合にも使えるため、検証には①～④の表現を全部使用する。

検証に使われる例文は、北京大学中国言語学研究センターの CCL コーパスから取った、比較的前後文脈が分かりやすい以下のものである。

(6)　一个名不经传的阿里巴巴，何以对风险投资如此挑剔？马云解释道：他希望阿里巴巴的第一笔风险投资除了带来钱以外，还能带来更多的非资金要素，例如进一步的风险投资和其他的海外资源。为此马云总共拒绝过 38 家投资商。

看来，马云对阿里巴巴的要求，对风险投资的要求都是一样的严格。

(CCL\当代\史传\谁认识马云.txt)

名もなきのアリババは、なぜベンチャーキャピタルに対してこんなにこだわりを持っているのか。ジャッキーマーはこう言う：アリババの初めてのベンチャーキャピタルはお金をもたらす以外、非金銭的な要素、例えば更なるベンチャーキャピタルもしくは他の海外のリソースをもたらしてほしい。そのため、ジャッキーマーは38個の投資先を断った。

こう見ると、ジャッキーマーはアリババに対する要求もベンチャーキャピタルに対する要求も同一レベルに厳しいのである。

(7) 记者：陈女士，听说你至今还未今还未评上研究员，也未获得“有特殊贡献的知识分子”之称，许多知晓你的女界朋友皆感诧异。看来，你所在的单位人才荟萃，竞争十分激烈吧。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

記者：陳さんは未だに研究員もなっていないし、「特別な貢献をした知識人」の称号ももらっていない。あなたを知っている女性陣はみんな驚きを感じています。こう見ると、陳さんの所属する勤務先は相当競争が激しいでしょう。

(8) 另据可靠“情报”，外省市一些颇有实力的企业，也看好此类产品，意欲挥师北上，以图霸业。

看来，一场恶战在所难免。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

そして信頼できる「情報」によると、他の省のとても実力のある企業たちもこの種類の商品を見込んでおり、北上して覇業を図ろうとしている。

こう見ると、戦いの激しい悪戦が避けられないようだ。

上の①～④の表現を入れると次のようになる。

(9) 一个名不经传的阿里巴巴，何以对风险投资如此挑剔？马云解释道：他希望阿里巴巴的第一笔风险投资除了带来钱以外，还能带来更多的非资金要素，例如进一步的风险投资和其他的海外资源。为此马云总共拒绝过38家投资商。

看来，｛？？我们早就(知道/认识到/想到)｝马云对阿里巴巴的要求，对风险投资的要求都是一样的严格。

(CCL\当代\史传\谁认识马云.txt)

名もなきのアリババは、なぜベンチャーキャピタルに対してこんなにこだわりを持っているのか。ジャッキーマーはこう言う：アリババの初めてのベンチャー

キャピタルはお金をもたらす以外、非金銭的な要素、例えば更なるベンチャーキャピタルもしくは他の海外のリソースをもたらしてほしい。そのため、ジャッキーマーは38個の投資先を断った。

こう見ると、｛？？私たちがとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように｝ジャッキーマーはアリババに対する要求もベンチャーキャピタルに対する要求も同一レベルに厳しいのである。

(10)　一个名不经传的阿里巴巴，何以对风险投资如此挑剔？马云解释道：他希望阿里巴巴的第一笔风险投资除了带来钱以外，还能带来更多的非资金要素，例如进一步的风险投资和其他的海外资源。为此马云总共拒绝过38家投资商。

看来，｛？？？我们一直都知道｝马云对阿里巴巴的要求，对风险投资的要求都是一样的严格。

(CCL\当代\史传\谁认识马云.txt)

名もなきのアリババは、なぜベンチャーキャピタルに対してこんなにこだわりを持っているのか。ジャッキーマーはこう言う：アリババの初めてのベンチャーキャピタルはお金をもたらす以外、非金銭的な要素、例えば更なるベンチャーキャピタルもしくは他の海外のリソースをもたらしてほしい。そのため、ジャッキーマーは38個の投資先を断った。

こう見ると、｛？？？私たちがずっと分かっているように｝ジャッキーマーはアリババに対する要求もベンチャーキャピタルに対する要求も同一レベルに厳しいのである。

(11)　一个名不经传的阿里巴巴，何以对风险投资如此挑剔？马云解释道：他希望阿里巴巴的第一笔风险投资除了带来钱以外，还能带来更多的非资金要素，例如进一步的风险投资和其他的海外资源。为此马云总共拒绝过38家投资商。

看来，｛？？我早就(知道/认识到/想到)｝马云对阿里巴巴的要求，对风险投资的要求都是一样的严格。

(CCL\当代\史传\谁认识马云.txt)

名もなきのアリババは、なぜベンチャーキャピタルに対してこんなにこだわりを持っているのか。ジャッキーマーはこう言う：アリババの初めてのベンチャーキャピタルはお金をもたらす以外、非金銭的な要素、例えば更なるベンチャーキャピタルもしくは他の海外のリソースをもたらしてほしい。そのため、ジャッキーマーは38個の投資先を断った。

こう見ると、｛？？私がとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように｝ジャッキーマーはアリババに対する要求もベンチャーキャピタルに対する要求も同一レベルに厳しいのである。

(12)　一个名不经传的阿里巴巴，何以对风险投资如此挑剔？马云解释道：他希望阿里巴巴的第一笔风险投资除了带来钱以外，还能带来更多的非资金要素，例如进一步的风险投资和其他的海外资源。为此马云总共拒绝过 38 家投资商。

看来，｛？？？我一直都知道｝马云对阿里巴巴的要求，对风险投资的要求都是一样的严格。

(CCL\当代\史传\谁认识马云.txt)

名もなきのアリババは、なぜベンチャーキャピタルに対してこんなにこだわりを持っているのか。ジャッキーマーはこう言う：アリババの初めてのベンチャーキャピタルはお金をもたらす以外、非金銭的な要素、例えば更なるベンチャーキャピタルもしくは他の海外のリソースをもたらしてほしい。そのため、ジャッキーマーは 38 個の投資先を断った。

こう見ると、｛？？？私がずっと分かっているように｝ジャッキーマーはアリババに対する要求もベンチャーキャピタルに対する要求も同一レベルに厳しいのである。

(13)　记者：陈女士，听说你至今还未今还未评上研究员，也未获得“有特殊贡献的知识分子”之称，许多知晓你的女界朋友皆感诧异。看来，｛？？我们早就(知道/认识到/想到)｝你所在的单位人才荟萃，竞争十分激烈吧。

(CCL\当代\报刊\1994 年报刊精选\01.txt)

記者：陳さんは未だに研究員もなっていないし、「特別な貢献をした知識人」の称号ももらっていない。あなたを知っている女性陣はみんな驚きを感じています。こう見ると、｛？？私たちがとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように｝陳さんの所属する勤務先は相当競争が激しいでしょう。

(14)　记者：陈女士，听说你至今还未今还未评上研究员，也未获得“有特殊贡献的知识分子”之称，许多知晓你的女界朋友皆感诧异。看来，｛？？？我们一直都知道｝你所在的单位人才荟萃，竞争十分激烈吧。

(CCL\当代\报刊\1994 年报刊精选\01.txt)

記者：陳さんは未だに研究員もなっていないし、「特別な貢献をした知識人」の称号ももらっていない。あなたを知っている女性陣はみんな驚きを感じています。こう見ると、｛？？？私たちがずっと分かっているように｝陳さんの所属する勤務先は相当競争が激しいでしょう。

(15)　记者：陈女士，听说你至今还未今还未评上研究员，也未获得“有特殊贡献的知识分子”之称，许多知晓你的女界朋友皆感诧异。看来，｛？？我早就(知道/认识到/想到)｝你所在的单位人才荟萃，竞争十分激烈吧。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

記者：陳さんは未だに研究員もなっていないし、「特別な貢献をした知識人」の称号ももらっていない。あなたを知っている女性陣はみんな驚きを感じています。こう見ると、{？？私がとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように} 陳さんの所属する勤務先は相当競争が激しいでしょう。

(16) 记者：陈女士，听说你至今还未今还未评上研究员，也未获得“有特殊贡献的知识分子”之称，许多知晓你的女界朋友皆感诧异。看来，{？？？我一直都知道} 你所在的单位人才荟萃，竞争十分激烈吧。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

記者：陳さんは未だに研究員もなっていないし、「特別な貢献をした知識人」の称号ももらっていない。あなたを知っている女性陣はみんな驚きを感じています。こう見ると、{？？？私がずっと分かっているように} 陳さんの所属する勤務先は相当競争が激しいでしょう。

(17) 另据可靠“情报”，外省市一些颇有实力的企业，也看好此类产品，意欲挥师北上，以图霸业。

看来，{？？我们早就(知道/认识到/想到)} 一场恶战在所难免。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

そして信頼できる「情報」によると、他の省のとても実力のある企業たちもこの種類の商品を見込んでおり、北上して覇業を図ろうとしている。

こう見ると、{？？私たちがとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように} 戦いの激しい悪戦が避けられないようだ。

(18) 另据可靠“情报”，外省市一些颇有实力的企业，也看好此类产品，意欲挥师北上，以图霸业。

看来，{？？？我们一直都知道} 一场恶战在所难免。

(CCL\当代\报刊\1994年报刊精选\01.txt)

そして信頼できる「情報」によると、他の省のとても実力のある企業たちもこの種類の商品を見込んでおり、北上して覇業を図ろうとしている。

こう見ると、{？？？私たちがずっと分かっているように} 戦いの激しい悪戦が避けられないようだ。

(19) 另据可靠“情报”，外省市一些颇有实力的企业，也看好此类产品，意欲挥师北上，以图霸业。

看来，{？？我早就(知道/认识到/想到)} 一场恶战在所难免。

(CCL\当代\报刊\1994 年报刊精选\01.txt)

そして信頼できる「情報」によると、他の省のとても実力のある企業たちもこの種類の商品を見込んでおり、北上して覇業を図ろうとしている。

こう見ると、{？？私がとっくに(分かっている／認識している／予想している)ように} 戦いの激しい悪戦が避けられないようだ。

(20) 另据可靠“情报”，外省市一些颇有实力的企业，也看好此类产品，意欲挥师北上，以图霸业。

看来，{？？？我一直都知道} 一场恶战在所难免。

(CCL\当代\报刊\1994 年报刊精选\01.txt)

そして信頼できる「情報」によると、他の省のとても実力のある企業たちもこの種類の商品を見込んでおり、北上して覇業を図ろうとしている。

こう見ると、{？？？私がずっと分かっているように} 戦いの激しい悪戦が避けられないようだ。

「?」は語感の違和感を示しているが、上記の 12 個の検討例は、第三者の客観的評価を入れた“我们「私たち」”が主語である場合にしても、話者の独自の心理を描写する“我「私」”が主語である場合にしても、いずれも語感的に違和感を覚えている。違和感の根源はやはり「すでに知っている」ことを表す表現と“看来”の共起が不自然であるからである。つまり、“看来”は直前に述べられた内容から推測結果を得ていると同時に、その推測結果が前持って分かっていたり気づいていたりするような内容でないことを示す表現なのである。この意味でいうと、“看来”は「その場で気づいた」という「気づき性」を持っていると言えるのである。

上述したことをまとめると、実例から見つけた「発見・再認識」の「のだ」に対応する中国語の形式は、「発見・再認識」の「のだ」と同様に、その場(前節する文脈)から知覚した内容をその時初めて認識したことを表す表現である。ではこれは偶然なのだろうか。第 2 章で述べたことと、本節の王(2009a)における “看来”についての記述を思い出されたい。第 1 章では「発見・再認識」の「のだ」は語用論レベルの分類と述べたが、王(2009a)の“看来”についての記述の中でも“看来”は“因果型推论衔接「因果型推論の関連付け」”、“总结型推论衔接「総括型推論の関連付け」”と“同形衔接「同形配列」”の関連づけを表せるとの記述がある。つまり、「発見・再認識」の「のだ」の本質は結局「因果関係」の、「なぜ～だろう」という問いに対し「～に気づいたからだ」の論理性を自分自身の内心世界で完結させたものであり、「発見・再認識」という種類はあくまでもこの因果関係において、結果の部分に気づいたのは現場の何かしらの物事にその場で初めて気づいた頃という条件が伴われる場合の、結果的に語用論的な用法になっているに過ぎないものである。それがゆえ、この「因果関係」の上に付け加えられた条件(「現場(直前文脈)知覚性」)

が用法を成り立たせた最も重要な要素になっているのである。つまり、その「のだ」は「発見・再認識」と言えるからには必ず「現場(直前文脈)知覚性」が伴っていることが条件であるため、それに対応する中国語もこの「現場(直前文脈) 知覚性」が必要なのである。従って、実例から取った対応形式はいずれもこの性質を持っていることになるのである。

そうすると、次の疑問が湧いてくる。それが何かというと、中国語の対応形式がない「発見・再認識」の「のだ」はどうなっているのだろうということである。まずは実例を見てみよう。

(21) 部下の指導法の一つとして、褒め方も非常に大事です。私自身も意識して、部下を褒めるようにしていました。

褒められれば単純にうれしいので、次もがんばろうというモチベーションになります。また、褒められることによって、「なるほど、これはいいことなのだな」と評価基準を再確認できるので、自信を持って仕事に取り組めるようになるものです。

(『ザ・ラストマン』)

受到表扬会使人心情愉悦，在接下来的工作中热情高涨。另外，受到表扬还可以使部下认识到“原来如此，这样做是正确的”，再次确认评价基准，更有自信地进行工作。

(22) 増田「そう、居④心地というシンプルな感覚が実はとても大切。ネットで人と人とがつながる社会では、リアルな場所に人を集めるためには、絶対にネット上にはないものを、意識して取り込んでいくしかない。それは風であったり光であったり、そしてそれらが創り出す〝居心地よさ〟なんだ。『代官山 蔦屋書店』も、居心地いいと言ってくれる人が少なくない」

樋渡「『代官山 蔦屋書店』を含む『代官山Ｔ‐ＳＩＴＥ』は、京都の仁和寺と似ている印象があるんだな。本堂までのアプローチなんかがね」

(『知的資本論文』)

增田：没错，舒适这一简单的感觉实际上非常重要。在人与人由网络联系在一起的社会里，要把人聚集到现实中的场所，只能有意识地引进网上绝对没有的东西。可能是风，可能是光，以及由这些营造出的“舒适”。“代官山蔦屋书店”也被不少人用舒适来形容。

樋渡：包括“代官山 蔦屋书店”在内的“代官山 T-SITE”，给人的印象有点儿像京都的仁和寺，尤其是通往正殿那段路。

(23) 「昔の仲間と酒を飲んで、パチンコで勝ったとか、どこの飲み屋にかわいい女性がいたとか、そんな話ばかりをするのが嫌になってきたんです。『おれが今

やっている仕事は、こんなにやりがいがあるんだ』と話すと、『おまえ何か変わったなあ』と煙たがられ、だんだん疎遠になっていった。誰でも心の底では真面目に仕事をして人の役に立ちたい、一生懸命に生きたいと考えているものだと思うんです。私の場合、そうした欲求に刺激を与えてくれた場がコンパでした」

（『稲盛流コンパ』）

“以前和朋友们一起喝酒时，尽是聊打弹子机赢了多少钱、哪个酒吧有漂亮姑娘，对此我渐渐厌烦起来。每当我谈道：‘我现在从事的工作有这种价值’，他们就会对我敬而远之：‘你好像变了’，于是与我渐渐地疏远起来。我觉得，每一个人在内心深处，都希望能认真工作，成为一个对别人有用的人，都希望能认真努力地活着。对我个人而言，激发我这一期望的就是空巴。”

例文の波線部は「発見・再認識」の「のだ」が含まれている例文の対訳文であるが、これらの例文から分かった対応形式なしの実態は２つある。１つは例(21)のように、原文に「なるほど」のような他の「気づき」を表す表現が共起している場合であり、この場合、「のだ」の意味がその言葉に吸収され、対訳がその言葉と重なってしまう。そのため、訳文の中の“原来如此(なるほど)”は「なるほど」そのもの自身の訳なのか「のだ」の訳なのか判断しにくくなり、且つ原文にある「なるほど」という言葉の方が意味が明確であるため、訳文にある“原来如此(なるほど)”は「のだ」ではなく「なるほど」の訳として捉われることが多いと考えられる。つまり、対応形式なしのパターンの１つ目としては、他に明確に「気づき」を表す言葉が原文にあったからである。

２つ目は、例(22)(23)のように、訳文の訳し方が原因で「気づき」のニュアンスが出ていない場合である。この場合、訳文は原文のような述べ方の気軽さが消えてしまい、やや硬い述べ方になっている印象である。つまり、述べ方が変わったことによって「気づき」のニュアンスがなくなってしまったのである。

3. 本章のまとめ

上述したことをまとめると、次のことが言えるのではないかと考えられる。

「発見・再認識」の「のだ」は「理由・解釈」の「のだ」と同根で、意味的には因果関係を表すものであるが、因果関係の上に「その場で初めて気づいた／その場で初めて思い出した」との条件が加わってから成り立った用法になる。「その場で初めて気づいた／その場で初めて思い出した」という条件は「発見・再認識」の「のだ」を成立させる最も際立つものであるため、「発見・再認識」に対応する中国語もこの条件が語彙的に含まれていなければならない。従って、「発見・再認識」の「のだ」に対応する中国語は広義的な因果関係を表す表現に「その場で初めて気づいた／その場で初めて思い出した」という気づき性が語彙的に含まれる表現である。このような表現は、本調査で見つかった形式として“原来(…啊)(～

だったのか)”、“竟然(まさか～だったのか)”、“看来(～から見ると～だったのだ)”がある。

なお、本調査で出てこなかった表現としては、その他に、“原来…啊”の類似語“敢情…啊”、“合着…啊”[17]、“竟然”の類似語“居然”[18]、“看来”の派生語“如此看来(こうして見ると～だったのだ)”があると考える。

図示すると、「発見・再認識」の「のだ」に対応する中国語は次のようになる。

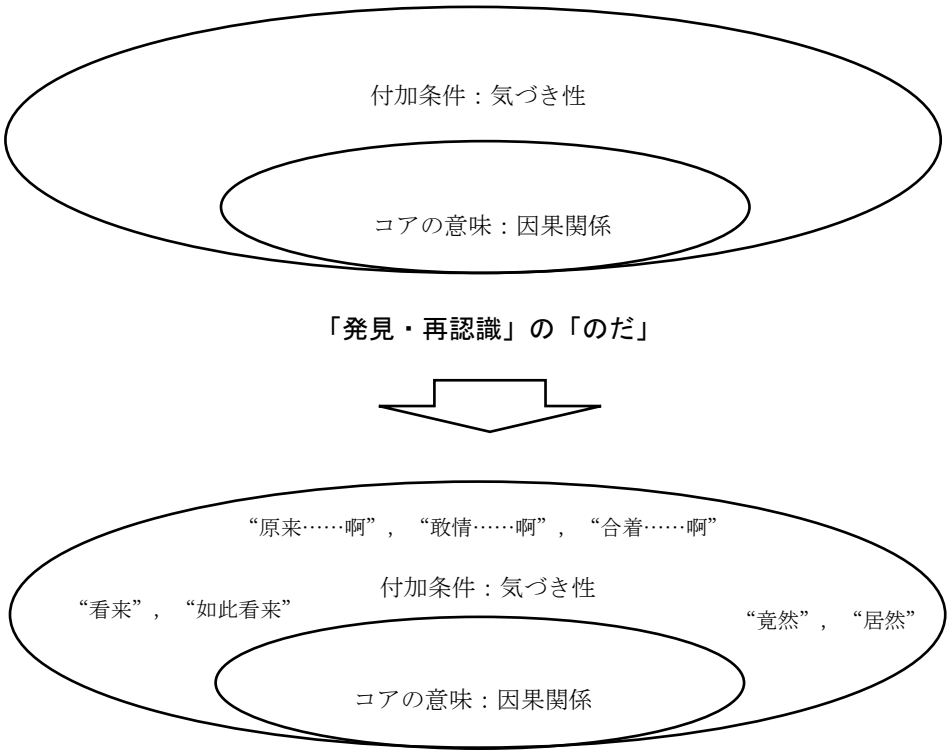

図１　「発見・再認識」の「のだ」に対応する形式

[17] 意味類似性の詳細は韓(2014)、楊(2019)を参照されたい。

[18] 意味類似性の詳細は謝(2009)を参照されたい。

第 6 章　「前置き・先触れ」の「のだ」に対応する中国語

前章の考察に続き、本章では「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式を見てみたい。「発見・再認識」の「のだ」と同様、「前置き・先触れ」の「のだ」も実例が少ないため、本章の考察分析は第 5 章と同じように実例を見ながら理論的な説明を補助に対応・応対形式を分析していく。

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況

まずは全体的な状況を見てみよう。実例の数は、日本語が原作のものと、中国語が原作のものを合わせて、全部で 24 例しかなかった。「のだ」のこの用法は基本的に、「A。B のだ。」の文を、「B のだが・んですが、A。」の順番にしたものであり、言えば非一般的なものとも言える。そのため、書籍の中で頻繁には使われないのは自然に想像できる。

表 1　「前置き・先触れ」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（日本語が原作）

作品名	のだ（前置き・先触れ）の数[19]				
	総数	対訳あり		対訳なし	
アメーバ経営	1	0	0.0%	1	100.0%
マイナス思考	7	0	0.0%	7	100.0%
稲盛流コンパ	4	0	0.0%	4	100.0%
我がセブン秘録	0	0	0.0%	0	100.0%
「やめる」習慣	3	0	0.0%	3	100.0%
知的資本論文	4	1	25.0%	3	75.0%
ザ・ラストマン	2	0	0.0%	2	100.0%
生き方	0	0	－	0	－
総計	21	1	4.8%	20	95.2%

*割合は総数における割合である。

[19] 「前置き・先触れ」の「のだ」文は、後接する文と一文になる場合が多いため、調査した数の中には「のだ」だけではなく、「のだが・んですが」も含まれている。

表 2　「前置き・先触れ」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況(中国語が原作)

作品名	のだ(前置き・先触れ)の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
参与感	0	0	−	0	−
新零售	0	0	−	0	−
腾讯传	0	0	−	0	−
蚂蚁金服-独角兽	1	0	0.0%	1	100.0%
蚂蚁金服	2	0	0.0%	2	100.0%
総計	3	0	0.0%	3	100.0%

*割合は総数における割合である。

2. 対応形式の詳細

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳

対応形式の詳細を見ると、「前置き・先触れ」の「のだ」の中国語対応形式は“是……的(〜のだ)”の否定形の“不是……的(のではない)”しかない。これは、第 2 章で述べた、中国語における「前置き・先触れ」は言語形式で表すことがほとんどないことと一致している。

表 3　中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	その他の内訳	
	L1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	0	0
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	1	1
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	1	1

表 4　中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	その他の内訳	
	L1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

L1：不是…的（…のではない）

(1)　何を言っているんだと怒られるだろうか？　本が提案のカタマリであるなら、それを売るのは当然だろうと。そして書店とは本を売るところなのだから、もしも本を売っているからダメというのなら、やはり書店業とは斜陽産業なのではないかと。

しかし、そうではないのだ。顧客にとって価値があるのは、本という物体ではなく、そこに盛り込まれている提案のほうなのだ。そう、売るべきなのは、その本に書かれている提案だ。それなのに、そうした点に無自覚なまま、本そのものを売ろうとするから、書店の危機などといわれる事態を招いてしまっているのではなかろうか？

（『知的資本論文』）

可能有人听了会感到气愤，认为我在胡说八道。他会反驳，既然书是提案的载体，卖书不是理所当然的吗？而且书店就是卖书的地方，如果卖书反而成了问题，那不就说明书店业是夕阳产业吗？

但是，不是这样的。对顾客而言，有价值的不是作为物体的书，而是包含在书中的提案。没错，应该卖的是书的内容。这么简单的道理，很多人却没有意识到，总想着把书当作商品卖掉，所以才导致了书店的危机吧。

しかし、「前置き・先触れ」の「のだ」は通常の「のだ」の関連づけの順序を逆にし、本来先に述べておくことを後ろに回すことによって相手の、そのことに対する興味を唆る用法であるとしたら、理論上、「前置き・先触れ」の「のだ」は通常の順序の「のだ」、すなわち少なくとも「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」の非典型的な、かつ文頭に現れ得る中国語対応形式全てが対応してもおかしくない。つまり、本調査で見つからなかった「前置き・先触れ」の「のだ」の対応・応対形式は理論上、「理由・解釈」、「言い換え」の「の

だ」の非典型的な、かつ文頭に現れ得る対応形式から推測できるのではないかと考えられるのである。非典型的な対応形式とは、「理由・解釈」の「のだ」において対応・応対形式が「原因理由系」、「「のため」系」以外のもの、「言い換え」において対応・応対形式が「言い換え系」以外のものを指す。文頭に現れ得るとは、厳密的に言えば「文の始まり」と「句の始まり」両方含まれる。図示すれば以下の３つの状況がある。

文頭に現れ得る形式Ｙの条件：

① □形式Ｙ＿＿＿。

② ＿＿＿＿＿。形式Ｙ＿＿＿。

③ ＿＿＿＿＿，形式Ｙ＿＿＿。

もし対応できなかったら、それは単にその形式が中国語において逆さまの順序で使われると不自然であるということになる。要するに、「前置き・先触れ」の「のだ」に対応する中国語を検討したいならば、「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」に対応・応対する中国語を文の順番を逆さまにし、形式の自然さを試してみると良いのである。従って、次はこの考え方に従って条件に適した「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」の対応形式を試してみる。

2.2「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」から「前置き・先触れ」の対訳形式を考察する

記述が重複するが、ここでは「理由・解釈」と「言い換え」の「のだ」の非典型な、かつ文頭に現れ得る対応形式を再掲する。「理由・解釈」と「言い換え」に重複した形式は除いている。

「理由・解釈」の「のだ」の非典型の対応形式：

【順接系】

C1：于是(そこで、それで)

【推測系】

E1：我认为(～だと思う)

E2：据说(～だと言われている)

E3：他说(彼は～と言っている)

E4：由此可见(このことから分かるように)

E5：这背后代表(このことの背後は～である、これは～を意味している)

「言い換え」の「のだ」の非典型の対応形式：

【その他】

J1:可以看出(このことから分かるように)

J2:因此(そのため)
J3:所以(そのため、だから)
J4:最后的结果是(最後の結果は)

「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式の考察方法は、上述した「理由・解釈」、「言い換え」の「のだ」の対応形式の接続する文Bを、その前の文Aと位置を逆にした場合の自然さ見る方法で行い、結果が自然である場合、その形式は「前置き・先触れ」の「のだ」にも対応すると言えることにする。具体的なイメージは次のようになる。

原文：
A＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿，/。B 形式X＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。
試験文：
B 形式X＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿，/。A＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

試験文において形式Xの使用が自然：
「形式X」は「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式である。
試験文において形式Xの使用が自然でない：
「形式X」は「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式ではない。

では上述したA～Lの形式を順番に見ていく。使用する例文は、中国北京大学言語研究センターのCCL 現代中国語コーパスと北京語言大学知能研究院のBCC コーパスから取ったものである。

2.3「順接」系と「前置き・先触れ」の対応性の検討

【順接系】

C1: 于是(そこで、それで)

(3a) A由于雪佛兰Malibu迈锐宝一直都是Chevelle里最受欢迎的型号,B于是1978年，雪佛兰正式让第四代Malibu替代了Chevelle。

(BCC/微博)

(3b) B于是1978年，雪佛兰正式让第四代Malibu替代了Chevelle ，A由于雪佛兰Malibu迈锐宝一直都是Chevelle里最受欢迎的型号。

自然さ：×

(4a) 伊丽莎白一世(1533-1603)：其弟爱德华10岁登基，16岁夭亡，A然后姐姐玛丽继位，不久也抑郁而终，B于是25岁的年轻漂亮而且开明的伊丽莎白走上了英格兰之颠。

(BCC/微博)

(4b)　伊丽莎白一世(1533-1603)：其弟爱德华10岁登基，16岁夭亡，**B于是**25岁的年轻漂亮而且开明的伊丽莎白走上了英格兰之颠，**A** 然后姐姐玛丽继位，不久也抑郁而终。

自然さ：×

順接系は文の順番から生じる論理上の因果関係が順接系の言葉がその文の中に存在し得る要因であるため、文 A と B の順番の逆転は不可である。つまり、順接系の言葉は「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式になれないということである。

2.4 推測系と「前置き・先触れ」の対応性の検討

E1：我认为(～だと思う)

(5a)　网络与其他媒体一样，都是传播工具。**A** 网络教育的实质仍然是教育。**B** **<u>我认为</u>**，无论运用何种传播工具实施教育，都改变不了教育的本质。

(BCC/科技文献)

(5b)　网络与其他媒体一样，都是传播工具。**B** **<u>我认为</u>**，无论运用何种传播工具实施教育，都改变不了教育的本质。**A** 网络教育的实质仍然是教育。

自然さ：○

“我认为”は、上記のような総括的な順番で使われることもあるが、下記のように、もともと前置きの順番で、次の文で原因・理由を述べる用法も多く見られる。

(6)　有的同志说，最近一个时期，恢复我国“关贸总协定”缔约国地位的谈判取得了进展，“复关”的时间可能很快了。**<u>我认为</u>**不要太天真了。由于西方有些人要价太高，总是不断设置障碍，拖延我国“复关”，把它看成在国际上对付我国的一张政治牌，如同用所谓最惠国待遇牌“压”我国一样。

(BCC/人民日报 Y:1994)

E2：据说(～だと言われている)

(7a)　从上世纪60年代到80年代，平壤的建筑一座比一座高。**A** 凡是路过纪念性建筑，导游都要提一下高度。**B** **<u>据说</u>** 60米的高度是为了比巴黎的凯旋门高一米，主体思想塔也比美国华盛顿纪念塔高一代巨星陨落。

(BCC/微博)

(7b)　从上世纪60年代到80年代，平壤的建筑一座比一座高。**B** **<u>据说</u>** 60米的高度是为了比巴黎的凯旋门高一米，主体思想塔也比美国华盛顿纪念塔高一代巨星陨落。**A** 凡是路过纪念性建筑，导游都要提一下高度。

自然さ：○

(8a)　从 9 月开始四川电台全部频率的网络直播都停了。A 微电台和各种网络收音都是转播我们的官网信号，所以也没有了。B **据说** 11 月恢复，但是我才想起来：没说哪一年的 11 月！

(BCC/微博)

(8b)　从 9 月开始四川电台全部频率的网络直播都停了。B **据说** 11 月恢复，但是我才想起来:没说哪一年的 11 月!A 微电台和各种网络收音都是转播我们的官网信号，所以也没有了。

自然さ：○

E3：他说(彼は～と言っている)

(9a)　特尼特接受记者采访，谈他任职 3 年的感受。A 他是一个精力旺盛的健谈者，但也会直截了当地拒绝回答他不愿意回答的问题。B **他说** 3 年中最深感受之一，就是每天都要承受压力和风险。

(BCC/文汇报 报纸名称:文汇报 出版日期:2000-10-23)

(9b)　特尼特接受记者采访，谈他任职 3 年的感受。B **他说** 3 年中最深感受之一，就是每天都要承受压力和风险。A 他是一个精力旺盛的健谈者，但也会直截了当地拒绝回答他不愿意回答的问题。

自然さ：×

(10a)　A 他在世界各地洽谈商务时从未有语言障碍，原因是他以热烈拥抱，面带微笑表示自己的真心善意。B **他说**“微笑是通用的语言，微笑不需要翻译。”凯蒙斯对任何行业投资都有兴趣。

(BCC/文汇报 报纸名称:文汇报 出版日期:2000-5-13)

(10b)　B **他说**“微笑是通用的语言，微笑不需要翻译。”凯蒙斯对任何行业投资都有兴趣。A 他在世界各地洽谈商务时从未有语言障碍，原因是他以热烈拥抱，面带微笑表示自己的真心善意。

自然さ：×

“他说”は、主語“他(彼)”がついているため、 E の他の推測系の形式に比べると前の文の内容を受けて原因理由を述べる傾向が強い。そのため、文の順序を逆にすると不自然になるのである。

E4: 由此可见(このことから分かるように)

(11a)　A 画家先是更习惯用这句粗鲁的，后来则一律改用那句文雅的，再后来又间或用一用那句粗鲁的，尤其更把末尾两个最不好听的字念得沉着并清晰。B 由此可见他心境的改变。

(BCC/务虚笔记 A:史铁生 Y:1997)

(11b)　B 由此可见他心境的改变。A 画家先是更习惯用这句粗鲁的，后来则一律改用那句文雅的，再后来又间或用一用那句粗鲁的，尤其更把末尾两个最不好听的字念得沉着并清晰。

自然さ：×

E5: 这背后代表(このことの背後は～である、これは～を意味している)

(12a)　A 每日出门前的一句问候，回家后的一句“我回来了”，每当有空时就会主动和她联系。B 这背后代表了他对她无尽的关爱。

(作例)

(12b)　B 这背后代表了他对她无尽的关爱。 A 每日出门前的一句问候，回家后的一句“我回来了”，每当有空时就会主动和她联系。

自然さ：△

上記の E4、E5 も同様に内容的に前の文を受ける必要がある。そのため、この 2 つも「前置き・先触れ」の用法としては用いられないと考える。

以上のことをまとめると、推測系において「前置き・先触れ」と対応する形式は“我认为”、“据说”である。これらの形式の共通点は、人称指示詞や文脈指示詞がないということである。

3. 本章のまとめ

本章のことをまとめると次のようになる。

書籍から調査した結果、実例から得られた「前置き・先触れ」の「のだ」の対応形式は“是……的”構文の否定形の“不是……的”があった。

「前置き・先触れ」の「のだ」の本質は本来の「のだ」の関連づけの順番を逆にすることによって興味喚起などといった特殊の効果を果たすことにある。そのため、理論上「前置き・先触れ」の「のだ」に対応する中国語も、もとの文の順番を逆にしても自然である形式のはずである。このような形式な、基本的に「理由・解釈」の「のだ」に含まれる。このような考え方に基づいて実例を検討した結果、「前置き・先触れ」の「のだ」に対応し得る形式は以下のものがある。

【推測系】

E1: 我认为(～だと思う)

E2: 据说(～だと言われている)

以上のことをまとめると、「前置き・先触れ」の「のだ」を以下のように図示できる。

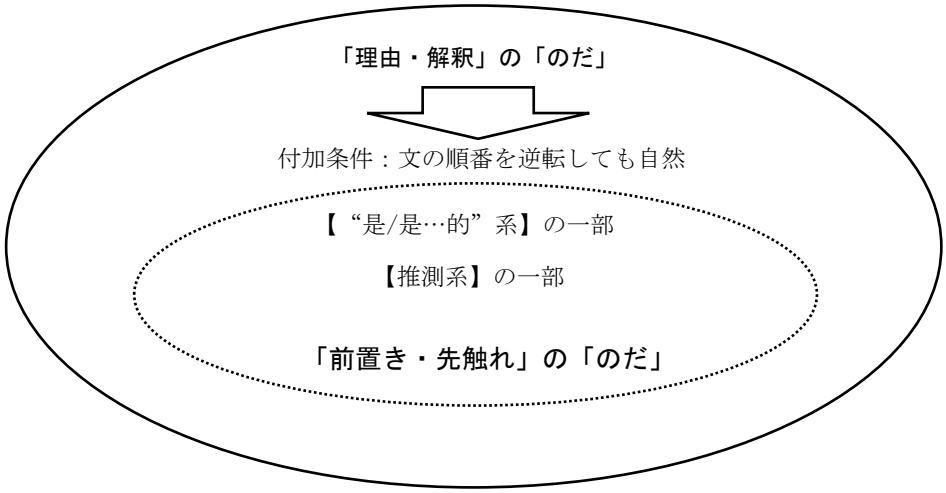

図１「前置き・先触れ」の「のだ」に対応する中国語の構成

第７章　「命令・認識強要」の「のだ」に対応する中国語

1. 考察作品における「のだ」の概況と中国語との対応状況

「のだ」の７つの分類の最後の１つとして、「命令・認識強要」の「のだ」に対応する中国語の形式を考察する。まず概況は以下のようになる。

表１　「命令・認識強要」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（日本語が原作）

作品名	のだ（命令・認識強要）の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
アメーバ経営	2	0	0.0%	2	100.0%
マイナス思考	11	0	0.0%	11	100.0%
稲盛流コンパ	11	3	27.3%	8	72.7%
我がセブン秘録	2	0	0.0%	2	100.0%
「やめる」習慣	1	0	0.0%	1	100.0%
知的資本論文	3	0	0.0%	3	100.0%
ザ・ラストマン	12	0	0.0%	12	100.0%
生き方	1	1	100.0%	0	0.0%
総計	43	4	9.3%	39	90.7%

*割合は総数における割合である。

表２　「命令・認識強要」の「のだ」のカテゴリー別の中国語の対応状況（中国語が原作）

作品名	のだ（命令・認識強要）の数				
	総数	対訳あり		対訳なし	
参与感	12	6	50.0%	6	50.0%
新零售	10	2	20.0%	8	80.0%
腾讯传	0	0	－	0	－
蚂蚁金服-独角兽	5	0	0.0%	5	100.0%
蚂蚁金服	1	1	100.0%	0	0.0%
総計	28	9	32.1%	19	67.9%

*割合は総数における割合である。

日本語が原作であっても中国語が原作であっても、実例の数は少ないものの、他の種類の対訳ありとほぼ変わらない比率である。つまり「のだ」の対訳ありの割合はある程度定着していると言える。

2. 対応形式の詳細

2.1「のだ」の中国語対応形式の内訳

「命令・認識強要」の「のだ」の対応・応対形式は、前述した 6 種類の対応形式と共通している部分もあるが、「モダリティ助詞・副詞系」、「“就”系」といった前の対応になかった形式も出ている。

表 3　中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	モダリティ助詞・副詞系	“是”/“是…的”系	“就”系	記号系	その他	総計
アメーバ経営	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
マイナス思考	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
稲盛流コンパ	1	1	0	0	1	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
我がセブン秘録	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
「やめる」習慣	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
知的資本論文	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
ザ・ラストマン	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
生き方	1	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	2	1	0	0	1	4
	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%

表 4　中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	モダリティ助詞・副詞系	“是”/“是…的”系	“就”系	記号系	その他	総計
参与感	0	0	1	5	0	6
	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%	0	100.0%
新零售	2	0	0	0	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
腾讯传	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0	0
	–	–	–	–	–	–
蚂蚁金服	1	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	3	0	1	5	0	9
	33.3%	0.0%	11.1%	55.5%	0.0%	100.0%

2.2 モダリティ助詞・副詞系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討

「モダリティ助詞・副詞系」とは、「命令・認識強要」の「のだ」に対応する中国語の形式が中国語の中でモダリティを表す品詞上通常助詞・副詞と分類されるものを指す。

今回の調査で分かった形式は 5 つがある。

表 5　モダリティ助詞・副詞系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	モダリティ助詞・副詞系					
	M1	M2	M3	M4	M5	総計
アメーバ経営	0	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	0	0	0	0	0
稲盛流コンパ	0	0	1	0	0	1
我がセブン秘録	0	0	0	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	0	0	0	0
ザ・ラストマン	0	0	0	0	0	0
生き方	1	0	0	0	0	1
総計	1	0	1	0	0	2

表 6　モダリティ助詞・副詞系の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	モダリティ助詞・副詞系					
	M1	M2	M3	M4	M5	総計
参与感	0	0	0	0	0	0
新零售	0	1	0	0	1	2
腾讯传	0	0	0	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0	0	0	0	0
蚂蚁金服	0	0	0	1	0	1
総計	0	1	0	1	1	3

M1: 居然(まさか～だ)
M2: 啊(～のだ)
M3: 绝对(絶対～)
M4: 一定(絶対、必ず～)
M5: 真(本当に～なのだ)

例は下記のようである。

(1)　最近も、自信を失っている店長と一対一のコンパをした。本田はこんな話をしたという。
「こんなオンボロ社長についてきてくれたおまえのことを、おれは何が何でも幸せにするぞ。けれどおまえの後ろにも、人生を懸けてついてきているやつらがいるんだ。目を閉じてみろ、見えるだろ。あいつらを路頭に迷わせてはいけないんだよ。彼らが見ているのは、社長のおれじゃないよ。おまえの後ろ姿だよ」

(『稲盛流コンパ』)

最近才举办了一次一对一的空巴，对方是一位意志消沉的店长。本田说了这番话：
“你愿意跟着我这样不堪的社长，这给我带来了莫大的幸福。可是，你的身后，也有人拼上了自己的人生跟着你。闭上眼，仔细想想他们的脸——看见了吧。绝对不能让他们流落街头。而他们注视着的，不是我这个社长，而是你的背影。”

(2)　ところが、そんな状況の中、私はわずかな期間で、新しい材料をつくることに成功してしまったのです。

(『生き方』)

然而就是在这种情况下，没有多久，我居然开发出了一种全新的材料。

(3)　这时候，销售员很可能会对你说："亲，真不行啊。这双鞋进价 600 元，我卖 1200 元，但每双鞋，我都要给商场交 30%的扣点。1200 元扣 30%，我还能剩 840 元，勉强赚 240 元付工资。如果卖给你 700 元，扣掉商场的 30%，我只能拿到 490 元，连进价都不够！真不行啊！"

（《新零售》）

1200 元から 30%を差し引くと８４０元となり、そこから仕入コスト６００元を引いた残り２４０元で販売員の給料をなんとかギリギリ支払っています。もしあなたに７００元で販売したら、百貨店へのマージン 30%を差し引くと４９０元しか残らず、仕入コストすらカバーできないのです！本当にお応えしかねるのです！」

(4)　有些人可能觉得这是天方夜谭。直接为信息流付费，看了东西就要给钱，会有人愿意吗？其实真有人会。

（《新零售》）

直接、情報流へ支払いをするなんて、それはおとぎ話だと言う人もいるだろう。「商品を見たらお金を払う」、どこに払ってもよいと言う人がいるというのか？じつは、いるのだ。

(5)　而且，原计划要上的当面付只在售货机行业进行了试点，完全没有任何其他商用记录，简单来说就是眼下没有产品，必须紧急开发。新产品到 10 月底终于开发完成，所有负责调试的人员下到各个城市的门店开始挨家测试。项目启动时，正逢银泰方面高层人员变动，很多事情只能靠项目组自己去推动。银泰西安小寨店被总部遗漏在了合作名单之外，门店老板找到项目组诉说各种委屈，说其他门店都上支付宝钱包了，他们也一定要上！于是，项目组拉着人马又去他们的门店。

（《蚂蚁金服》）

また、当初の計画で予定されていた対面決済はレジスター業界内でテストが行われただけで、実際の商業利用の実績は皆無だった。つまり、その時点では製品化されておらず、緊急に開発を進めなければならなかったのだ。10 月末に新製品の開発が完了すると、テスト調整担当のスタッフは各都市の店舗へ赴き、１店ごとにテストを行った。折悪しく、プロジェクトの立ち上げは銀泰上層部の人事異動の時期と重なっていたため、アリペイのプロジェクトチームは多くの事柄を自力で進めなければならなかった。アリペイとの提携対象から落選した西安小寨店の店長などは不満に耐えきれずプロジェクトチームを訪ねてきて、「他店舗はどこもアリペイウォレットを導入するんだから、自分たちもやるん

だ！」と騒ぎ立て、結局プロジェクトチームは彼らの店に赴かざるを得なくなった。

次はこの 5 つの形式について解説する。

M1: 居然(まさか〜だ)

“居然”については《现在汉语八百词》の中で次のように記述されている。

表示出乎意料。
①指本来不应该发生的事竟然发生。
②指本来不可能发生的事竟然发生。
③指本来不容易做到的事竟然做到。
(意外の意を表す。
①起こるべきでないことが起きたことを表す。
②起こるはずがないことが起きたことを表す。
④ 簡単にはできないことが達成されたことを表す。)

他に、謝(2012)、王(2009)の中でも“居然”の意味について、「意外性」を表し、話者の主観的な気持ちを表すことが述べられている。つまり、“居然”の使用は、事実とは無関係に、話者の一方的な認識を強めたい時に使われる表現である。こうすることによって、聞き手/読み手の注意を引き、話し手自身の認識を相手に押し付ける効果にもなる。従って、“居然”の使用は場合によって「認識強要」になりえるのである。

M2: 啊(〜のだ)

“啊”は典型的なモダリティ助詞であり、多義語である。その主な意味用法は《现在汉语八百词》によると次のようなものがある。

①用在陈述句末尾，表示解释或提醒对方。
(陳述文の文末に用いられ、解釈や相手への注意喚起を表す。)
②用在祈使句末尾，表示请求、催促、命令、警告等。
(命令文の文末に用いられ、お願い、催促、命令、警告などを表す。)
③用在感叹句末尾或打招呼里的话。
(驚嘆文の文末もしくは挨拶の文に用いられる。)
④用在问句末尾。
(疑問文の文末に用いられる。)
⑤用在句中停顿处。

(語句を区切るところに使われる。)

a)表示说话人的犹豫，或引起对方注意。

(話し手の躊躇を表したり、相手への注意喚起を表したりする。)

b)用于列举。

(列挙することを表す。)

c)用在假设小句或条件小句的末尾。

(仮説を表す従属節や条件文の文末に用いられる。)

⑥用在重复的动作后面，表示过程长。

(繰り返しの動作の後ろに用いられ、動作の過程の長さ表す。)

以上の記述から分かるように、“啊”はモダリティ助詞として「命令」、「催促」を表す働きがあることから、「命令・認識強要」の「のだ」の対応形式として妥当であろう。“啊”は張(2018)で述べられているように、話し手は自分の認識に対してとてもはっきりしており、そして聞き手に対して明確な答えを求めるのが基本である。つまり、命令の気持ちが比較的に強いものである。

M3: 绝对(絶対～)

“绝对”は強い気持ちを表す表現である。張・他(2001)《现代汉语虚词词典》はそれについて次のように記述している。

表示肯定、坚信。

1.表示对事物的肯定或否定，带有较浓的主观色彩。

(物事に対する肯定または否定の態度を表し、比較的に強い主観性を伴う。)

2.表示不受任何条件的限制，带有强调的意味。多用于祈使句。

(あらゆる条件に制限されない。強調の意味を表す。通常命令文に使用される。)

“绝对”は、上記の2の説明のように、あらゆる外的な要因を考慮せず、「何があってもこれで間違いない」という意味があるため、話し手の主観的な判断を認識のモダリティである。また、“绝对”に含まれる肯定の意味が非常に強いため、聞き手が存在する場面において、相手の意見を押し倒し、自分の認識を押し付ける意味がある。このような意味で、「認識強要」の意味に対応するのである。

M4: 一定(絶対、必ず～)

“一定”は呂(2017)の述べているように、意味が類似していることから中国語教育ではよく“绝对”と比較して導入される。《现在汉语八百词》では“一定”についてこのように記述している。

その他に、李(2005)では“一定”について、“一定 1”と“一定 2”があると述べ、“一定 1”は“情态助动词，强调动作行为在说话后(未然)通过努力后才能发生或出现(モダリティ助動詞であり、動作が発話時間の後(未然)に努力をして初めて実現されるもしくは現れることを表す)”、“一定 2”は“相当于评注性副词，通过某种征兆或迹象对已经发生(已然)或可能出现(或然)的情况的判断或评论(評価を表す副詞に相当する。ある兆候もしくは形跡を通して、すでに起きたこと(已然)の、もしくは起きる可能性のある状況について判断もしくは評価を下す)”ものである。言い換えれば、“一定 1”は発話者の願望を表すのに対し、“一定 2”は発話者の推論の確言を表すものである。両者は共に認識のモダリティに属するものであると考えられる。“绝对”と同様に、認識のモダリティは、もともと発話者自身の判断を表すものであるが、それを相手にあえて訴える場面になると、意識的に相手に自分の認識を強制的に受け入れてもらうことになる可能性もある。このような繋がりによって、“绝对”、“一定”は「命令・認識強要」の「のだ」と繋がったと考える。つまり、対訳としては妥当であるのである。

M5:真(本当に～なのだ)

“真”は《现在汉语八百词》によると、形容詞の用法と副詞の用法があり、形容詞の時は“真实(真実である」”ことを表し、副詞の時は“实在，的确。用来加强肯定(実在的、確実であることを表し、肯定の意を強める」”用法になる。05 の“真”は副詞の“真”である。

副詞の“真”に関してはその他に、顔(2010)、方(2012)、張・他(2015)にも記述があり、“真”の「肯定を強める」語義には他の程度副詞より強い主観性が含まれていることが述べられている。つまり、話し手自身の主観的な判断を相手に認識してもらいたく、場合によって自分の認識の押し付け、すなわち認識強要になることもあるのである。従って、「命令・認識強要」の「のだ」とは共通の意味合いがあるため、対応形式と見なすのは妥当だと考えられる。

2.3“是/“是…的”系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討

今回の調査から見られた“是/是…的”系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応１例しか見られなかった。

表７　“是/是…的”系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	“是”/“是…的”系	
	N1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	1	1
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	1	1

表８　“是/是…的”系の中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	“是”/“是…的”系	
	N1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

N1：是（～だ）

(6)　それでもコンパに出たくないという人が１人でも出るようなら、最初からコンパをしないほうがいい。稲盛流コンパには是が非でも全員で語り合うというリーダーの執念が必要であり、執念なくしてコンパは機能しない。欠席者が出るのは執念の欠如。この点が、一般的な飲み会とは全く異質だ。

住宅メーカーの昭和住宅（兵庫県加古川市）の湖中明憲社長も、コンパ付きの社員旅行を始めたばかりの頃、欠席しようとした従業員に怒鳴ったことがある。「何のための社員旅行だと思っているんだ。上司や同僚、部下とのコミュ

ニケーションを取りに行くんだ」と半ば強引に参加させ、全員参加の原則を社内に根付かせた。トップにはそうした情熱が必要だ。

（『稲盛流コンパ』）

即便只有一个人不愿意参加，那么从一开始就不要举办空巴比较好。稻盛流空巴要求领导者具备“无论如何全员要在一起相互交流”的执着精神。没有执着精神，空巴就发挥不出机能。之所以会有人缺席，是因为经营者缺乏这种执着精神。在这一点上，空巴与普通的酒话会截然不同。

住宅公司昭和住宅（兵库县加古川市）的湖中明宪社长在刚开始举办附带空巴性质的员工旅行时，曾经怒斥过想缺席的员工：“你以为举办员工旅行是为了什么！？是去加强上司、同事、部下之间的交流。”半拖半拽地强行让员工参加，使全员参加的原则在公司扎根。领导者必须具备这种程度的热情。

“是”、“是…的”に関しては、多くの研究において「語気を強める」という表現が見られる。それは“是”、“是…的”自体がそのような意味を持つというわけではないが、使う場面によって語気を強める意味が生じるのである。例えば劉月華他(2001)の《实用现代汉语语法(增订本)》の中で、“是…的”について次のような記述がある。

“是…的”句(二)[20]是指带“是…的”标志的一部分动词谓语句和形容词谓语句。“是”和“的”都是表示语气。这类句子多用来表示说话人对主语的评议、叙述和描写，全句往往带有一种说明情况、阐述道理、想使听话接受或信服的肯定语气。

(“是…的”構文(二)は一部分の、“是…的”表現が付いている動詞と形容詞が述語になる構文のことを指す。この構文において、“是”と“的”は両方モダリティを表す。この構文は通常、話し手が主語に対する評価、叙述と描写を表し、文全体が状況説明、道理の解説、聞き手に受け入れてもらったり信じてもらったりするような肯定のモダリティを帯びている。)

この記述からも分かるように、“是…的”構文は聞き手に強く自分の意見を通すニュアンスがあり、言い換えれば「認識強要」である。そのため、「命令・認識強要」の「のだ」の対応形式としては妥当である。

2.4“就”系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討

“就”系も、前述したように、肯定の語気を強める働きがあるから、「命令・認識強要」の「のだ」と対応すると考える。

---

[20] 《实用现代汉语语法(增订本)》では“是…的”を“是…的”(一)と“是…的”(二)に分けており、“是…的”(一)は焦点を定める構文で、“是…的”(二)はモダリティを表す構文であるとしている。

表 9　“就”系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	“就”系	
	01	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	0	0
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	0	0

表 10　“就”系の中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	その他	
	01	総計
参与感	1	1
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	1	1

01：就是（〜でないならそれまでだ、こそ、するやいなや）

(7)　“当你面对一条分岔路，不知道哪一条才是正确的道路时，你需要用自己的头脑进行思考，然后决定自己应该走哪条路。上大学就是为了培养这种思考的能力。”

（《参与感》）

「あのなあ、道が二股ふたまたに分かれていて、どちらが正しい道かわからない、そんなとき自分の頭で考えて、こちらに行くべき、と自分で決められるように、大学で学ぶのだ」

“就是”は、“就”+“是”で出来た複合形式であるが、“就”はもともと“加强肯定(肯定の意味を強める)”働きがある。例えば《现代汉语八百词》の中で“就”の肯定を強める働きについてこのように記述している。

就 1
4.加强肯定
a)就+是(在)
(就+是/是(在))
这儿～是我们学校
(ここは私たちの学校)
他家～在这胡同里
(彼の家はこの路地の中にあるのだ)
b)就+动。“就” 重读。表示意志坚决，不容改变。
(就+動詞。“就”にストレスを置く。意思が固く、変更を許さないことを表す。)
你不让我干，我’～要干
(やらせてくればいけど、俺はやるのだ)
c)就+动/形。主语重读，“就”轻读，表示主语已符合谓语所提的条件，无需另外寻找。
老’赵～学过法语，你可以问他
(趙さんがフランス語を習ったことあるから彼に聞いてみればいい)

“就是”についても同じように、肯定を強めるパターンが記述されている。これらの記述から分かったことは、“就”及び“就是”の「肯定を強める」働きが、もっと分かりやすくいうと、“就”及び“就是”の後ろに来る述語は本来の意味に対して「それが間違いない」という意味を表せるのである。そして聞き手が存在する場合、相手に対して、文の述語で表したい自分の意見や判断を押し通す意味合いが強く生じる。つまり、認識を強要しているようにも捉えられるのである。そのため、「命令・認識強要」の「のだ」の対訳に出てくるのが妥当であると考える。

2.5 記号系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討

今回の調査から見つけた記号系と「命令・認識強要」の「のだ」の対応状況は次のようになる。形式は“！”しかないが、これが最も典型的な、妥当な結果であると考える。

表 11　記号系の中国語対応形式の内訳（日本語が原作）

作品名	記号系	
	P1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	0	0
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	0	0

表 12　記号系の中国語対応形式の内訳（中国語が原作）

作品名	記号系	
	P1	総計
参与感	5	5
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	5	5

P1：“！”

(8)　在小米的成长过程中，用户给予了我们最重要的支持。小米手机新上市的时候总是一机难求，我们用 F 码帮助这些用户第一时间体验到最新的产品，这是 F 码设计的本源。要让用户的参与感落到实处，就一定要给用户特权！

（《参与感》）

シャオミの成長を支えてくれたユーザーたちに恩返しがしたい。新製品が発売されてもなかなか手に入らないが、ベテランユーザーにはぜひ真っ先に体験してほしい。それが、Ｆコードの根本にある理念だ。 シャオミの一員と言えるほど参加意識の高いユーザーには、特権を与えるのが当然なのだ。

(9)　如果你发货不够快，用户咨询响应不够快，售后维修不够快，这个时候谈什么个性化服务，什么差异化服务，都是空谈！要做好服务的根本，核心就是一个字：快！

（《参与感》）

製品の出荷が遅く、問い合わせへの対応も遅く、修理も遅いなら、「ニーズに合わせたサービス」だの「サービスの差別化」といった言葉は、すべて絵空事になる。良質なサービスの基本中の基本とは、「スピード」に尽きるのだ。

(10)　这就是粉丝的力量！这种感动，时刻激励着我们永怀初心！时刻提醒我们就是一只幸运的“猪”！

（《参与感》）

これぞファンのパワーだ！こんなふうに胸に刻まれた感動が、私たちを励まし、初心に返らせる。私たちが「幸運な豚」であることを思い出させてくれるのだ。

“！”の用法について、《标点符号用法》では次のように記述している。

叹号(！，也称为感叹号或惊叹号)用于句子结尾，表示惊叹、感叹或号叹。
感叹句末尾的停顿，用叹号。
语气强烈的祈使句末尾，也用叹号。
语气强烈的反问句末尾，也用叹号。
(“！”は文末に用いられ、驚嘆もしくは感嘆を表す。
感嘆文の文末は“！”を使う。
語句が強い命令文の文末も“！”を使う。
語句が強い聞き返し文の文末も“！”を使う。)

記述から分かるように、中国語の“！”は命令文の後に使われることが多い。そして日本語と異なるところとして、中国語では句点以外の記号も正書法として認められているため、文書の中では必要であれば使っても良い。そのため、記号はモダリティを表す手段の一つとしては普遍的に認められているのである。その中、最も典型的なのは“！”であり、他の記号よりモダリティ性が強く、意外性や命令の意を強める時に度々使われる。そのため、今回の調査結果を見ると、“！”だけが対応形式に出ているのも想定内の結果であり、妥当性を感じているのである。

2.6 その他と「命令・認識強要」の「のだ」の対応妥当性の検討

その他に含まれる形式は次のようである。

表 13　その他の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	その他	
	Q1	総計
アメーバ経営	0	0
マイナス思考	0	0
稲盛流コンパ	1	1
我がセブン秘録	0	0
「やめる」習慣	0	0
知的資本論文	0	0
ザ・ラストマン	0	0
生き方	0	0
総計	1	1

表 14　その他の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	その他	
	Q1	総計
参与感	0	0
新零售	0	0
腾讯传	0	0
蚂蚁金服-独角兽	0	0
蚂蚁金服	0	0
総計	0	0

Q1：到底(いったい)

(17)　1時間はあっという間に過ぎ、岸本社長は最後にこう締めくくった。

「従業員に辞められるのは、社長にとって自分の人格を否定されるようでとてもつらい。どうすれば辞めないのか。苦しんだ末に気づいたのは、以前の私は従業員を感情的に叱りつけていたという事実でした。『なんでこんなことができないんだ！』『何度同じことを言わせるんだ！』と。それではいけないのです。先

輩が後輩の面倒を見る文化をもっとつくらなければならないと、痛切に感じている。皆さんもどんどん飲みに誘って、若手の相談に乗ってあげてほしい。そうした経費は会社で出しますから」

（『稲盛流コンパ』）

1小时转瞬即逝，岸本社长最后总结道：“员工辞职对社长而言，就如同自己的人格遭到否定，十分痛苦。怎么做员工才不会辞职？在痛苦之后才发现，过去的我在批评员工时带着情绪。‘为什么连这样的事也不会做’‘你到底让我再讲几次’，这是不对的。我深切地感受到我们必须建立牢固的以老带新的文化。大家也要不断请年轻员工喝酒，成为他们的倾诉对象。这些经费由公司承担。”

“到底”はたくさんの使い方と意味があるが、ここで検討するのが疑問文の場合である。《现代汉语八百词》では疑問文の“到底”についてはこのように記述されている。

到底

1.用于疑问句，表示进一步追究；究竟。用在动词、形容词或主语前。

（疑問文に使われ、さらに追及する意味を表す。一体。動詞、形容詞もしくは主語の前に使われる。）

他～是谁？

（彼は一体誰なのだ？）

この記述から分かるように、“到底”は“才”、“就”と異なり、平叙文にはこのようなモダリティを強める働きがない。つまり、疑問文以外の「のだ」文は“到底”と対応できないのである。さらにいうと、「命令・認識強要」の「のだ」が表す疑問は、命題の内容を問うものではなく、内容をすでにある程度知った上での聞き返しであり、聞き返しを通して質問攻めの効果を果たしているが、この点からいうと、“到底”の意味合いが普通の疑問文にも使えるため、「のだ」より意味的に広いのである。つまり、「命令・認識強要」の「のだ」と“到底”の意味領域は完全一致しているわけではなく、「既知命題への聞き返し」といった点で共通しているだけである。言い方を換えると、“到底”と「のだ」の対応性は聞き返し文といった特定の文種に限定されているということになるのである。そして、両者に共通する意味は、“到底”に含まれる「さらに追求する」という意味であり、質問責めと同じであると考えられる。

3.本章のまとめ

「命令・認識強要」の「のだ」は、相手に自分の判断を押し付けるものであり、理由を言わずに結果だけ受け入れてもらいたい場合が多く見られる。そういった意味でいうと、「命令・認識強要」の「のだ」は、「理由・解釈」、「言い換え」、「発見・再認識」、「前置

き・先触れ」の「のだ」とは独立した存在である。ただし、「命令・認識強要」という感情はもともと対人的な文章使いにおいて多く使用されるものではない。そのため、やや特殊な用法になる。このことは、上述した５つの用法の頻度さからも分かる。

調査から得られた「命令・認識強要」の「のだ」の対応形式は以下のようになる。

【モダリティ助詞系】

居然(まさか～だ)

真(本当に～なのだ)

啊(～のだ)

绝对(絶対～)

一定(絶対、必ず～)

真(本当に～なのだ)

【“是/“是…的”系】

是(～だ)

【“就”系】

就是(～でないならそれまでだ、こそ、するやいなや)

【記号系】

“！”

【その他】

到底(一体～)

図示すると、「命令・認識強要」の「のだ」の中国語対応形式は以下のようになる。

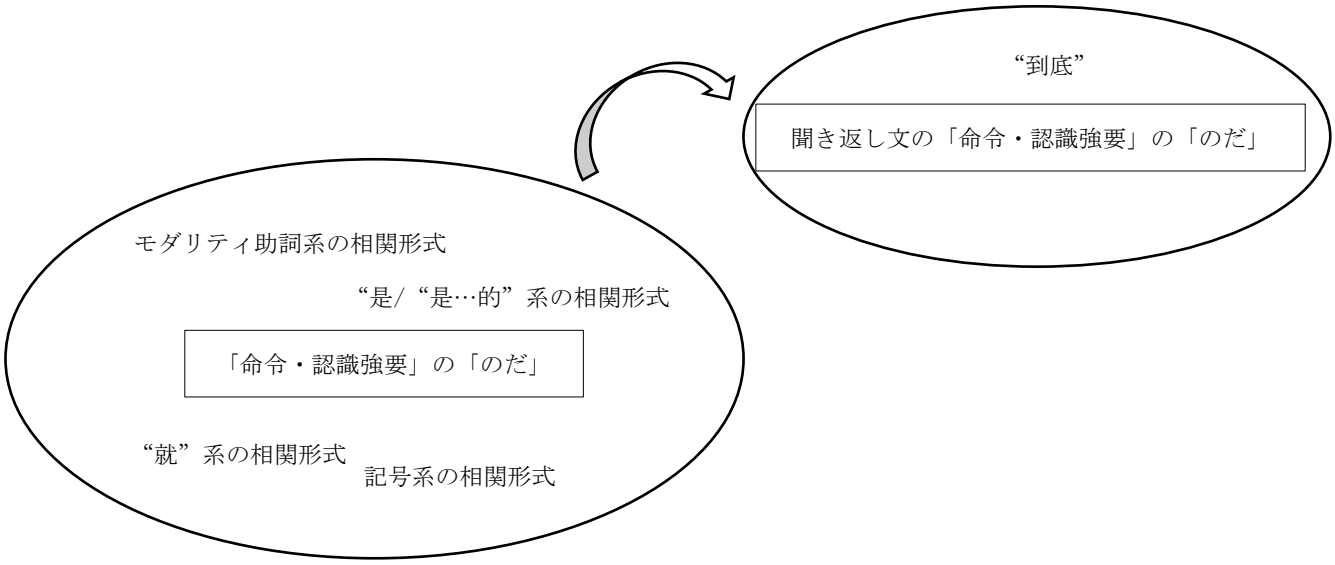

図１　「命令・認識強要」の「のだ」の中国語対応形式

第 8 章　「のだ」と“是…的”の対応性について

1. 本章の内容と目的

第 3〜7 章では実例調査の結果を用いて「のだ」に対応する中国語の形式を洗い出した。その中、これまで「のだ」との対応性を多く取り上げられるものもあれば、新しく見つけた形式もある。今まで、「のだ」の中国語対照研究として一番よく取り上げられる形式は“是…的”構文であろう。先行研究で紹介したように、両者の類似性と相違性については既に多くの研究がなされており、今回の調査からも両者が「のだ」の５つの種類全般に対応する結果が得られている。以上の結果から、“是…的”が「のだ」の最も適切な対応形式、もしくは最も対応しやすい形式でろうかということについて再び考えたくなるのである。そのため、この疑問を解決するために、再びここで“是…的”と「のだ」を検討する必要が出てきたため、第 8 章を設けて両者の関係について取り上げる。検討するポイントは、今回の調査結果から得た両者の表面上の対応性は、果たして両者が本当に一致する形式上の証拠になるのだろうかというところにある。このことを検討するためには、対応関係といった単一面からの考察では不十分であり、両者の構造及び成り立ちを深く考える必要があると考える。従って、この主旨から、“是…的”と「のだ」の類似度/相違度を検討する。検討は、「のだ」の成り立ち、“是…的”の成り立ち、両者の異同点の順に行う。

2.「のだ」表現の成立

前節で述べたように、本論文では「のだ」と“是…的”の相違を両者の成り立ちの異なりから分析したい。そのためには、まず両者を通時的に考察し、成立の経緯を整理する必要がある。

「のだ」という表現は、長い日本語の歴史の中から見れば比較的に新しいと言える表現だが、その前身に関わる各言語現象の研究は日本語の中でかなり多くなされている。本節ではまず先行研究から得られた結論を整理し、「のだ」の成り立ちの全貌を描く。その中に“是…的”の構造と異なることになった決定的とも言える要因があるため、詳述は省けない。なお、成立過程の記述に関する細部では、研究者によって観点が少々異なる部分があるが、大まかな結論は諸説では一致しているということを考え、本論文ではなるべく中立的な記述を採る。

2.1「のだ」を「の」を中心的に見る

「のだ」の成立に関わる要因は主に 3 つある。①準体句の消失、②「の」の準体助詞としての定着、③判定の助動詞「だ」の成立である。本節ではまず「の」に関わる①と②について述べる。③の「だ」についてはまた改めて節を立てて詳しく見る。

まず①について見てみよう。準体句とは、古代日本語において、活用語の連体形が体言を下接させることなく、単独で「体言に準じる」あるいは「体言相当の資格を持つ」用法とし

て句をなすものである。最初に「準体句」という名前を用いたのは山田孝雄(1908:774)であるが、後に石垣謙二(1955:215)が、準体句の内部構造によって、「形状性名詞句」と「作用性名詞句」に分類されることを指摘している。

(1) 友の遠方より訪れたるをもてなす。
(2) 友の遠方より訪れたるを喜ぶ。

(石垣 1955)

「形状性名詞句」というのは、(1)の下線部のように、「友の遠方より訪れたる」が実際には「遠方より訪れたる友」という意味で、下線部の準体句は「ヒト」を指し示し、主語である「友」と同一人物を表す準体句のことである。一方、「作用性名詞句」というのは、(2)のように、下線部が「友の遠方より訪れたる」コトを指す場合の準体句のことである。

準体句はいわゆる形式名詞なしで、叙述性のある出来事、もしくは人物像を名詞的に描き出す働きをするものであり、それ自体は主語成分にも、述語成分にもなり得る[21]。現代日本語には慣用句や決まった表現以外、このような言い方は存在せず、活用語を体言的表現にする場合は、形式名詞「こと」「もの」「の」や、時名詞、場所名詞を下接させなければならないようになっている。無論、古代日本語でも活用語を名詞句にするとき、準体句という手法のみに頼っていたわけではない。準体句の他にも、「活用語の連体形＋人／時／場所名詞」という連体法や、助動詞「なり」を下接させるなどの方法があった[22]。これらの手法の関係や異同点については本論文は深く考察していないが、いずれにしても、古代日本語では、少なくとも準体句が現れ始めた奈良時代より少し前の時代から[23]、既に出来事を一つの名詞的なまとまりとして表現する手法が存在することが分かる。出来事を名詞化するというのは、決して日本語特有の現象ではない。例えば英語では接辞の“～ing”や“～tion”を動詞に付着させることによって動詞文を名詞化することができる。

(3) a. To see is to believe.
b. Seeing is believing.
百聞は一見に如かず
(4) a. She decided to buy this coat.
彼女はこのコートを買うことに決めた。
b. Her decision of buying this coat means a lot for her.
彼女にとって、このコートを買うことには大きな意味がある。

---

21 その準体句は「作用性」のものなのか「形状性」のものなのかによって、主語か述語の位置に来られるかについて一定の規則が見られるが、本論文の内容に直接関わらないため、詳述を省く。詳しくは石垣(1955)を参照されたい。
22 詳しくは近藤(1986)を参照されたい。
23 準体句が形成した時代については詳しくは山内(1963)を参照されたい。

中国語では語形が変化しないため動詞文の名詞化は直観的に捉えにくいかもしれないが、例えば例(5)のように、現代語の中では本来用言的な言い方が連体助詞“的”及び判断詞“是”の作用によってその成分を名詞化することができると考えられる。

(5) 他的暂时不去是有道理的。

彼がしばらくの間行かないのは理由のあることだ。

(望月 1977)

古代中国語では、“之”を主語と述語の間に挿入することによって、述語成分を名詞化することができる。下記の例(6)で示す。“之”による名詞化の手法はよく複文の中で見られ、名詞化された部分を主題にする働きがあると見做されている[24]。この場合、“之”はよく“也”と共起し、主題化の機能を強める。“之”の他に、例(7)のように、語形を変えずに用言性成分を文頭に置くことによって、名詞化する手法もある。

(6) 子曰，民之于仁也，甚于水火。

子の曰く、民の仁に於けるや、水火よりも甚だし。

(『论语(金谷治訳版)』・衛霊公)

(7) 子曰，过而不改，是谓过矣。

子の曰く、過ちて改めざる、是れを過ちと謂う。

(『论语(金谷治訳版)』・衛霊公)

要するに、国や言語形式のいかんに関わらず、用言性成分を体言的にすることは言語普遍的に見られると言えよう。

ところで、中古において盛んであった準体法は、中世末から近世初頭頃にかけて、連体形と終止形の合一化の影響で衰退し、「連体格における論理化」が要求されるようになった[25]。その結果、活用語を名詞化するときに形式名詞を付着させることが徐々に義務化されるようになった。そのとき、形状性名詞句と作用性名詞句の名詞化に使われる形式名詞が分化した。形状性名詞句、いわゆる連体形の部分が被修飾語と同一名詞[26]を表しその名詞を装定する名詞句では、装定される部分の人、場所名詞は顕在化するようになった。つまり(1)の例で言えば、先ほど述べたように、現代語では「遠方より訪れた友」のようになる。

24 “之”の機能については各説があるが、本稿は張(2003)と同様、“之”は主題化機能を持つことに同意する。

25 この主張は柳田(1993)によるものである。

26 「形状性名詞句」と「作用性名詞句」では、連体形と被修飾語の関係の間に異なりが見られるが、信太(1987)ではその性質の差に着目して、形状性名詞句を「同一名詞連体修飾」、作用性名詞句を「同格名詞連体修飾」と呼んでいる。

一方、作用性名詞句の場合、連体形の部分は被修飾語を述定するのであり、連体修飾成分と彼修飾成分が合わせて一つの事柄を表すものであるため、準体法の衰退に伴って「こと」「もの」「の」のような形式名詞が使われるようになった。

次に、「のだ」の成立に関わる2番目の要因、即ち形式名詞「の」の由来と何故数多くの形式名詞の中で「の」が選ばれたのかの問題に入る。

「のだ」と“是…的”の対照研究に際しては、「の」と“的”の比較は一大課題である。実際、これまでの研究は「の」と“的”の相違に注目しているものが多い。特に“的”の性質についての議論が多いが、明確な結論には至っていない。“的”についてはまた次節で本論文の考察をも含めて詳しく分析するが、単に「のだ」の「の」について言えば、その機能の形成は“的”より一直線で直観的であると言ってもよい。この機能の直観的な変容が原因かもしれないが、日本語学の中ではこれについての定説が存在する。

中山(1950)、山口(1993)等の見解によれば、「のだ」の「の」は代名詞の「の」から発達したものである。

(8) 人妻とわがのとふたつ思ふにはなれこし袖はあはれまされる。

(『好忠集』・四五八)

代名詞の「の」は、例(8)のような「体言＋が＋の」の構造に多く観察されている。そしてさらに遡ると、代名詞の「の」は、吉川(1950:33)が述べているように、属格(原文「領格」)から発達した可能性が高い。「の」と「が」は本来連体助詞であり、そのうち「が」は主格助詞、「の」は属格助詞さらに代名詞というように、機能が分化したというのは周知のことである。この「が」に後接する代名詞の「の」が、後でさらに一般的な体言代用として使われるようになった。そして最終的に「の」の実質的な意味が希薄化し、形式名詞としての用法が定着したと考えられている。

「の」の変化の過程を観察すると、日中対照研究の視点からは古代中国語の“之”が連想される。主旨から逸脱するため本論文では詳しい分析を行わないが、「の」が代名詞に発達するまでの過程において、両者の機能は平行的であることが観察されている[27]。周知のように、“之”と現代中国語の“的”には、緻密な関係がある。なお、前に述べたように、「の」の変化はより直観的であるが、その原因の一つとして、「の」は字形の変化が起こっておらず、最初から現代に至るまで終始「の」という表記のままであるため、その意味機能の変化は同一のスキーマを持つ多義語のような、単一方向的な拡張であり、直観的と言える。一方、現代中国語の“的”は、“之”の機能を全て継承したものではない。“的”の成立に至るまでは、“之”“所”“者”“底”などを経由し、字形の変化に伴った複数の代名詞、指示詞の機能的な混合が生じていた。そのため、「の」の変化より直視的に捉えにくい。そして、

27 詳しくはYong-Xin Gao et.al.(2016)を参照されたい。

膠着語と孤立語の、接辞の明示があるかどうかの差異をも加えて考えると、現代語の「の」と“的”がむしろ平行的でないほうが自然である。

では、「の」に関する最後の問題である、何故他の形式名詞ではなく「の」が選ばれたのかという点について考えてみよう。なぜこのようなことを考えるかというと、現代日本語では「ものだ」「ことだ」「わけだ」など、「の」以外の形式名詞＋「だ」、で構成された表現が存在するからである。ただし、ここで述べたいのは、「のだ」が「ものだ」「ことだ」「わけだ」などより広い意味合いを持つことの背後に、「の」の実質名詞としての希薄性が関連するのではないかということである。つまり、これまでの記述で分かるように、「の」はもともと実質名詞としての存在ではなかった。代名詞という機能があるものの、それも文脈の照応がないと実体の分からないものであり、「もの」「わけ」などに比べて意味が希薄である。このような理由で、準体句の意味を変えずに「体言」として還元させたい時に、意味の最も薄い「の」が選ばれやすいのである。これも、「のだ」の広い意味合いを築いた基盤でもあると考えられる。

2.2「だ」の形成と性質

前節では「の」の成立を中心に見てきたが、本節では「のだ」の「だ」について概観しする。前の記述から分かるように、「のだ」の「の」の成立は、膠着語という特徴と深く関わる。つまり、「の」の出現は、準体句の文法機能の衰退に伴った必然的とも言える形式上の「義務」と考えられるものだが、「だ」もまた、「の」の出現に伴った形式上の「義務」と言ってもよい。

「だ」の成立は、形態の面と意味の面を両方見る必要がある。形態的では「ニテアリ」→「デアル」→「デア」→「ダ」という音声的な変化を経て定着したと言われている(日本語文法学会 2014:378)。それと同時に、意味的には、上代の連体形に接続する助動詞「なり」(以下「連体「なり」」と記する)を継承し[28]、「断定」を表すコピュラとして残ったのである。この形態上と意味上の変化は決して相関しないものではない。連体「なり」は、もともと「にあり」から、母音が脱落してできたものである。山田(1908:348)の記載によると、「「なり」にて重文をつくらむとするときは「あり」の代に形式動詞の連用形「し」を用ゐ之に複語尾「て」を添えて示す」(ex.葉は緑にして花は紅なり)、そして「その「し」を省きて「にて」にて示すことあり」と述べている。つまり、「だ」の前身である「にてあり」は、接続規則を無視し単に意味から見れば「なりあり」に相当すると考えられる。「あり」は本来「存在」の意味を持っていたが、「だ」へと変化していくうちに存在としての意味が失われ、「だ」全体が陳述のみを担う存在詞になったとされている。

28 北原(2014)によると、「なり」には連体形に接続する「なり」と終止形に接続する「なり」の二種類があるが、それぞれの起源が異なっている。「のだ」の「だ」に関わる「なり」は「連体なり」と考えられている。

先ほど「だ」について「義務」という言葉を使って説明したが、もっと具体的に言うと、一つは日本語の膠着的な構造が要求する、文末において「けじめ」を示す標識の明示ということがある。助詞の「なり」であろうが、係結びであろうが、係結びの衰退に由来する連体終止形であろうが、活用語は文中と文末において異なる形をとる必要がある。形式名詞「の」が準体句に付着するようになるに連れ、体言が文末に位置するという座りの悪い状態を「だ」を接続させることによって改善することが必要になってくるだろう。もう一つは、日本語で古代から現代に至るまで見られる［［命題］モダリティ］という階層的な構造[29]に付随する判断の文末後置である。「だ」が表す「断定」というのは、換言すれば一種の判断系のモダリティ[30]であり、さらに言えば、疑問、推量のような他のモダリティに比べて無色のモダリティである。しかし日本語のモダリティはかなりの程度で文法化されており、陳述性の高低に関わらず言語化される場合が多い。「だ」の出現はこの 2 つの原因から推測できるだろう。実際、江戸時代において、準体の「の」が定着する前に、既に準体句＋「だ」という構造が観察されている。なお、方言の中で準体助詞として定着した「が」、「と」＋「だ」の変形と見られる「じゃ」「ちゃ」の存在[31]からも「だ」の義務性は裏付けられる。

以上、「のだ」という表現が形成するまでの過程を簡単に述べた。その過程は次の図 1 のように示せる。

29 南(1974)を参照されたい。
30 モダリティのカテゴリーに関する用語は益岡(1991)を参照したものである。
31 詳しくは田原(1970)を参照されたい。

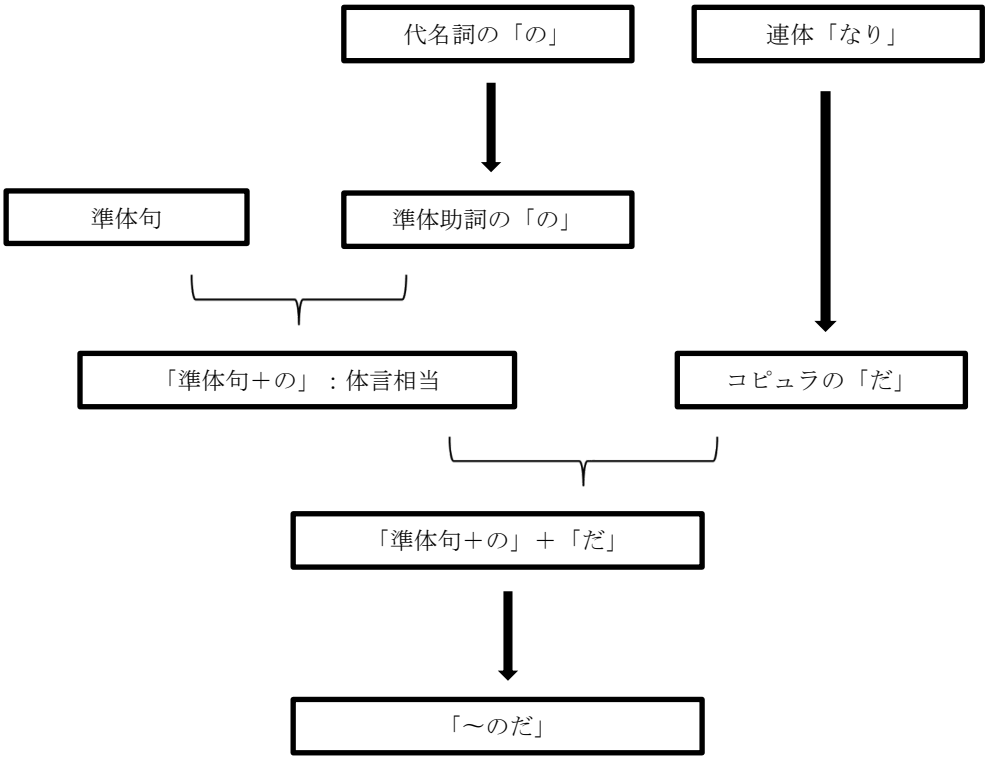

図１　「のだ」表現の形成

「のだ」表現の出現は近世初期頃とされているが、その定着に連れて、「のだ」に上接文の類型に多様性が見られるようになった。それに至るまでの時期についてはまだ詳しく考察する必要があるが、それまで準体句しか上接しない「のだ」文に、山口(2011)の分類によると、「X(～の)は Y(～の)だ」、「x(先行詞)。X(指示語)は Y(～の)だ」、「x(先行詞)。<X(指示語)は>Y(～の)だ」、「x(先行詞)。<X(指示語)は>Z(二次的題目)は Y(～の)だ」のように、文が生産的に使われるようになった。これに伴い、「のだ」の意味合いも徐々に広がり、本来の「体言＋判断詞」の機能からモダリティを表すようになり、現在では「のだ」を一つのモダリティ助詞として捉えるのが多数の見解である。

3. “是…的”構文の成立の考察

前節では「のだ」の成立について概観し、その成立に形態的な束縛が大きく関わっていることが分かった。本節では“是…的”の成立について記述を行い、「のだ」との相違を見たいが、ただし“是…的”についての研究は未だに定説になっていない上に現在の結論について追究する余地がまだあるため、本節の見解はほぼ筆者の考察に基づくものになる。

3.1“是…的”に関する先行研究

“是…的”構文の定着は、おそらく「のだ」より長い期間を経ている。無論、日本語と中国語の形成年代の差も一つの原因だと考えられるが、もっと重要なのは中国語においては形態的な束縛がほぼないということである。つまり、「のだ」では「の」が文末に置かれたことの結果として「だ」が形態上義務的に要求されるようになるのに対し、“的”が文末に生じたことと“是”の生起の間に形態的な義務はない。“…的”構文における“是”の出現は、言語の発展に伴う論理性の精確化の産物であると考えられる。ゆえに、“…的”構文の成立から“是…的”構文の定着まで、「準体句＋の」から「準体句＋の＋だ」になるまでよりより長い期間をとっていると考えてもおかしくないだろう。実際、木村(2002)で指摘されているように、現代中国語においてもすべての“…的”構文は“是…的”構文であるわけではない[32]。その理由は中国語の形態上の「義務」のなさから解釈できると考える。

“是…的”構文に関する先行研究は数多くあるが、その中で“的”を中心に考察するものが大半をしめている。そして結論も多様で、“的”をテンス標識、モダリティ標識、名詞化標識、照応の標識、動作行為を区分限定する標識として捉えるものなどがある。その中で、本論文の立場を述べる前に特に朱(1961)の名詞化標識説、杉村(1983)の照応標識説、木村(2002)の動作行為限定標識説について検討しておきたい。

朱(1961)は“的”を研究する先駆者の一人と言える。彼はまず語源と構造に基づいて“的”のうち、方向補語に相当するもの(ex.“坐的椅子上”)を“的$_1$”、動詞補語に上接するもの(ex.“煮的烂”)を“的$_2$”、動詞、形容詞、名詞に接続するもの(ex.“吃的”“红的”“他的”)を“的$_3$”と分類しており、各類の間に明白な区分基準を与えている。そして“是…的”の“的”については“的$_3$”に属するとし、性質は「名詞相当成分」、つまり代名詞として考えている。例えば“他的(彼の)”という名詞句があれば、その中の“的”は「彼の何らかの具体的なもの」を代替している。しかし朱(1961)自身は、この説明だけでは“书是在图书馆借的(本は図書館で借りたのだ)”のような“是…的”構文の中の“的”をうまく解釈できないことに気づいている。これを補うために、彼は「主語後置説」を持ち出し、“书是在图书馆借的”をつまり本来“书是在图书馆借的(书)(本は図書館で借りた本だ)”の構造であり、“是…的”構文は実は“的”後ろの主語が省略された一種の名詞構文であると主張している。しかし、実際の状況はすべてが朱(1961)の言っているようではない。“是…的”構文を文脈に従って観察すると、すべての“是…的”が“是…的人／物”と解釈できるわけではない。この点については杉村(1980)の中でも言及されている。

朱(1961)の“是…的”を名詞述語文として捉える見方は、近代論理学の中にその原型が見られる。いわゆる陳述構造というのは、結局、全ての文は判断の屬辞形式(forme

[32] 木村(2002)が述べているのは、すべての“…的”構文は“是…的”の“是”が省略されてできたものではないということである。“你都买的什么”のようなそもそも“是…的”構文に還元できない“…的”がある。「のだ」文も表層的に「だ」が現れないことが見られるが、それは基本的に「だ」の省略と考えられる。これは「のだ」と“…的”構文の原理の異なりを示唆している。

attributive)という一つの形式に帰着できるという見方である。例えば「私の兄は手紙を受け取った」という文の解釈は、「私の兄は手紙を受け取った人である」になるが、これについては三上(1960:208)が批判し、命題には関係と性質の二つの要素があり、近代論理学ではこれらの区別をつけていないためすべての陳述を性質の描写、つまり名詞述語文として捉えてしまったことを指摘している。“是…的”構文についても同様のことが言える。“是…的人／物”という性質の描写は、“是…的”構文の全体の一部でしかないはずである。

次に杉村(1983)の照応標識説について検討したい。杉村(1983)は“(是)…的”を、既然の動作表現に照応する照応形式として捉えている。この見方によって、“是…的”構文が既知の文脈の中でしか使われないという疑問が解消された。彼はさらに“先“了”後“的””という説を提出し、つまり“(是)…的”が使われている文脈は常に顕在的・潜在的な“…了”構文が先行しているという解釈を提示ことによって“(是)…的”の照応性を裏つけている。また、彼は“是 V0 的”文によく見られる目的語の“的”が後に後置される現象については、“的”の已然義をより分かりやすくするために一般の名詞句構造に倣って造られた形であると述べている。

杉村(1983)の「照応」という着目点は、“的”の歴史的な考察から見れば非常に理にかなっていると考える。“的”は古代の“之”“所”“者”の機能が一部混合してできたものであることは数多くの研究で述べられているが、その役割を大まかに分類すれば、連体助詞(中国語文法で“结构助词”と呼ばれている)と代名詞の二類がある。連体助詞の中で典型的なのは「形容詞／名詞＋的＋名詞」の中の“的”で、いわゆる下接名詞の性質、所属を修飾するものである。しかしこのような“的”は通常、決まった表現や比較的に短い修飾成分にしか接続しないことが観察される。“是…的”構文は一般の連体修飾節より長いということから、その中の“的”を連体助詞として捉えることには無理があると考えられる。後ほどまた詳述するが、本論文の考察によると、“是…的”の“的”は代名詞からさらに発達したものであり、代名詞の「照応」の機能がさらに広い意味で働いている。ただし、本論文で述べたい“的”の照応機能は、仕手側の視線で言う「動作表現」との照応ではなく、相手側の視線でいう「状況」との照応である。また、本論文と杉村(1983)は“V0 的”と“V 的 O”の中の“的”は同じ働きをしているかどうかというところで異なる。

最後に、木村(2002)についての私見を述べたい。木村(2002)は“的”の本質について「既に実現したことが前提とされている特定の動作行為に対して、その動作行為に関与する何らかの関与項を基準に区分的限定を加え、当該動作(行為)の属性を措定しようとするものである」(木村 2002)と述べている。木村の主張は、上で述べた、“的”を連体助詞として物事の性質、属性を修飾する働きと同様である。つまり「形容詞＋的」の延長的用法とも言える。既に述べた理由に付け加えて言えば、もし“的”が連体助詞であれば、“的”が表せる已然のアスペクトは、その動作行為の属性になることになるが、それが妥当であるかについて検討する必要がある。また、もし連体助詞が“的”の本質だとすれば、連体助詞の“的”と代名詞の“的”の間に関連性があるのか、その関連性をどのように解釈すればいいのかを

明示する必要がある。逆に両者が関連しないという立場を取る場合、なぜ“的”にまったく異なる機能を持てるのかについての説明も必要であると考える。

3.2“是…的”構文の考察

3 節で「のだ」の形成について概観した。対照しやすくするために、本節と次節では同様の手順で“是…的”構文の形成を見ていきたい。ただし、4.1 節で言及したように、現代語の“的”の性質についてはまた検討する余地があるため、本論文では先行研究の上に歴史的な考察を加え、独自の見解を述べることにする。

考察に入る前に、まず“的”という字の成り立ちについて触れたい。“的”という字形の出現は、呂(1943)、曹(1995)によると、宋代(AC.960～1271 年)において音声的な変化に伴って現れ、元代(AC.1271～1368 年)の発展を経て、明代(AC.1368～1644 年)になって定着したものであり、その直接の由来は、魏晋南北朝から使われるようになった“底”と“地”である。機能上から言えば、“底”と“地”は古代語の“之”“者”“所”[33]の指示詞、代名詞の機能を分担的に継承していた。

元代になって“底”と“地”が混合し、その結果、それぞれの一部の機能が“的”に転じた。曹(1995)によると、初期の“的”は“底”の機能のみを継承し、連体助詞(ex.“大王的亲人(王様の親族)”)とそれから派生した代名詞の用法(ex.“长的自长，灭的自灭(伸びるものは自ら伸びる。滅びるものは自ら滅びる)”)しかなかった。元代中期から“地”の副詞としての用法(ex.“交学者好生的学(学生をよく勉強するようにさせる)”)も加わったが、これは朱(1961)の分類で言うと“的$_2$”類にあたり、本論文の考察対象と相関しないため、この用法については考察から外すことにする。つまり、本論文の考察対象になる“的”は、“底”から転じた用法のみである。

そして曹(1995)の記述によれば、元代以降、本論文の考察対象になる“我是昨天来的(私は昨日来たのだ)”の“的”が現れるようになった。しかし曹はこの用法については、モンゴル語のモダリティ助詞の影響を受けてできたモダリティ助詞と解釈している。モダリティ助詞の立場をとる研究は他にもあるが、ただ曹(1995)の説明のようであれば、外来の言語の影響を受けたとしても、代名詞からモダリティ助詞に発展する間の意味的関連性を明示する必要がある。それを調べるため、本論文では元代と明代、合わせて 6 作品を用いてその中の“的”の使用実態について調べた。

今回の考察を行う際に、まず上述した“的”の使い方に基づいて“的”構文を 3 種類にまとめた。

①連体助詞としての“的”：「名詞／人称代名詞／形容詞／動詞＋的＋名詞」。

②代名詞としての“的”：「名詞／人称代名詞／形容詞／動詞＋的」。

---

[33] “所”と“的”の関係は朱(1983)が指摘したもので、呂(1943)、曹(1995)の中でそれに関する記述が見られない。

③“(是)…的”構文に用いられる“的”：「(是)＋動詞＋的」。[34]

③の“是…的”の“的”を研究する際に、緊密に関連があり、かつ、判別がつきにくいのは②類である。そのため、今回の考察対象を②と③のみに絞る。まず今回の考察における②と③の判別基準について述べておきたい。②類の構文は、文脈と関係なく基本的に①類に還元できるのに対し、③類は文脈と大きく関わるため①類にすると不自然になる。そのため、本論文では①類に還元しても不自然ではない“的”構文をなるべく②類にする。どう考えても①類に還元できない“的”構文、つまりやむを得ない場合のみを③類にする。なお、“的”は口頭語によく用いられるため、今回の考察は小説を中心にする。

考察の結果、いくつかの結果が得られた。

〈1〉元代の作品に“的”は多く使用されていないのに対し、明代になると使用回数が大幅に増えている。これは曹(1995)の考察と一致する。

〈2〉時代の経過に連れ、②類のものにバリエーションが見られるようになり、②類であるか③類であるか判断が揺れる“的”構文が多数観察された。

〈3〉③類と考えられる“的”構文では、“是”字が付いておらず、“…的”という形をとるものが多い。それらのものは、意味上も“是”字が省略されたものではなく、もともと“是”字がない“…的”構文であると考えられる。

〈4〉“(是)…的”という形を取れる“…的”構文の全体の一部しかない。そして、“(是)…的”構文は単純の“…的”構文より意味が狭い。

〈1〉については、各作品に出現した代名詞及び“(是)…的”の“的”の用例数を表1にまとめた。

[34] 本稿では“(是)…的”構文と代名詞構文“是＋的”を区別する立場をとる。後者には名詞、動詞、形容詞構文のいずれもあるが、前者には動詞構文しかいない。

表１　各作品における“的”の使用状況

作品集名[35] （作品字数）	年代	“的”の 総数	代名詞の“的” （全体の割合）	“是…的”の“的” （全体の割合）
《全相平话》 (240,524)	年代不詳 (元代早期)	107	11(的) 7(底) (10.28%)(6.54%)	1 (0.93%)
《清平山堂话本》 (136,489)	1522-1566 (明代中期)	298	50 (16.77%)	6 (2.01%)
《警世通言》 (384,528)	1624 (明代末期)	1672	232 (13.88%)	82 (4.90%)
《喻世名言》 (383,856)	1620-1624 (明代末期)	1670	358 (21.43%)	166 (9.94%)
《初刻拍案惊奇》 (420,940)	1628 (明代末期)	3379	940 (27.82%)	275 (8.14%)
《二刻拍案惊奇》 (432,395)	1632 (明代末期)	4106	1117 (27.20%)	391 (9.52%)

初期の作品では、“的”と“底”の混用が見られているが、明代になると、“底”の代名詞としての用法は今回考察した作品の中ではほとんど見られなかった。

今回考察した作品集の中で全体的に元代に作成されたのは《全相平话》しかないが、《警世通言》、《喻世名言》の中で元代に作成され、その中に収録されたと推定されている《赵伯升茶肆遇仁宗》、《史弘肇龙虎君臣会》、《陈从善梅岭失浑家》、《杨思温燕山逢故人》、《张古老种瓜娶文女》、《简帖僧巧骗皇甫妻》、《宋四公大闹禁魂张》、《汪信之一死救全家》などの作品を考察すると、やはり“的”がほとんど使われていないことが分かった。

今回の考察で一番興味深い結果は〈2〉である。特に明代末期になると、このタイプの“的”が盛んに使われるようになっている。例(9)のようなものである。

(9)　一日寺中老僧出行，偶见沟中流水中有白物，大如雪片，小如玉屑。近前观看，乃是上白米饭，王丞相厨下锅里碗里洗刷下来的。长老合掌念声"阿弥陀佛，罪过，罪过！

ある日お寺の僧人は出かけた。目の前の河に、雪のかけらや玉石の屑のような白いものが流れていた。近くてみてみると、なろほど、白いご飯粒だった。王丞相の鍋から擦りおろしたものだ。僧人は慌てて手を合わせ、「南無阿弥陀」と唱え始めた。　（《警世通言》第十七卷　筆者訳）

[35] これらの作品の文体特徴は、当時の口語に近い言葉で書かれたものである。

(9)では、文脈上“的”は主題の“上白米饭(白米のご飯)”の由来について「王丞相の鍋から擦り下ろしたのだ」というふうに、説明しているようにも捉えられるが、「王丞相の鍋から擦り下ろしたものだ」、のようにモノの代名詞としても捉えられる。

今回の考察では、このような、まだ代名詞としての姿が捉えられる“的”構文を全て②類にしている。しかし、次のような例も見られた。

(10) 善继听说“家私”二字，题目来得大了，便红着脸问道：“这句话，是那个数你说的？”
「家財」なんて大それた言葉に、善继は顔を赤らませた。「この言葉、誰が教えたの？」と聞いた。 (《喻世名言》第十卷　筆者訳)

(10)の下線の“的”構文は、“*这句话，是哪个教你说的话？”のように、“的”の後に代名詞の同位語をつけることはできない。そのため、このような文は②類ではなく、③類いわゆる“(是)…的”構文として考えるしかない。

しかし、(10)を(9)と比べると、両タイプの“的”は全く無関係とは言えない。なぜなら、いずれのタイプも“的”を文中から削除すると非文になり、それらの“的”はいずれも前文の中のなんらかの情報を指し示し、前文と緊密不可分離な関係があるからである。異なるのは、(9)の“的”は、“的”が指し示している対象が明白であるのに対し、(10)の“的”が指し示しているのは何らかのもっとスケールの大きいぼんやりしている事柄であるという点である。

ここからあることが推論される。つまり(10)のような“(是)…的”の“的”は、②類の代名詞の“的”から発展した用法であり、中心的な用法は前文脈と照応し、あるモノもしくはコトガラを指し示すことであるということである。発展の外部的要因には、曹(1995)が述べているように、モンゴル語の浸入が関わっていると考えられる。

コトガラでは普通名詞と異なり、動作行為の経過のプロセスが描写されているため、それを照応するには必然的に動作行為の完了、つまりアスペクトの問題が関わってくる。一般の動詞述語文が“了”“过”などでアスペクトを表すのであれば、それと照応する“(是)…的”の“的”もアスペクト助詞として考えられる。このように捉えれば、杉村(1983)の“先“了”后“的””説の内実も解釈できるようになる。前節で言及したように、本論文では杉村(1983)と同様に、“是…的”の“的”内実は照応であると考える。ただし、本論文で考える“的”の照応性は、動的、静的いずれの場合も前の文脈に出てきた事柄との照応である。杉村(1983)の動作行為の照応より指示対象が広い。

以上が本論文の“(是)…的”に関する第一の観点である。以下のようにまとめる。

(11) “(是)…的”構文の“的”は、代名詞の“的”から発達した使い方であり、その性質は前の文脈で提示された事柄・状況と照応し、それを指し示す。事柄を指し示

すということは、その事柄が時間との関係も指し示すため、“(是)…的”の“的”は文法上はアスペクト助詞であると判断できる。

“(是)…的”の“的”がアスペクト助詞であるとすると、「のだ」との異なりが一つ明らかになる。つまり、「のだ」の「の」は準体助詞で、日本語の形態上の束縛で発達した要因が大きいのに対し、“(是)…的”の“的”は意味的・文法的な要求で発達したものである。

3.3“是…的”構文の“是”

前節では、“是…的”の“的”は形態的な束縛の産物ではないことを述べた。“是…的”の“是”も同様である。3.2節の考察結果の〈3〉、〈4〉がその根拠である。

〈4〉に関しては具体的に次のような例がある。

(12) ……。况且申徒泰已有功绩申奏去了，朝廷自然优录的。

……。しかも申徒泰はすでに手柄を立てているから、当然優先採用されるのだ。)

(《喻世名言》第六卷　筆者訳)

“的”は照応の標識である以上、それ自体で説明の役割を果たせるはずである。つまり、指示対象が明白に要求されない文面では、“是”がなくても差し支えないと考えられる。

“是”は通常コピュラとして認識されている。一部の研究[36]ではそれを焦点標識として捉えているが、コピュラには修飾対象の性質・属性を明示する働きがあり、焦点標識もまた修飾対象に関する何らかの情報にハイライトを当てる機能がある。そのため、“是”が明示されている文は、通常より焦点が分かりやすく意味的に単一である。例(13)のようである。

(13) 徐用道：“不要忙，我是来救你的。我哥哥已醉，乘此机会，送你出后门去逃命，异日相会，须记的下干我徐用之事。”

(徐用：“慌てないでください。私はあなたを助けに来たのだ。兄はもう酔っ払ったから、この機を狙ってあなたを外に出す。今度会ったら今のことを思い出してくれればいい。”)

(《警世通言》第十一卷　筆者訳)

論理性が明示されたため、“是…的”構文の働きはよく「説明」として解釈されるのである。

興味深いことに、“是…的”構文は日本語でほぼ「のだ」文に訳されるのに対し、「のだ」は中国語であまり“是…的”と訳されない。上述したことをまとめて考えればその理由がわかる。多くの研究で言われているように、「のだ」の使用には、既成命題との関連付けが必

[36] 詳細は董(2004)を参照されたい。

要である。“是…的”の“的”の照応という性質はある意味でこれを果たしている。“是”の強い指示性は“的”の照応対象を明確に絞り、全体として“是…的”構文の機能を単一化、明示化している。一方、「のだ」の使用条件に「既成命題との関連付け」以外の制限がかかっていないため、“是…的”より広い意味合いを保持できるのである。

3節の内容をまとめると、“是…的”構文の形成は図2のようになる。

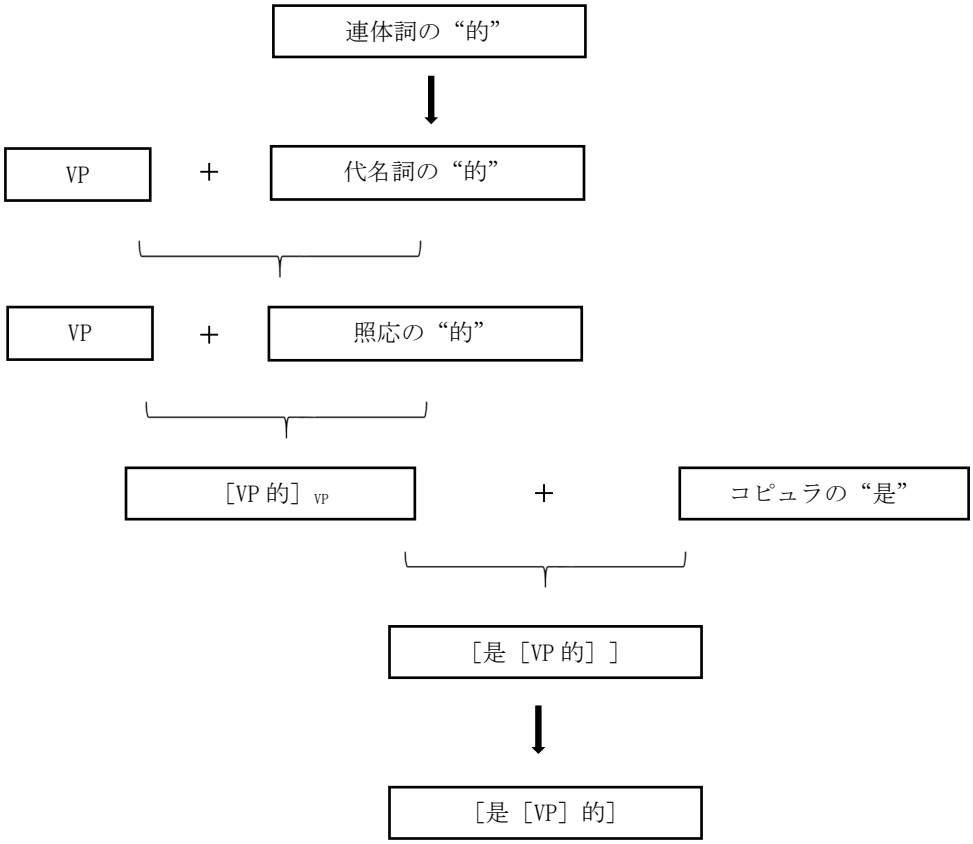

図2　“是…的”構文の形成

注意していただきたいのは、最後の［是［VP 的］］から［是［VP］的］の変化がすべての“是…的”構文で起こっているわけではないということである。本論文では、“是…的”の発達に伴い機能的な変化が生じ、焦点を定める型とモダリティを表す型に発達したと考えている。焦点型の“是…的”の内包成分は独立性を持たないため、“的”はVP句内のアスペクトを補う。モダリティ型では、VPは独立した文に相当するため、“的”はVP内の命題成分を指示するのではなく、前文脈の中のなんらかの情報を指示することに発展する。前文脈との繋がりをどのように捉えるのかは話し手の認識と深く関わるため、前文脈の情報を指示するということは、話し手のモダリティと照応してはじめて機能できると言えよう。このため、［是［VP］的］の構造になるのはモダリティ型の“是…的”構文である。

4. まとめ

本章の主要内容は以下のようにまとめられる。

〈1〉「のだ」の「の」は、準体句の消失とその性質を保つために要求された形式上の成分である。準体助詞の「の」のは代名詞の「の」から由来し、用言を名詞化する機能である。

〈2〉「のだ」の「だ」は「連体なり」の意味を継承している。「の」と「だ」の併用は、日本語の形態上の束縛が大きな要因になっている。

〈3〉「のだ」の成立初期の使い方は、形態上の束縛に大きく左右される。もとである準体句は、ヒト、モノ、コトガラのいずれも表せるため、「のだ」の前接成分は制限なく広い意味合いを表せる。

〈4〉“是…的”は「のだ」と異なり、形態的な束縛から由来したものではない。

〈5〉“是…的”の“的”は、代名詞から発達した前文脈との照応を示すものである。

〈6〉“是…的”の“是”は、論理性や指示の明示性を示すための成分である。そのため、“是…的”構文全体の意味が単一であり、「説明」という意味合いが強い。

「のだ」と“是…的”の相違は、膠着語と孤立語の構成の差を反映したものかもしれない。形式上似たもの同士でも、構成の違いで機能が大きく異なってくる(無論異なるばかりではなく、一部重なる可能性もある)。特に対照研究では、真相を突き止めるためには、表層形式に左右されないことを心がける必要があると考える。

本論文では「のだ」と“是…的”の相違に主眼を置いて展開してきた。“的”に関してはもっといろいろな興味深い結果が観察されている。形容詞に後接する“的”と代名詞の“的”の関係、さらに“是…的”の「“的”との関係も通時的な考察から説明できるが、残念ながら、今回の記述に置くことができなかった。“的”の各結論については今後の課題としたい。

第 9 章　「「スコープの「のだ」」」について

本論文の最後の検討項目として、「スコープの「のだ」」を取り上げたい。

「スコープの「のだ」」とは、庵(2000)で述べられるように、統語的な動機づけで使用される「のだ」のことである。それに比べ、3 章〜7 章で述べた「のだ」は、テキスト的に動機付けられた「のだ」であり、野田(1997)の「「ムードの「のだ」」」のことである。具体例でいうと、下記の(1)、(2)と(3)に対応する。

(1) 今日から大学を卒業した。明日から学生ではなくなるのだ。
(2) 幸子は悲しいから泣いたのではなく、嬉しいから泣いたのだ。
(3) 花子さんは新宿でパソコンを買ったのですか。

(1)は文の意味から分かるように、4 章で述べた「言い換え」の用法になるが、それに対し、(2)と(3)は、「のだ」がないと、意味上何かが変わるというよりは、「正しい文」を作るために必須的につけられた「のだ」である。言い換えると、「スコープの「のだ」」は、井島(2010)の述べたように、焦点の位置を明確に示すために統語的に必要とされるものであり、分裂文「前提ノハ焦点ダ」を作り変えた文とされている。例(2)でいうと、焦点とされる箇所はそれぞれ「悲しいから泣いた」と「嬉しいから泣いた」であり、「〜のではなく、〜のだ」は前者の可能性を否定し後者こそ本当に泣いた原因であることを提示している。もし「のだ」が使われなかったら、(2)の文は「幸子は悲しいから泣かなかった。嬉しいから泣いた。」になり、焦点がそれぞれ「泣かなかった」、「泣いた」だけになってしまうため、意味的に不自然な文になるのである。(3)も同様であり、「のだ」がないと、文は「花子さんは新宿でパソコンを買いましたか」になるが、この時、文の焦点は動詞の方にあるため、文全体は「パソコンを買う行為が行われたか」について問うものになる。一方、「のだ」があると、文の焦点は動詞だけから「新宿でパソコンを買う」全体に移るため、文の意味は「パソコンを買う行為は新宿で行われたのか」、もしくは「新宿で買ったのはパソコンなのか」について問うものである。このように、「スコープの「のだ」」は統語的な要因が先立っているのである。

一方、「スコープの「のだ」」は統語的な動機づけが高いものの、場合によってそれがなくても文が成り立つ場合がある。野田(1997)では「スコープの「のだ」」が免除可能な条件について次のように述べている。

> つまり、事態の成立以外の部分がフォーカスの文で、「スコープの「のだ」」が免除されるには、少なくとも三つの条件がある。まず、その成分と述語との統語的な結びつきが強いこと(従属節でないこと)、次に、何と何の対立が問題であるかが

文脈などからわかりやすいこと、そして、解釈に誤解を生じる可能性が少ないことである。

つまり、「スコープの「のだ」」は文の意味を事態の成立を問うこと以外の部分に焦点を置くときにつけるものだが、焦点が十分に明白でなる場合免除できるということである。本論文は「のだ」の性質を検討するものではないため、免除されることをあくまでも「スコープの「のだ」」の形式の可能性の言及の程度に留めたい。重要なのは、「スコープの「のだ」」に対応する中国語の形式がどうなるか、「ムードの「のだ」」と異なるか、どのような関係があるかということである。そのため、まず「スコープの「のだ」」は対応形式を考察する観点から見ると単独な類別として成り立つかを検討したい。

1.「スコープの「のだ」」の独立性

結論からいうと、「のだ」の他言語対応形式の観点から見ると、「スコープの「のだ」」と「ムードの「のだ」」の区分はそれほど必要でないと考える。野田(1997)の中も、「のだ」の他言語対応形式を英語とフランス語から考察しているが、明白にスコープとムードを分けていなかった。そして、今回の実例を見ると、下記のようにスコープの役割もあるものの、「ムードの「のだ」」にも属するような例が多く見受けられた。

(4) 樋渡「世の中、試みの９割５分は失敗しているでしょう。だからバクチをするなら、世の中の逆に張る。つまり、一見いかにもあり得ないように見える５％のほうに賭ける。そしてその可能性を全力で追求する。これが僕の思う企画。人は失敗からは学べない。成功から学ぶものなんです」

増田「それと、一緒に仕事をして思ったのは、樋渡さんは肩書きこそ市長だけれど、その心証は市長じゃないということ。市の管理人ではなくて、市民の代理人なんだな。こういう体験をしたい、こういう病院が欲しいといった、市民の心象風景の中に踏み入って、その風景の中を一緒に歩いている。だから、他の地方自治体とは自ずと違う発想が生まれ、企画が立てられる」

（『知的資本論文』）

(5) 「これは世界初のサービスですから」というセールストークの陰に、「だから多少の不便や不具合は仕方ない」という言い訳が潜んでいることは、決して少なくない。そういえば、人々に受け容れられることなく消えていった〝世界初〟の、なんと多いことか。だから私はＣＣＣの社員には「〝世界初〟を目指すのではなく、〝顧客価値最大〟を目指せ」と、繰り返し話している。〝一番〟であるべきは、どういう点なのか。それを履き違えてはいけない。

そして、勘違いの〝世界初〟は、まず間違いなく会議室で生み出される。

「事件は会議室で起きてるんじゃない！　現場で起きているんだ!!」とは、映画『踊る大捜査線 ＴＨＥ ＭＯＶＩＥ』の中で主人公の青島俊作が叫んだ名台詞だが、これは企画の世界においても至言だろう。会議室のチェアに座り、「何か目新しいことはないか」と考え始めた瞬間、そこから生まれる企画は形骸化し、生命力を失う。現場、すなわち顧客が実際にいる場所に立って、その人たちにとって本当に価値あることとは何かを考え抜くことからしか、力のある企画は生まれてはこない。

（『知的資本論文』）

(6) １時間はあっという間に過ぎ、岸本社長は最後にこう締めくくった。
「従業員に辞められるのは、社長にとって自分の人格を否定されるようでとてもつらい。どうすれば辞めないのか。苦しんだ末に気づいたのは、以前の私は従業員を感情的に叱りつけていたという事実でした。『なんでこんなことができないんだ！』『何度同じことを言わせるんだ！』と。それではいけないのです。先輩が後輩の面倒を見る文化をもっとつくらなければならないと、痛切に感じている。皆さんもどんどん飲みに誘って、若手の相談に乗ってあげてほしい。そうした経費は会社で出しますから」

（『稲盛流コンパ』）

(7) ある部下は、海外の商談で金額の提示を迫られたときに、その場で「七〇〇〇万ドル」と言えばローターの注文が取れたところを、「東京へ持ち帰ります」と言ったがために失注したこともありました。結局、競合していた他社が七二〇〇万ドルで受注したので、約七二億円の失注でした。
　このときは「なんで金額をその場で言わなかったんだ！」と、かなりキツク叱ったことを覚えています。大事な瞬間に行動しないのは、責任を取る覚悟がないからでしょう。現場に出向いているときは、その人が会社の代表であり、ラストマンであるべきだと私は考えていますから、本来なら自分の判断で答えを出さなければならないのです。だから、「お前はすごく大事な瞬間を逃したんだぞ」と理解してもらうためにも、きちんと叱らなければなりません。

（『ザ・ラストマン』）

この４つの例は、事態の成立以外の要素を問う疑問文の形、もしくは「～のではなく、～のだ」の形になっているため、原則的に「スコープの「のだ」」の属するのであるが、文末の「！」から分かるように、意味的には何かしらの強い感情が込められている。つまり、スコープ以外にも、ムード的な意味があると判断できるのである。そして、本論文における各「ムードの「のだ」」の定義によると、少なくとも、(4)と(5)は「言い換え」、(6)と(7)は

強い質問攻めの感情が含まれているため「命令・認識強要」の「のだ」に分類できると考える。特に(6)と(7)のような「のだ」は、平叙文の形を取っているものの、実質的には「のか」の疑問文と同義であるため、「スコープの「のだ」」の典型的な形式なのである。つまり、対応形式を考察する意味でいうと、「スコープの「のだ」」は「ムードの「のだ」」に含まれるため、両者を分けて考察する必要がないのではないかと考える。

しかし、そうであるとは言え、「スコープの「のだ」」は「ムードの「のだ」」に含まれているため、対応形式もその中にあると考えられるが、スコープに分類できる「のだ」と分類できない「のだ」の間に対訳の差があるかやはり気になるものではある。従って、「スコープの「のだ」」の対応形式の全体像の見るため、本章では「～のではなく、～のだ」と実質的に「のか」と見做せる「のだ」の対応形式を再び選出し、規則のありかを考える。

2.「～のではない、～のだ」の対応形式

まず、各調査作品における「～のではなく、～のだ(んだ)」の概況は表1のようになる。「～のではなく、～のだ(んだ)」は前後を対比する1つのセットになっているため、考察はこのセット全体がどのように訳されているかにする。

表1 「～のではなく、～のだ(んだ)」の「のだ」の中国語の対訳の概要(日本語が原作)

作品名	「～のではなく、～のだ(んだ)」の対訳の数		
	総数	対訳あり	対訳なし
アメーバ経営	0	0	0
マイナス思考	0	0	0
稲盛流コンパ	2	2(100%)	0
我がセブン秘録	1	0	1(100%)
「やめる」習慣	0	0	0
知的資本論文	8	4(50.0%)	4(50.0%)
ザ・ラストマン	6	1(16.7%)	5(83.3%)
生き方	1	0	1(100%)
総計	18	7(38.9%)	11(61.1%)

表 2 「～のではなく、～のだ(んだ)」の「のだ」の中国語の対訳の概要(中国語が原作)

作品名	「～のではなく、～のだ(んだ)」の対訳の数		
	総数	対訳あり	対訳なし
参与感	5	2(40.0%)	3(60.0%)
新零售	5	1(20.0%)	4(80.0%)
腾讯传	4	1(25.0%)	3(75.0%)
蚂蚁金服-独角兽	4	2(50.0%)	2(50.0%)
蚂蚁金服	3	3(100%)	0
総計	21	9(42.9%)	12(57.1%)

表 1、2 の結果から分かったことは、まず、いずれの作品においても「～のではなく、～のだ」の「のだ」は数的にそれほど多くなかったことがある。そして対訳形式の数は、「ムードの「のだ」」とそれほど変わらず、全体の 1 割くらいを占めることである。ここからも分かるように、「のだ」が言語形式として訳される数は全体の 1 割くらいであることは「のだ」の種類を問わずに全体的に安定しているのである。

次は対応形式の内訳を見てみよう。興味深いことに、「～のではなく、～のだ」の対応形式はスッキリとしているのである。

表 3 「～のではなく、～のだ(んだ)」の「のだ」の中国語対応形式の内訳(日本語が原作)

作品名	「～のではなく、～のだ」の対訳の内訳					
	S1	S2	S3	S4	S5	**総計**
アメーバ経営	0	0	0	0	0	0
マイナス思考	0	0	0	0	0	0
稲盛流コンパ	2(100%)	0	0	0	0	2(100%)
我がセブン秘録	0	0	0	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0	0	0	0
知的資本論文	0	0	2(50%)	1(25%)	1(25%)	4(100%)
ザ・ラストマン	0	1(100%)	0	0	0	1(100%)
生き方	0	0	0	0	0	0
総計	2(28.6%)	1(14.3%)	2(28.6%)	1(14.3%)	1(14.3%)	7(100%)

表 4 「～のではなく、～のだ(んだ)」の「のだ」の中国語対応形式の内訳(中国語が原作)

作品名	「～のではなく、～のだ」の対訳の内訳					
	S1	S2	S3	S4	S5	総計
参与感	1(50.0%)	0	1(50.0%)	0	0	2(100%)
新零售	1(100%)	0	0	0	0	1(100%)
腾讯传	0	0	1(100%)	0	0	1(100%)
蚂蚁金服-独角兽	0	0	2(100%)	0	0	2(100%)
蚂蚁金服	0	0	3(100%)	0	0	3(100%)
総計	2(22.2%)	0	7(77.8%)	0	0	9(100%)

S1:不是～是～
S2:并非～而是～
S3:不是～而是
S4:没有～而是
S5:不～而是

(8) これをよく理解していない人は少なくありません。社長は到達点ではなく、出発点なのです。

(『ザ・ラストマン』)

很多人都没搞清楚一点，那就是社长并非终点，而是起点。

(9) 京セラではコンパはもちろん、すべての催しで全員参加を求めてきた。稲盛氏はこう語る。「(前略)従業員みんなが参加できるような場をつくろうと、コンパをする、運動会をする、社員旅行をする、慰労会をするといったような懇親の場づくりに気を配ってきました。ところがそのような催しをすると、必ずといっていいほど『若い連中と一緒になってドンチャン騒ぎをするのは面白くない』というような人が出てきます。しかし私は『どのような催しであれ、全員参加でなければ意味がない、ただの遊びで集まってくれと言っているのではなく、一緒にそういう雰囲気を味わうことが大事なのだ』と言って、すべての催しは『全員参加』を鉄則としました」

(『稲盛流コンパ』)

在京瓷，空巴自然不必说，所有的活动都要求全体成员参加。稻盛先生这样说道："……为了创造机会，让所有员工都能参与，我花费心思举办空巴、运动会、公司旅行、慰问会等，创造能真心交流的场合。然而，每当要举办这些活动

的时候，必定有人说：‘跟年轻人在一起，吵吵闹闹的，太无聊了。’可这时我说：‘任何活动如果不是全员参加就没有意义。现在把你们集合在一起，并不是叫你们来玩耍，更重要的是让你们一起来感受这种气氛。’把‘全员参加’作为举办所有活动的铁则。”

(10) 増田「それと、一緒に仕事をして思ったのは、樋渡さんは肩書きこそ市長だけれど、その心証は市長じゃないということ。市の管理人ではなくて、市民の代理人なんだな。こういう体験をしたい、こういう病院が欲しいといった、市民の心象風景の中に踏み入って、その風景の中を一緒に歩いている。だから、他の地方自治体とは自ずと違う発想が生まれ、企画が立てられる」

（『知的資本論文』）

増田：另外，一块儿工作之后我感觉，樋渡先生虽然顶着市长的头衔，但给人的印象却不像一个市长。他没有把自己当作城市的管理者，而是当作市民的代理人。他会设身处地地思考市民希望得到怎样的体验，想要什么样的医院，等等。所以，他的想法和策划自然与别处不同。

(11) 「これは世界初のサービスですから」というセールストークの陰に、「だから多少の不便や不具合は仕方ない」という言い訳が潜んでいることは、決して少なくない。そういえば、人々に受け容れられることなく消えていった〝世界初〟の、なんと多いことか。だから私はＣＣＣの社員には「〝世界初〟を目指すのではなく、〝顧客価値最大〟を目指せ」と、繰り返し話している。〝一番〟であるべきは、どういう点なのか。それを履き違えてはいけない。

そして、勘違いの〝世界初〟は、まず間違いなく会議室で生み出される。「事件は会議室で起きてるんじゃない！　現場で起きているんだ!!」とは、映画『踊る大捜査線 THE MOVIE』の中で主人公の青島俊作が叫んだ名台詞だが、これは企画の世界においても至言だろう。会議室のチェアに座り、「何か目新しいことはないか」と考え始めた瞬間、そこから生まれる企画は形骸化し、生命力を失う。現場、すなわち顧客が実際にいる場所に立って、その人たちにとって本当に価値あることとは何かを考え抜くことからしか、力のある企画は生まれてはこない。

（『知的資本論文』）

很多时候，“这是世界首次的产品”这句营销语的背后，是这样一句潜台词：“多少有些不便或者出现问题是难免的。”

说起来，没有被人们所接受而最终消失的“世界首次”何其多啊。所以，我反复跟 CCC 的员工讲：“我们的目标不是创造‘世界首次’，而是实现‘顾客价值’。”应该把什么排在第一位，绝对不能搞错。

而那些自以为是的“世界首次”，毫无疑问都是在会议室里诞生的。

“案件不会发生在会议室里，而是发生在现场！！”这是电影《跳跃大搜查线电影版》里的主人公青岛俊作喊出的台词，放到策划的世界里也是至理名言。坐在会议室的椅子上，开始思考“有没有令人耳目一新的东西”那一瞬间，就注定由此产生的策划只是空壳而没有生命力。只有去现场，站在顾客实际所在的地方，深入思考对这些人而言真正的价值是什么，才能产生有力量的策划。

(12) 又比如摇滚，上世纪 70 年代后，在欧美已渐成主流，而在中国，十年、二十年前听摇滚的时候，大家都觉得很另类，但今天的摇滚成为了一种精神，被广为接受。如果进行比较甚至会发现，今天流行 POP 音乐中的很多摇滚元素激烈程度甚至超过了上世纪 80 年代的经典硬摇滚。其间发生了什么？其实，“不是老人变坏，是坏人变老”。当初那帮听摇滚的人掌握了今天的话语权，成为了社会主流。摇滚当初也是亚文化，但是摇滚精神已经得到更多人的认可。

（《参与感》）

たとえば、ロックンロール。1970 年代以降、ロックは欧米のメインストリームとなった。数十年前、ロックが中国に入ってきた頃は、別世界の音楽という印象を受けたものだが、今では一種のスタイルとして広く受け入れられている。むしろ、現在流行しているポップミュージックの「ロック度」は、1980 年代の正統なハードロックを上回ると言ってもいいほどだ。この間、一体何が起きたのか。「年寄りが悪人になったのではない。悪人がみんな歳を取ったのだ」という言葉があるが、まさにそれだ。当時、ロックを聴いていた世代が成長して発言権を握り、社会を動かすようになっている。ロックも当時はサブカルチャーだったが、その精神は今や広く認められている。

「のだ」と“是”系の対応関係は、王(1997)など、先行研究の中に散見するが、今までの考察は「のだ」を本論文のように細かく分類して考察したわけでなかったため、研究の考察対象の範囲によって、「のだ」と“是”系は時には対応するが、時にも対応しないような結果になっている。今回の考察は分類問題を解決しているため、結果がはっきり見えるようになったのではないかと考えている。その中で、最も明白な考察結果の一つとして、「～のではなく、～のだ」のような、いわゆる典型的な「スコープの「のだ」」は“是”系と対応し、“是”系のみと対応するという結果が見えているのである。このことは、多くの研究で述べられている“是”の「指示範囲を明確にする」機能を、「スコープ」の機能と繋げた結果になっており、逆にいうと、両者の対応妥当性の裏付けにもなっているのである。

3.実質的に「のか」の「のだ」の対応形式

9.2の結果と異なり、実質的に「のか」の「のだ」は、対応形式は相対的に少ない。理由としてはまず、典型的な書きことばには特定の聞き手を対象とする疑問文が現れることは（ほとんど）ないため、疑問のスコープを広げるために要請される「の（か）」が使われる可能性が(ほとんど)ないことがあり、そしてこのような「のだ」は、もとの疑問文の形式と融合されやすいため、「のだ」の部分だけに対応する形式、」もしくは「のだ」がないとこの形式はこの文の中では使われないような形式がなかなかないからである。具体例でいうと、次の例(13)のようである。

(13)　如果我们想了解年轻用户看电影的喜好，跑到电影院去调研他们的习惯就显然有问题。所以我们得找对现场。什么样的年轻人现场最有观察价值，人群兴趣趋向最一目了然呢？答案是充分展示他们兴趣和表达方式喜好的亚文化群体社区。早期说来，这类社区有猫扑、贴吧和豆瓣兴趣小组等，而最近几年新晋蹿红的则有表达方式更丰富、更直观的弹幕视频网站和暴走漫画等。“B 站”是当下最流行的弹幕式视频分享网站，我第一次看到视频上叠加的评论满屏纷飞，真是震惊了。面对每一分每一秒都是铺天盖地的文字，我的第一反应是，这里面的视频怎么看呢？但我的同事说看得挺过瘾的，于是我强迫自己看了 15 分钟，结果眼睛还是花的。

（《参与感》）

若者が好きな映画を知るのに、映画館で調査しても意味がない。正しい現場がどこかを知ることが大事なのだ。若者たちの趣味嗜好が一目でわかる最も観察価値のある現場とは、どこなのか。彼らの興味の対象や、好まれる表現スタイルがすべて展示されているのが、サブカルチャーのネットコミュニティだ。古くは「猫撲マオプー」「百度貼」「豆ドウ瓣バン」といったＳＮＳ内のテーマ別コミュニティに始まり、最近人気が急上昇しているものには、よりコンテンツが豊富で直感的に楽しめる動画共有サイトやレイジコミック〔訳注：ネット上で流行している４コマ程度の短いユーモアコミック。人の表情や動きを単純化した線画のフォーマットがあり、投稿者はそれをコラ素材として使う〕などがある。「Ｂ站ジャン」の愛称で呼ばれる動画共有サイト「Bilibili」は現在最も流行している動画共有サイトだ。画面上に無数のコメントが流れていく様子を初めて見たときは、驚きで体が震えた。途切れることなく画面いっぱいに現れる文字を見て、最初に思ったことは「これでどうやって動画を見るんだ？」ということ。同僚に「ずっと見ているとやみつきになる」と言われ、無理して15分間見続けたが、案の定、目がチカチカしてきた。

下線部の「のだ」と同じ位置にあり、もし対応すると考えるとしたら対応形式とされるべきなのは同じ下線部の“呢”のはずである。しかし、“呢”はもともと普通の疑問文にも使われ、特にスコープを標記するものでもないため、本論文ではこのようなものを「のだ」の対応形式としていない。この基準に従った結果、実質的に「のか」の「のだ」の対応形式として捉えられるものをまとめると以下のようになる。

表５　実質的に「のか」の「のだ」の中国語の対訳の概要(日本語が原作)

作品名	実質的に「のか」の「のだ」の対訳の数		
	総数	対訳あり	対訳なし
アメーバ経営	1	0	1(100%)
マイナス思考	1	0	1(100%)
稲盛流コンパ	6	2(33.3%)	4(66.7%)
我がセブン秘録	0	0	0
「やめる」習慣	0	0	0
知的資本論文	0	0	0
ザ・ラストマン	6	0	6(100%)
生き方	0	0	0
総計	14	2(14.3%)	12(85.7%)

表６　実質的に「のか」の「のだ」の中国語の対訳の概要(中国語が原作)

作品名	実質的に「のか」の「のだ」の対訳の数		
	総数	対訳あり	対訳なし
参与感	2	0	2(100%)
新零售	0	0	0
腾讯传	0	0	0
蚂蚁金服-独角兽	1	0	1(100%)
蚂蚁金服	0	0	0
総計	3	0	3(100%)

実例は次のようである。

(14)　１時間はあっという間に過ぎ、岸本社長は最後にこう締めくくった。

「従業員に辞められるのは、社長にとって自分の人格を否定されるようでとてもつらい。どうすれば辞めないのか。苦しんだ末に気づいたのは、以前の私は従業員を感情的に叱りつけていたという事実でした。『なんでこんなことができないんだ！』『何度同じことを言わせるんだ！』と。それではいけないのです。先輩が後輩の面倒を見る文化をもっとつくらなければならないと、痛切に感じている。皆さんもどんどん飲みに誘って、若手の相談に乗ってあげてほしい。そうした経費は会社で出しますから」

（『稲盛流コンパ』）

1 小时转瞬即逝，岸本社长最后总结道："员工辞职对社长而言，就如同自己的人格遭到否定，十分痛苦。怎么做员工才不会辞职？在痛苦之后才发现，过去的我在批评员工时带着情绪。'为什么连这样的事也不会做''你到底让我再讲几次'，这是不对的。我深切地感受到我们必须建立牢固的以老带新的文化。大家也要不断请年轻员工喝酒，成为他们的倾诉对象。这些经费由公司承担。"

(15) 外川は仕事の後、まず店内でミーティングを開いて議論をある程度活発にしてから、そのままの流れで「続きは居酒屋で話そうよ」と促し、コンパへの参加率を高めた。

男性幹部の意識も変わった。岩本の長男で、甲府エリアの店舗の総責任者を務める岩本篤しげもコンパの意義を実感している。以前は、子供の学校行事などがあって休暇を取るパートに対して、「忙しいときにどうして休むんだ」と不満を持つことが正直あったという。しかし、コンパを通じてパートとコミュニケーションを深める中で、その認識を改めた。

（『稲盛流コンパ』）

外川在工作后，首先在店内召开会议，通过讨论活跃气氛，然后借着会议的势头，推动大家到居酒屋继续讨论，以此提升空巴的出席率。

男性干部的想法也发生了变化。岩本的长子、甲府区店铺的总负责人岩本笃也对空巴的意义有切身体会。过去，对那些因为孩子在学校有活动而请假的临时工，岩本笃其实抱有不满，认为"工作正忙的时候，怎么能请假呢？"然而，通过空巴，在与临时工加强沟通的过程中，他的认识转变了。

この実例を見るとおそらく次のような疑問が湧いてくるのではないか。1 つ目は、これは参考になる対応形式であろうか、2 つ目は、これは「スコープの「のだ」」であろうかということである。1 つ目の疑問を解決するためには 2 つ目の疑問をまずはっきりする必要があるが、形式的には実質上の「のか」の意味を取っているのと、「何度同じことを言わせるんだ」にしても「忙しいときにどうして休むんだ」にしても、命題の内容そのものを聞いているわけではないため、「スコープの「のだ」」の条件に合っているはずである。しかし、こ

れらは完全にムードの成分がないかと言われるとそうでもなく、相手を難詰する感情があると思われる。つまり、第２章と本章の冒頭でも述べたように、「スコープの「のだ」」と「ムードの「のだ」」は完全に独立しているわけではないことの例である。そうすると、１つ目の疑問に戻ると、この２文の中国語訳は、「のだ」のスコープの機能に偏って訳されたのか、もしくはムードの部分に偏っているのかの疑問に言い換えられる。そして結論をいうと後者なのではないかと考える。つまり、相手への難詰の感情を出すためにあえて使った訳し方である。要するに、スコープの「のか」(「のだ」)の参考的な訳し方ではないというのが結論である。

上述したことをまとめると、実質的に「のか」の「のだ」は、中国語では一般疑問の形式と融合されやすいことに加え、完全にムードの成分を排除するできないことがあるため、明確な対応形式は見つからなかったのである。

4. 本章のまとめ

本章の内容をまとめると次のようになる。

「スコープの「のだ」」は「ムードの「のだ」」と完全に独立するわけではない。そのため、対応形式を考察する観点から考えると、「のだ」をスコープとムードにあえて分ける必要は必ずしもない。

しかし、「スコープの「のだ」」の中には、「～のではなく、～のだ」と実質的に「のか」を意味する「のだ」という統語的にスコープの特徴がはっきりしている「のだ」がある。その２つの対応形式に規則があるかというと、「～のではなく、～のだ」の方は、今回の調査結果では、中国語の中で指示範囲を明示する“是”、そして「～のではなく、～のだ」の直訳“不是～，而是～”が唯一の対応形式になっている。これは、「～のではなく、～のだ」のスコープ性の強いさを反映した結果とも考えられる。一方、実質的に「のか」の「のだ」は、中国語の対訳では通常の疑問文の形式と融合されやすいのと同時に、「～のではなく、～のだ」よりムード性が高い場合が多いため、スコープの機能だけを表す対応形式は見つからなかった。

第 10 章　本論文のまとめと今後の課題

1. 本論文のまとめ

本論文では日本語と中国語のビジネス、自己啓発類の書籍を用いて、文章における「のだ」の対応形式を考察した。考察の目的は、文脈参照ができる環境の中で日常の言葉の表し方に近い(本論文では「自然な言い方」と呼んでいる)言葉の使い方において、日本語の「のだ」が中国語とどのように対応しているか、その実態を考察することである。

結論としては、「のだ」の機能の違いによって対応形式と種類も異なってくるということで、今まではっきりと分からなかった対応形式と系統が明白に見えてきた。これも、本論文で最も提示したい結果であり、対応形式の系統と規則性が見えたことで、理解が難しいとされている「のだ」を中国語母語の感覚で少しでも理解できたら幸いである。

本論文の考察結果は次のようにまとめられる。

1.1 各機能の「のだ」の対応形式ありかの状況

まず、各機能の「のだ」が中国語の言語形式として訳されるかどうかの結果は表 1 のようになる。

表 1　「のだ」の中国語の対応する状況の概要

「のだ」の機能	原作言語	「のだ」の総数	対訳ありの数		対訳なしの数	
理由・解釈	日	556	34	6.1%	522	93.9%
	中	316	17	5.4%	299	94.6%
言い換え	日	572	5	0.9%	567	99.1%
	中	298	22	7.4%	276	92.6%
発見・再認識	日	20	6	25.0%	14	75.0%
	中	1	0	0.0%	1	100.0%
前触れ・先置き	日	21	1	4.8%	20	95.2%
	中	3	0	0.0%	3	100.0%
命令・認識強要	日	43	4	9.3%	39	90.7%
	中	28	9	32.1%	19	67.9%
平均割合	日	-	-	9.2%	-	90.7%
	中	-	-	9.0%	-	91.0%

*割合は総数における割合である。

機能ごとに見ても、対応ありの言語形式の割合は、原作の言語と関係なく、1割ほどしかないものがほとんどである。これは、第2章で考察した「理由・解釈」、「言い換え」、「発見・再認識」、「命令・認識強要」のロジックが中国語の中で言語化される割合と大して変わらない。このことはつまり、「のだ」は特に他の言語形式より特殊であるわけではないことを示している。

そして全ての機能の対応割合の平均を見ると、対応形式ありの数は 9.0%であり、対応形式なしのは91.0%である。先行研究、そして今回の比較的に全面的な調査を通して得られた結果として、学術系文章だけではなく、ビジネス新書のような書き言葉においても、「のだ」が言語形式として中国語に訳される割合は1割ほどしかないことが明確になったのである。

1.2 各機能の「のだ」の対応形式一覧

次は個々の詳細について結論を見る。

表 2　各機能の「のだ」の対応形式詳細のまとめ

機能	原作言語	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	総計
理由・解釈	日	23	1	1	2	6	0	0	0	0	0	1	34
		67.6%	2.9%	2.9%	5.9%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	100.0%
	中	8	0	0	1	1	7	0	0	0	0	0	17
		47.1%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	41.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
言い換え	日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	5
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	100.0%
	中	0	0	0	0	0	18	2	0	0	0	2	22
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.8%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	100.0%
発見・再認識	日	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
前触れ・先置き	日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
命令・認識強要	日	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	4
		0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	100.0%
	中	0	0	0	0	0	5	0	0	3	1	0	9
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%
総計	日	23	1	1	4	6	0	2	6	2	0	5	50
		46.0%	2.0%	2.0%	8.0%	12.0%	0.0%	4.0%	12.0%	4.0%	0.0%	10.0%	100.0%
	中	8	0	0	1	1	30	2	0	3	1	2	48
		16.7%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	62.5%	4.2%	0.0%	6.3%	2.1%	4.2%	100.0%

*割合は横軸の総計における割合である。

a:原因・理由系

b:「のため」系

c:順接系

d:“是/是…”的系

e:推測系

f:記号系

g:言い換え系
h:発見用語系
i:モダリティ助詞・副詞系
j:“就”系
k:その他

機能ごとの「のだ」の対訳状況をまとめると次にようになる。

「理由・解釈」の「のだ」：最も対応する言語形式は、中国語の中でも「理由・解釈」の論理を表す「原因・理由」系の用語である。その中でも、最もよく訳されているのは“因为(～なので、～だから)”、“因此(これによって、そのために、それゆえ、そこで、従って)”と“所以(だから、ゆえに、従って)”であり、この3つの他に、“因为”、“因此”の類似語、“由于(これは～だから)”、そして文脈構造を考慮した複合的な言い方“正因为(～だからこそ)”、“原因在于(原因は～にある)”、“正因为(だからこそ)”、“这缘于(これは～のせいだ)”、“所以说(だから、ゆえに、従って)”がある。

「言い換え」の「のだ」：最も対応する言語形式は、中国語の中でも「言い換え」の論理を表す用語である。具体的には“就是(つまり)”、“也就是说(つまり)”、“意思是(これは～を意味する)”、“总之(とにかく、要するに)”がある。

「発見・再認識」の「のだ」：対応する言語形式は中国語の中でも「発見」を表す用語であり、具体的には“原来…啊(～だったのか)”、“原来(～だったのか)”、“竟然(まさか～だったのか)”、“看来(～から見ると～だったのだ)”がある。そして今回の調査では、「発見・再認識」の「のだ」が「発見」以外の用語に訳されることはなかった。

「先触れ・前置き」の「のだ」：「先触れ・前置き」は発話機能の一種ではあるが、中国語ではこの機能を実現するためには個別の用語を使うというより、慣用的言い方や文全体の位置による場合が多い。そのため、「先触れ・前置き」の「のだ」が対応する用語を考察するのは難しい。その中、わずかではなるが、慣用的言い方に近い機能を持つ“不是…的”構文が対応形式として訳されるのが観察された。一方、「先触れ・前置き」の「のだ」は根本的な論理からいうと、「理由・解釈」の「のだ」の前後文の順番を逆にしてできたものであるため、理論上「理由・解釈」の「のだ」のすべての対応形式にも対応するはずである。しかし、文脈の前後参照や用語の習慣的な使い方などの要因があるため、すべて対応するかどうかは疑問である。従って、「先触れ・前置き」の「のだ」の理論上の対応形式を探すため、「理由・解釈」の「のだ」の全ての対応形式を文に入れ込み、そして文の順番を逆にして自然さを見る検証を行なった。検証した結果、理論上「先触れ・前置き」の「のだ」に対応する形式は、“不是…的”構文以外にもこれらの形式があると考える。

【“就”系】

就是(～でないならそれまでだ、こそ、するやいなや)

这就是(これこそが～だ、これは～だ)

就这样(こうして)
【“是/是…的”系】
是(～だ)
是/是…的(～だ/～のだ)
不过是(～に過ぎない)
这是(これは～)
那是(それ/あれは～)
一定是(きっと～)
【推測系】
我认为(～だと思う)
据说(～だと言われている)

「命令・認識強要」の「のだ」:最も訳された形式は「モダリティ助詞・副詞」系と「記号」系である。「モダリティ助詞・副詞」系の用語には、“居然(まさか～だ)”、“真(本当に～なのだ)”、“啊(～のだ)”、“绝对(絶対)”、“一定(絶対、必ず)”があり、「のだ」と同じように命令や強い勧誘を表す用語である。「記号」系には中国語の中で強い気持ちを表す“！”があり、「命令・認識強要」の本質をうまく反映している形式である。

もう一つ結論として観察されたことは、“是/是…的”構文が「のだ」の対応形式としてそれほど頻度が高く出ていないことである。このことは、先行研究の盲点を反映しており、つまり「のだ」の対応形式に、“是/是…的”構文以外にも注目すべき形式が他に存在することを反映しているのである。

2. 今後の課題

本論文では実際の書籍からデータを取り、「のだ」に対応する中国語の言語形式の実態、各形式が訳される割合を具体的に見てきた。この考察を通して、「のだ」に対応する中国語の全体的な状況が大分明らかになってきたと思われる。しかし、本論文の考察ではまだ明らかにしていない問題点もある。

1つ目は、たくさんの形式を羅列したものの、それらの形式はどのように区別されるのか、どのような場合にどれを使うのか、つまり個々の形式の使用条件が考察されていない。

2つ目は、本論文の考察では、「「のだ」→形式X」という順番で対応性を見てきたものの、結論の中の形式は「「のだ」←形式X」、つまり必ず「のだ」に訳されるのか、もしそうでない場合、「のだ」と対応するにはどのような条件が必要なのかについて考察していない。

要するに今回の考察は、ただ「のだ」が対応する中国語形式の可能性について広く考察しただけで、「〇〇の「のだ」と言えば対訳はこれだ」という水準にはまだ達していない。

これらの課題を今後の目標にしたい。

引用文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

庵功雄(2000)「教育文法に関する覚書―「スコープ」の「のだ」を例として」『一橋大学留学生センター紀要』3、一橋大学

庵功雄(2021)「基本文型としての「のだ」文:「「のだ」の教え方」再考を含めて」『言語文化』58, 一橋大学

石黒圭(2008)『文章は接続詞で決まる』光文社新書

石垣謙二(1955)『助詞の歴史的研究』岩波書店

井島正博(2010)「ノダ文の機能と構造」『日本語学論集』6

井上優(2003)「「のだ」文と“的”構文」,『中国語学』250

今村和宏(1996) 「論述文における「のだ」文のさじ加減―上級日本語学習者に文の調子を伝える試み」『言語文化』33, 一橋大学

王亜新(1997)「日本語の「のだ」と中国語の「是…(的)」について」『東洋大学紀要・教養課程篇』36、東洋大学

王雪竹(2017)「「のだ」と“是…的”再考―成り立ちの異なりを探る―」『日中言語対照研究論集』19, 白帝社

大塚容子(1999)「テレビ討論における前置き表現―「ポライトネス」の観点から」『岐阜聖徳学院大学紀要・教育学部・外国語学部』通巻 37 号、岐阜聖徳学院大学

大野文 (1997) 「「たしかに」と「なるほど」」『日本語・日本文化研究』7、大阪外国語大学

奥田靖雄(1990)「説明(その 1)―のだ、のである、のです―」言語学研究会編『ことばの科学 4』、むぎ書房

小野正樹(2010)「日本語の命令形について―日本語学習者の習得と意識―」『国際日本研究』3

北原泰雄(2014)『日本語の助動詞―二つの「なり」の物語』大修館

木村英樹(1997)「‘変化’和‘动作’」『橋本萬太郎記念中国語学論集』内山書店

木村英樹(2002)「“的”の機能拡張―事物限定から動作限定へ」『現代中国語研究 4』朋友書店

君村千尋(2017)「日本語学習者の「のだ」文について：中国語母語話者の「のだ」の解釈を中心に(第 2 部 コミュニケーションから見た日本語文法)」『日本語コミュニケーション研究論集』日本語コミュニケーション研究会

国広哲弥(1985)「「のだ」の意味素覚書」『東京大学言語学論集 ' 84』東京大学文学部言語学研究室

国広哲弥(1992)「『のだ』から『のに』・『ので』へ―『の』の共通性」カッケンブッシュ寛子他編『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会

久野暲 (1973)『日本文法研究』大修館書店

国立国語研究所(1951)『国立国語研究報告 3　現代語の助詞・助動詞―用法と実例―』秀英出版
近藤泰弘(1986)「＜結び＞の用言の構文的性格」『日本語学』5(2)
牛晶(2016)「日本語と中国語の前置き表現に関する一考察―話題転換を中心に―」『日本語コミュニケーション研究論集』6
佐治圭三(1991)『日本語の文法の研究』(「『のだ』の本質」(1981)再録)ひつじ書房
佐治圭三(1997)「『～のだ』の中心的性質」『京都外国語大学研究論業』L、京都外国語大学
信太知子(1987)「『天草本平家物語』における連体形準体法 について―『覚一本』との比較を中心に消滅過程の 検討など―」,『近代語研究 7』(吉田澄夫博士頌寿記念論文集)
杉村博文(1980)「「の」「のだ」と「的」「是……的」」,『大阪外国語大学学報』49、大阪外国語大学
杉村博文(1982)「「是……的」―中国語の「のだ」の文」『講座日本語学 12：外国語との対照研究Ⅲ』明治書院
杉村博文(1982)「“的”前移せよ」,『中国語学・文学論集』東方書店
田上稔(1999)「準体助詞「の」について」,『女子大国文』126
田野村忠温(1990)『現代日本語の文法Ⅰ―『のだ』の意味と用法―』和泉書院
田原芳起(1970)「いわゆる準体助詞に関する史的考察―現代方言の多様性に及ぶ―」『大阪女子樟蔭大学論集』8、大阪樟蔭女子大学
陳臻渝(2007)「日本語会話における前置き表現―配慮の表現方法によって―」『言語文化学研究言語情報編』2
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
中山崇(1950)「準体助詞「の」の通時的研究―特に活用言につく場合について」『日本文学教室』8、蒼明社
名嶋義直(2007)『ノダの意味・機能―関連性理論の観点から』くろしお出版
新田小雨子(2013)『因果関係を表す接続表現の日中対照研究』駿河台出版社
日本語文法学会(2014)『日本語文法事典』大修館
野田春美(1997)『「の(だ)」の機能』くろしお出版
林大(1964)「ダとナノダ」時枝誠記・遠藤嘉基監修　森岡健二他編『講座日本語 6　口語文法の問題点』明治書院
益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
松岡弘(1987)「「のだ」の文・「わけだ」の文に関する一考察」『言語文化』24、一橋大学
三浦つとむ(1975)『日本語の文法』勁草書房
三上章(1953)『現代語法序説』刀江書院(復刊：くろしお出版 1972)
三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
村上嘉英(2003)「中国語における命令表現の形式について」『中国文化研究』20

望月八十吉(1977)「中国語の名詞化」『人文研究』29(7)
森川正博 (2013)「命令文末の要素とそのカテゴリ」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』44、名古屋外国語大学
山内洋一郎(1963)「奈良時代の連体終止形」『国文学攷』30
山口堯二(1992)「準体法の推移と準体助詞「ノ」の形成」『大阪大学教養部研究集録』41、大阪大学
山口佳也(2011)『「のだ」の文とその仲間　文構造に即して考える』三省堂
山田孝雄(1908)『日本文法論』宝文館
柳田征司(1993)「無名詞体言句から準体助詞体言句(白く咲けるを)から「白く咲いているのを」への変化」『愛媛大学教育学部紀要第Ⅱ部人文・社会科学』25(2)、愛媛大学
柳田直美(2014) 「議論の場における「他者発言容認の前置き表現」使用の縦断的変化―中国人日本語学習者の場合―」『一橋大学国際教育センター紀要』5、一橋大学
幸松英恵(2012)「ノダ」文による《説明の構造》」東京大学博士論文
幸松英恵(2016)「「発見のノダ」について」『学習院大学国際研究教育研究年報』2、学習院大学
横田隆志(2007)「日本語教育における「命令文」についての一考察」『北陸大学紀要』31、北陸大学
吉川泰雄(1950)「形式名詞「の」の成立」『日本文学教室』9(3)
吉田茂晃(1988)「ノダ形式の構造と表現効果」『国文論業』15
劉洋(2012)「論述文における“(是)…的”構文と「ノダ」文の機能」『一橋日本語教育研究』１、一橋大学

曹广顺(1995)《近代汉语助词》语文出版社
陈臻渝(2012)“论日语会话中的前置语列策略――运用礼貌理论的研究” 西南农业大学学报
董秀芳(2004)“是”的进一步语法化：由虚词到词内成分，《当代语言学》6(1)
方清明(2012)“再论 “真”与“真的”的语法意义与语用功能”《汉语学习》2012 年第 5 期
李成军(2005)“副词“一定”略说”《理论月刊》Vol.5
韩晓云(2014)“浅析语气副词“敢情”“《牡丹江师范学院学报》2014 年第 4 期
廖秋忠(1986)《现代汉语篇章中的连接成分》中国语文 6
劉林(2012)“副词 “就 ”的语义内容与语法化途径”《语言研究集刊》
吕叔湘(1943)<论底地之辩及底字的来源>，《汉语语法论集》所收，辽宁教育出版社，辽宁
吕雪亚(2017)“日语「必ず」和汉语“一定”的对照研究”辽宁师范大学硕士学位论文
孙利萍・方清明(2011)「汉语话语标记的类型及功能研究综观」『汉语学习』6
王慧鑫(2010)“日语会话中的前置表达研究”黑竜江大学東語学院修士学位請求論文
王宏(1987)《「のだ」句与“是…的”句对应吗？》《日语学習与研究》第 41 号
王晓平(2009a)““看来”及其相关格式的研究”上海师范大学学士学位论文

王晓平(2009b)“现代汉语插入语“看来”的语用功能分析”《现代语文(语言研究)》
王秋艳(2009)“谈谈“居然””《现代语文(语言研究)》
谢子文(2012)““竟然、居然”语法化研究” 广西师范大学硕士学位论文
颜红菊(2010)“副词“真”的主观性分析”《湖南科技大学学报 (社会科学版)》Vol.13
杨璐(2019)“评注类语气副词“敢情”与“合着”研究”天津外国语大学硕士研究生学位论文
楊天明(2011)《现代汉语换言类话语标记研究》辽宁大学硕士学位论文
袁影(2003)“论标点符号的修辞作用”《四川外语学院学报》第 19 卷第 2 期
张斌主编(2001)《现在汉语虚词辞典》商务印书馆
張敏(2003)“从类型学上看古汉语定语标记“之”的语法话来源”语法化与语法化研究(一)》商务印书馆
张明莹(2007)“副词“才”的语义发展脉络”《云梦学刊》
张文贤 张易(2015)“副词“真”的主观性及其在汉语教学中的应用”《汉语学习》2015 年第 6 期
朱德熙(1961)“説“的”“《中国語文》六十一年十二期
朱德熙(1983)“自指和转指——汉语名词化标记“的者所之”的语法功能和语义功能”《方言》1
中华人民共和国教育部语言文字信息管理司(2012)《标点符号用法》

Alfonso, Anthony(1996) *Japanese Language pattern*. Sophia University, Tokyo
Yong-Xin Gao,Megumi Hasebe,Ying Bi,Can Wang,Wen-Qi Ren,Chun-Zhu Huo,Michael Sevier,Hideki maki(2016)”On the Particle Zhi in Old Chinese”, 『日本言語学会第 152 回大会予稿集』

例文出典

【原作】古川武士(2013)『「やめる」習慣』日本実業出版社
【訳本】施敏霞・译(2018)《译如何戒掉坏习惯》江西人民出版社

【原作】稲盛和夫(2006)『アメーバ経営』日本経済新聞出版社
【訳本】曹岫云・译(2015)《阿米巴经营》中国大百科全书出版社

【原作】北方雅人・久保俊介(2015)『稲盛流コンパ　最強組織をつくる究極の飲み会』日経 BP 社
【訳本】叶瑜・译(2016)《空巴：稻盛和夫手把手教你如何践行阿米巴》东方出版社

【原作】川村隆(2015)『ザ・ラストマン　日立グループのＶ字回復を導いた「やり抜く力」』角川書店
【訳本】朱悦玮・译(2017)《成为“最后一人”》江西人民出版社

【原作】古川武士(2012)『マイナス思考からすぐに抜け出す９つの習慣』Discover 21, Inc.
【訳本】沈英莉・译(2019)《去你的，小情绪》天津科学技术出版社

【原作】鈴木敏夫・勝見明(2016)『わがセブン秘録』プレジデント社
【訳本】王猛，程慧・译(2018)《7-Eleven 经营秘籍》中信出版社

【原作】稲盛和夫(2004)『生き方』サンマーク出版
【訳本】曹岫云・译(2014)《活法》东方出版社

【原作】増田宗昭(2020)『知的資本論文』CCC メディアハウス
【訳本】王健波・译(2017)《知的资本论——茑屋书店的经营之道—》中信出版社

【原作】黎万强(2014)《参与感：小米口碑营销内部手册》中信出版社
【訳本】藤原由希・訳(2015)『シャオミ　爆買いを生む戦略買わずにはいられなくなる新しいものづくりと売り方』日経 BP 社

【原作】刘润(2018)《新零售：低价高效的数据赋能之路》中信出版社
【訳本】配島亜希子・訳(2019)『事例でわかる 新・小売革命』CCC メディアハウス

【原作】由曦(2017)《蚂蚁金服——科技金融独角兽的崛起》中信出版社
【訳本】永井麻生子・訳(2019)『“アリペイ”を生み出した巨大ユニコーン企業アント・フィナンシャルの成功法則』日中信出版日本株式会社

【原作】廉薇,边慧,苏向辉,曹鹏程(2017)《蚂蚁金服：从支付宝到新金融生态圈》中国人民大学出版社
【訳本】永井麻生子・訳(2019)『アントフィナンシャル——１匹のアリがつくる新金融エコシステム』株式会社みすず書房

【原作】吴晓波(2017)《腾讯传》浙江大学出版社
【訳本】箭子喜美江・訳(2019)『テンセント知られざる中国デジタル革命トップランナーの全貌』株式会社プレジデント社

第８章の考察文献

冯梦龙(明)《警世通言》，中国画报出版社，2014 年 4 月出版
冯梦龙(明)《喻世名言》，三秦出版社，2014 年 1 月出版
孔子(春秋),金谷治訳註版(2001)『論語』,岩波書店
凌蒙初(明)《初刻拍案惊奇》， 天津古籍出版社，2003 年 3 月出版
凌蒙初(明)《二刻拍案惊奇》， 民主与建设出版社，2017 年 3 月出版
洪楩(明)《清平山堂话本》， 华夏出版社，2012 年 1 月出版
佚名(元)《全相平话》， 浙江人民美术出版社，2017 年 12 月出版

コーパス

北京大学中国言語学研究センター　CCL コーパス
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/
北京語言大学ビッグデータと言語教育研究所　BCC コーパス
http://bcc.blcu.edu.cn